



オムロン無停電電源装置（UPS）専用ソフトウェア

PowerAct Pro Master Agent

Windows Server 2012R2 編

インストールガイド



OMRON

ご使用上の注意

本ソフトウェアの用途について

本ソフトウェアは、OA 機器に使用することを目的に設計・製造されています。以下のような、極めて高い信頼性や安全性が要求される機器、用途には使用しないでください。

- ・ 人命に直接かかわる医療機器。
- ・ 人身の損傷に至る可能性のある用途。(航空機、船舶、鉄道、エレベータなどの運行、運転、制御などに直接関連する用途)
- ・ 車載、船舶など常に振動が加わる可能性がある用途。
- ・ 故障すると社会的、公共的に重大な損害や影響を与える可能性のある用途。(主要な電子計算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなど)
- ・ これらに準ずる機器、用途。

ソフトウェア使用許諾契約書について

このソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、次のソフトウェア使用許諾契約書（以下本契約）の内容が適用されることに同意いただく必要があります。ご同意いただけない場合には、このソフトウェアをダウンロードし、コンピュータにインストールし又は使用しないでください。

[ソフトウェア使用許諾契約書]

このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」）は、オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社（以下オムロン）がお客様に許諾ソフトウェア（第1項の定義による）を使用許諾する条件を定めたものです。

許諾ソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、本契約の内容が適用されることに同意いただく必要があります。

1. 本契約において、次の各号に掲げる用語の意味は、当該各号に定めるところによります。

- (1)「エンドユーザー」とは、オムロン UPS 及び許諾ソフトウェアが組み込まれたお客様製品を自己のもとで使用する最終使用者をいいます。
- (2)「お客様製品」とは、お客様が製造及び販売する機器又はシステムソフトウェアをいいます。
- (3)「オムロン UPS」とは、お客様又はエンドユーザーがオムロンから直接又は販売店その他の第三者を通して購入したオムロンの無停電電源装置（UPS）をいいます。
- (4)「許諾コンピュータ」とは、1台又は複数のコンピュータであって、お客様又はエンドユーザーが所有し、かつ、1台のオムロン UPS から電源供給を受けているものをいいます。
- (5)「許諾ソフトウェア」とは、コンピュータ・プログラム「PowerAct Pro」及びそれに関連する一切のドキュメントで当該プログラムとともに配付されるものをいいます。

2. オムロンは、お客様に対し、本契約に基づき許諾ソフトウェアに関し次に掲げる非独占的権利を許諾します。

- (1)オムロン UPS を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物を作成し、許諾コンピュータにおいて当該複製物を使用する権利。
- (2)オムロン UPS を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物をオブジェクトコードの形式

で作成し、オムロン UPS 及び許諾ソフトウェアを組み込んだお客様製品の一部として直接又は販売店その他の第三者を通してエンドユーザーに対しこれを頒布する権利。

(3)前号による頒布の目的に限り、ハードディスクドライブのクローニング（複製）のためのマスター・ハードディスクドライブ（ハードディスクドライブ・イメージを含む）の一部としてオブジェクトコード形式で許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利。

(4)バックアップの目的に限り、一つの許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利。

3. 許諾ソフトウェアは、前項により使用許諾されるものであり、許諾ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権が本契約に基づきお客様に移転することはありません。お客様は、前項に基づき明示的に許諾されたものを除き、許諾ソフトウェアに関する次に掲げる行為を行うことはできません。

(1)複製又は改変

(2)第三者への再使用許諾、譲渡又は貸与

(3)逆コンパイル、逆アセンブリ、リバースエンジニアリングその他これらに類する行為

(4)外国為替及び外国貿易管理法その他お客様に適用される輸出管理規制に違反する行為

4. お客様は、許諾ソフトウェアに含まれる情報を機密として取扱い、第三者へ開示しないものとします。

5. お客様が許諾ソフトウェアのライセンスを購入した日又はお客様が許諾ソフトウェアをインストールした日のいずれか早く到来する日から 90 日以内に許諾ソフトウェアの作動のマニュアルへの重大な不一致があることを発見してオムロンにその旨を通知した場合、オムロンは、当該不一致が当該期間内にお客様から書面で報告され、かつ、再現可能であるときに限り、オムロンの費用負担で当該許諾ソフトウェアを交換し又は当該不一致を修正いたします。

当該交換又は修正によって当該不一致のすべてが除去されるものではありません。

オムロンは、オムロンの選択により、当該交換又は修正に代えてお客様が許諾ソフトウェアを購入するために支払った費用を返金することができます。この場合、この契約は終了します。

上記にかかわらず、当該不一致がお客様又は第三者によるオムロン UPS 若しくは許諾ソフトウェア又はコンピュータの不適切な使用又は取扱いにより生じた場合、取扱説明書の指示に従わなかったことにより生じた場合又は使用されることが意図されていない設備機器とともに使用された場合については、上記の許諾ソフトウェアの交換又は修正の対象外となります。さらに、この項の最初の段落にかかわらず、ユーザーがオムロン UPS に同梱の記録媒体又はオムロンのウェブページからのダウンロードにより許諾ソフトウェアを無償で入手した場合、許諾ソフトウェアは、現状有姿で提供され、この項は適用されません。

6. 前項は、オムロンの許諾ソフトウェアの作動及び不動作に関する責任のすべてを定めるものであり、オムロンは許諾ソフトウェアの作動及び不動作により発生した、お客様の直接的、間接的、あるいは波及効果による損害、特別な事情による損害、逸失利益についての損害に対しては一切の責任を負いません。

7. オムロンは、お客様が許諾ソフトウェアを他社のソフトウェアと連携させて使用した場合の許諾ソフトウェアの目的適合性、動作性、第三者の知的財産権の非侵害及び合法性については、一切の保証をいたしかねます。お客様ご自身にてご確認いただき、許諾ソフトウェアのご利用の可否をご判断ください。

8. 許諾ソフトウェアの改変並びに逆コンパイル、逆アセンブリ及びリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為により、特許権（実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ）、著作権又は営業秘密を侵害するものとしてオムロンに使用を許

諾している第三者又は当該第三者以外からお客様が請求された場合にはオムロンは責任を負いません。

9. オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様が許諾ソフトウェアにより監視及び管理している無停電電源装置（UPS）の購入代金として支払った金額又は許諾ソフトウェアのライセンスの購入代金として支払った金額のいずれか低い方の金額を超えることはありません。
10. お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することにより許諾ソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。
その場合、お客様は許諾ソフトウェア及びそのすべての複製物をオムロンに返却し又は削除しなければなりません。
11. 本契約は、日本国法に基づき解釈されるものとします。
12. お客様が日本に居住する個人又は日本法に基づき設立された法人の場合には、本契約に関する一切の紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属的合意管轄裁判所とします。
その他の場合には、本契約に関する一切の紛争については、一般社団法人日本商事仲裁協会の商事仲裁規則にしたがって、東京において仲裁により最終的に解決されるものとします。
仲裁人の裁定は、最終的かつ本契約の当事者を拘束するものとします。

運用に関するおことわり

1. 本ソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を無断で流用することは固くお断りいたします。
2. 本ソフトウェアおよび本書の内容については将来、予告なしに変更する場合があります。
3. 本ソフトウェアおよび本書の内容については万全を期しておりますが、万一誤りやお気づきの点がございましたら、当社までご連絡くださるようお願いいたします。
4. 本書に記載した画面などは、実際のものとは一部異なる場合があります。
 - 「PowerAct Pro」はオムロン株式会社の登録商標です。
 - Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
 - その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本書の読み方


本書の構成

本書は以下の内容で構成されています。

はじめに	本ソフトウェアの特徴と、全体のシステム構成について記述
インストール	本ソフトウェアのインストールの前提条件と、IIS を使用する、Web サーバを使用しない、2 種類のインストール方法について記述
シャットダウン動作の確認	シャットダウン時の動作設定やシャットダウンテストの実行方法について記述
こんなときには	トラブルシューティング
付録	動作シーケンスについて記述

本書で使用する表記

本書では、以下の表記を使用しています。

表記	意味
注意	守っていただきたい事項、操作上の注意を要する事項を記載しています。 記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。
参考	役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。
	関連する情報や操作方法を記載しています。
本ソフトウェア	「PowerAct Pro Master Agent」を指します。
マスタ	「PowerAct Pro Master Agent」を指します。
当社ホームページ	以下の URL をご参照ください。 https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/index.html
[]	画面に表示される項目で、操作対象のもの（クリックできるボタン類）は [] で記載しています。
[]	上記以外の画面に表示される項目や、リンク先については「 」で記載しています。

目次

ご使用上の注意	1
本書の読み方	4
目次	5
1 はじめに	7
1-1 特徴と機能	7
1-2 機器の接続と運用	8
1-2-1 コンピュータを 1 台接続する場合	8
1-2-2 コンピュータを 2 台以上接続する場合	8
1-2-3 仮想化 OS の構成例	10
1-3 インストールの種類	11
1-4 インストールの手順と動作確認	12
2 インストールの準備	13
2-1 インストールの前に	13
2-2 動作環境	13
3 インストール方法 – IIS を使用する場合 –	14
3-1 IIS の有効化と設定	14
3-2 本ソフトウェアのインストール	23
3-3 セキュリティとポップアップブロックの設定	31
3-4 サーバ証明書のインストール	36
4 インストール方法 – Web サーバを使用しない場合 –	41
4-1 本ソフトウェアのインストール	41
5 シャットダウン動作の確認	49
5-1 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ使用 –	49
■基本設定（必ず使う設定）	51
■応用設定（環境により使う設定）	52
5-2 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ不使用 –	53
■基本設定（必ず使う設定）	エラー! ブックマークが定義されていません。
■応用設定（環境により使う設定）	エラー! ブックマークが定義されていません。

5-3 シャットダウンテスト.....	57
6 アンインストール（削除）方法.....	59
6-1 本ソフトウェアのアンインストール.....	59
7 こんなときには.....	61
7-1 「HTTP ポートをチェック」の警告が出たら.....	61
7-1-1 本ソフトウェアのインストール途中でポート番号を変更する.....	61
7-1-2 インストール完了後に HTTP ポート番号を変更する.....	63
7-2 UPS と通信できない.....	68
7-2-1 USB 接続の場合.....	69
7-2-2 Web サーバ使用環境.....	70
7-2-3 Web サーバ不使用環境.....	72
■通信ポートを「自動」で設定する.....	72
■通信ポートを「手動」で設定する.....	77
7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合.....	83
7-3 復電時にサーバを自動起動させる.....	85
7-3-1 UPS とサーバの自動起動設定.....	85
7-3-2 UPS 停止前に復電した場合にコンピュータが自動起動しない.....	87
■Web サーバ使用環境.....	87
■Web サーバ不使用環境.....	88
付 録.....	90
付-1 シャットダウン動作シーケンス.....	90
付-1-1 初期設定値の動作シーケンス.....	90
付-1-2 応用設定した場合の動作シーケンス.....	91
付-1-3 UPS の出力停止前に復電した場合の注意点.....	92

1 はじめに

1-1 特徴と機能

自動シャットダウンソフト PowerAct Pro MasterAgent（以下、本ソフトウェア）は、冗長電源や出力コンセント制御などの機能を搭載した電源管理ソリューションです。

本ソフトウェアには以下の機能があります。

スケジュール運転	UPS の停止、起動や自己診断テストを行うことができます。
連携シャットダウン	ネットワーク上の複数のサーバやクライアントを連携してシャットダウンさせることができます。
出力コンセント制御	出力コンセント制御機能を搭載した UPS と本ソフトウェアを組み合わせることにより、コンセントグループ毎に出力停止／開始時間を制御することができます。
GUI	グラフィカルな画面で各種設定をすることができます。
仮想化サーバ対応	Hyper-V/VMware に対応し、複数のゲスト OS をシャットダウンすることができます。ゲスト OS へのインストールは不要です。
スクリプトシャットダウン	ソフトウェアをインストールできないアプライアンスサーバ等も、スクリプトを使ってシャットダウンできます。
ping 監視・モバイル端末監視	Ping 応答による接続機器の死活監視やネットワーク上の端末の稼働状況監視、モバイル端末からのコンセント制御（リポート）ができます。
SNMPv3 対応	SNMPv3 に対応し、セキュアな環境でネットワーク上の電源管理ができます。
CO2 監視機能	接続機器の消費電力から、CO2 排出量を手軽に測定できます。スケジュール運転機能と併用すれば、夜間・休日は、機器の稼働を停止させることで CO2 や電気料金の削減ができます。

参考

自動シャットダウンソフトとは

自動シャットダウンソフトは無停電電源装置（以下、UPS）に併用するソフトウェアで、一定時間内にシステムを正常終了させ、ハードディスクやシステムファイルの破損等を防ぎます。

サーバーやコンピュータ等のシステムを UPS に接続される場合は、自動シャットダウンソフトのセット使用を推奨します。

1-2 機器の接続と運用

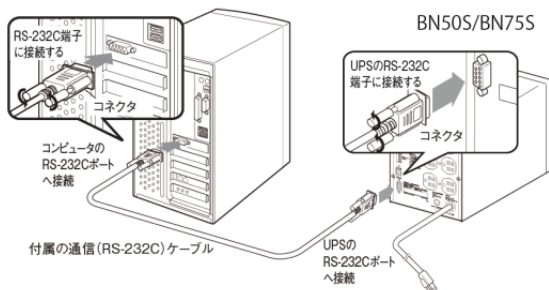
PowerAct Pro はマスタとスレーブ、2つのソフトウェアで構成されます。

<p><u>マスタ</u> (Master Agent)</p>	<p>UPS を管理するソフトウェアで、USB 又は RS232C ケーブル経由で常時 UPS を監視します。停電時のシャットダウンやスケジュール運転、出力コンセント制御機能等を持っています。</p> <p>UPS 1台につき、マスタは1台です。</p>
<p><u>スレーブ</u> (Slave Agent)</p>	<p>マスタの命令に従い OS をシャットダウンするソフトウェア。</p> <p>マスタとはネットワーク通信で連携します。</p>

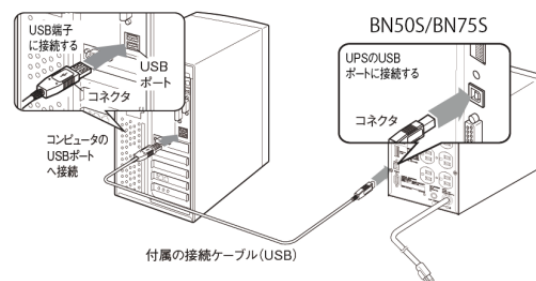
1-2-1 コンピュータを1台接続する場合

UPS 付属の通信ケーブルでコンピュータと UPS を接続し、本ソフトウェアをインストールします。

< RS-232C 接続 >



< USB 接続 >



1-2-2 コンピュータを2台以上接続する場合

■ サーバ（または、一番長く稼働しているコンピュータ）

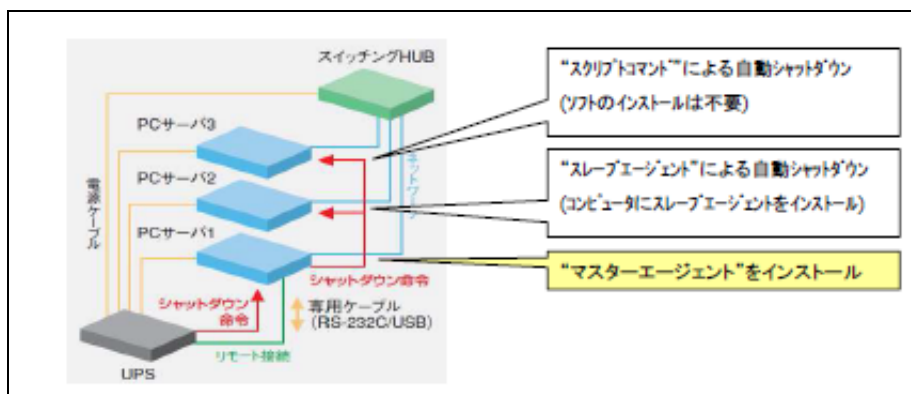
UPS 付属の通信ケーブルでコンピュータと UPS を接続し、本ソフトウェアをインストールします。

■ コンピュータ（UPS と直接通信しないコンピュータ）

以下のどちらかの方法で本ソフトウェアと連携させてください。

- ① スレーブをインストールする（スレーブ対応 OS）
- ② 本ソフトウェアからスクリプトコマンドを発行する（スレーブ非対応 OS 等）

UPS に複数のコンピュータを接続する場合



参考

- ・スレーブのインストール方法については別紙のインストールガイドを参照してください。
- ・コンピュータとUPSの接続にはRS232CまたはUSBのどちらか一方のみを使用してください。
- ・各コンピュータは同一セグメント上のネットワークに接続してください。

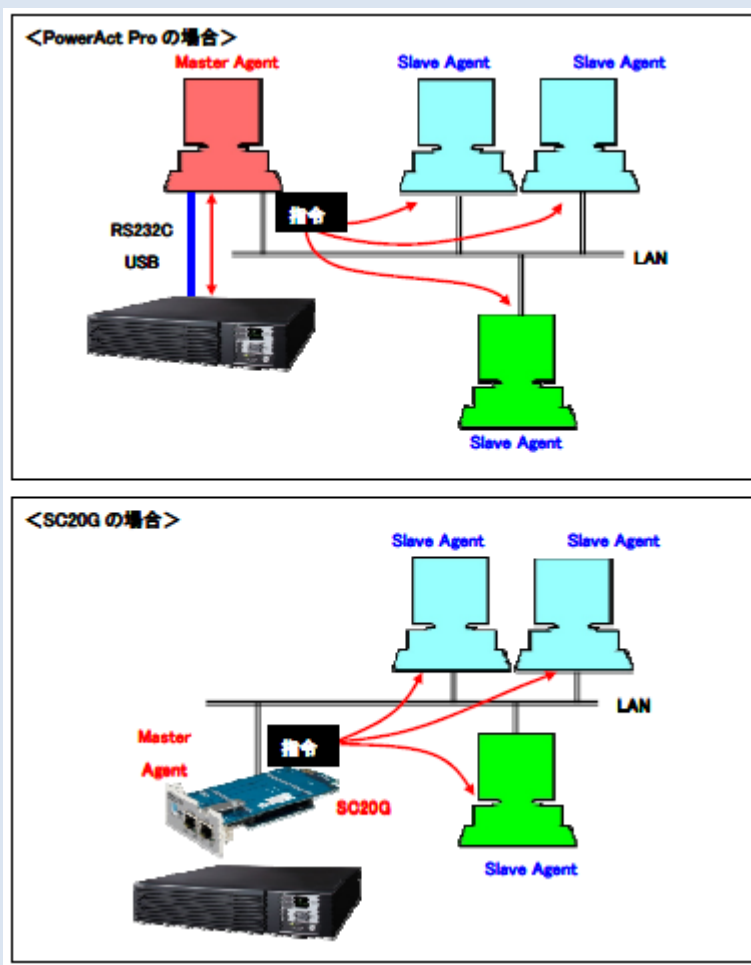
(例)

■ マスタ

- ・UPSとRS232C(またはUSB)で直接接続されたサーバ、コンピュータにインストールする
- ・UPSの監視/制御、LANで接続されたサーバ、コンピュータの停止/起動も一元的に管理する
- ・UPSに実装して使用される「SC20G/SC20G2/SC21」もUPSを直接制御するため、マスタとして機能する

■ スレーブ

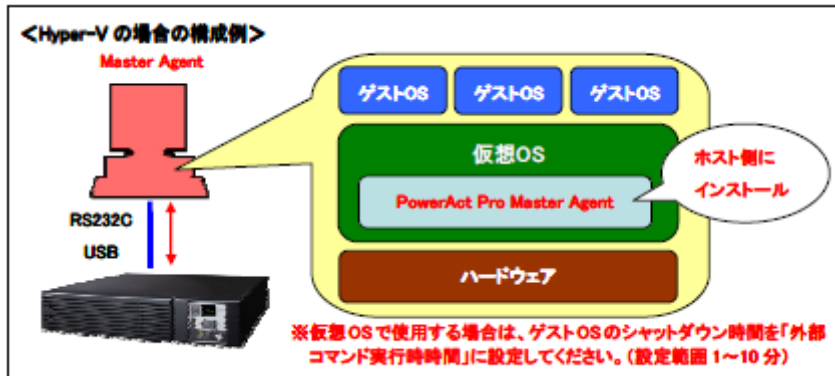
マスタからの指示に従い、コンピュータをシャットダウンする



1-2-3 仮想化 OS の構成例

Windows Server の Hyper-V 機能による仮想環境で使用する場合は、ホスト側に本ソフトウェアをインストールします。

- ・ マスタ/スレーブともにインストール可能です
- ・ マスタをインストールする場合は、RS232C または USB で接続してください
- ・ スレーブをインストールする場合は、同一セグメントのネットワーク内にマスタが必要です



参考

ゲスト OS の終了処理は、ホストにインストールした本ソフトウェア又はシステム側で行いますので、ゲスト OS にインストールする必要はありません。

1-3 インストールの種類

本ソフトウェアは Web モニタ画面で各種設定、UPS の管理を行います。

モニタ画面を表示する為に、Web サーバを併用します。Web サーバは、WindowsOS 標準サービスの IIS (Internet Information Services) を使用します。

なお、ブラウザを使わずにコンソールから制御する方法もあります。

ご利用の環境に合わせて、インストール方法を選択してください。

IIS を使用する場合	P.14 参照
Web サーバを使用しない場合	P.41 参照

参考

Web サーバを使用しない場合、GUI では簡単なシャットダウン項目のみの設定になります。

☞ P.53 「5-2 シャットダウンパラメータの設定 - Web サーバ不使用 -」

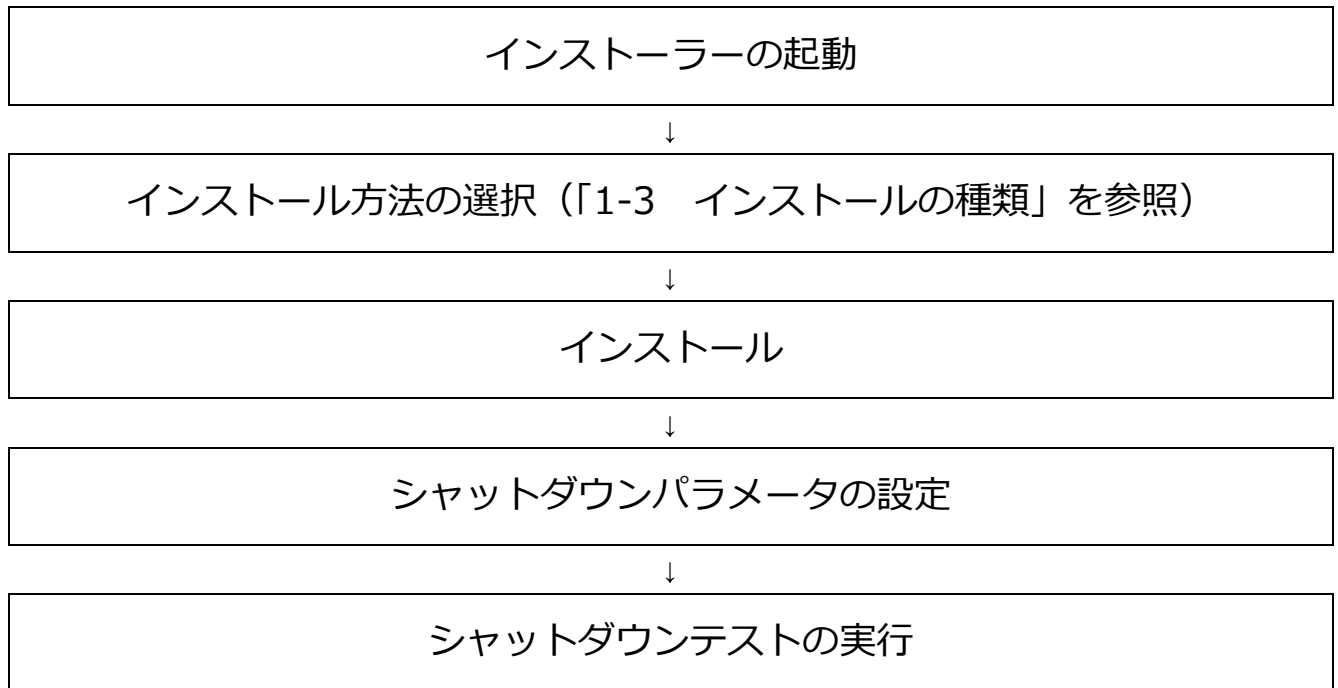
簡単なシャットダウン項目以外はコンソールを使用して設定します。コンソールの設定方法については、別冊の『コンソール設定ガイド』を参照してください。

モニタ画面



1-4 インストールの手順と動作確認

以下の手順で本ソフトウェアのインストールと動作の確認をします。



2 インストールの準備

2-1 インストールの前に

インストールを開始する前に、以下の事項をご確認ください。

- ・ Administrator 権限のあるユーザ名で OS にログインしてください。
- ・ ご環境で OS が正常に終了できることを確認してください。
- ・ 他の自動シャットダウンソフトを使用している場合は、必ずそのソフトウェアをアンインストールし、OS を再起動してください。各ソフトウェアのアンインストール方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。
- ・ UPS 付属の通信ケーブルでサーバと UPS を接続してください。

注意

本ソフトウェアは、オムロン製 UPS およびオムロン製 OEM 供給品の UPS 以外では使用できません。

2-2 動作環境

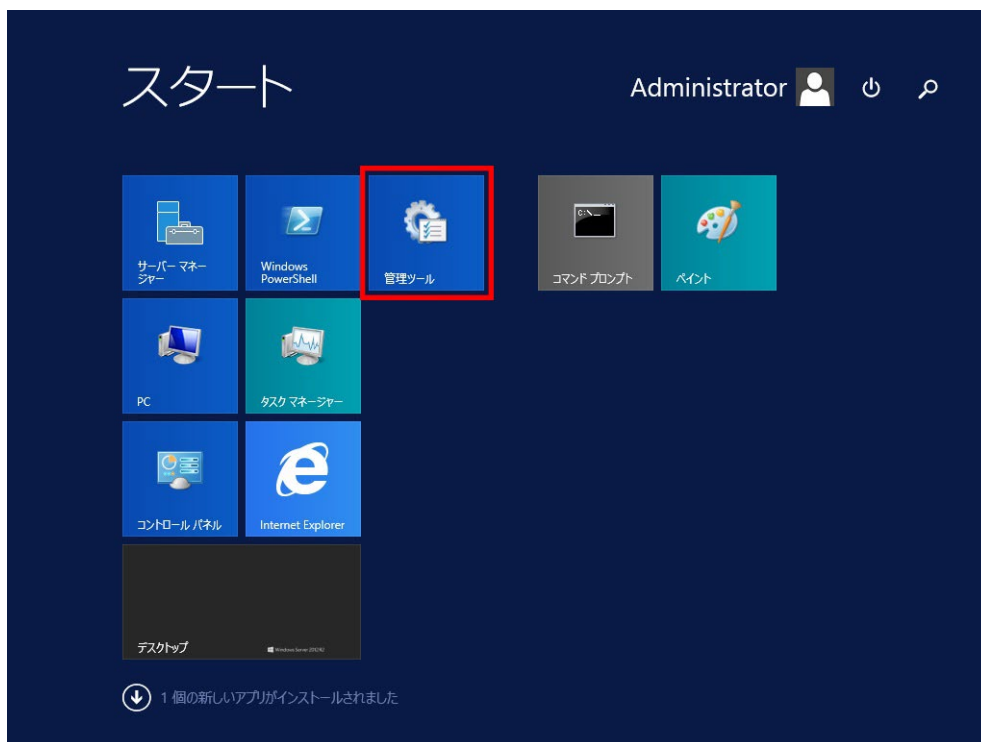
最新の動作環境については当社ホームページをご参照ください。

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/index.html

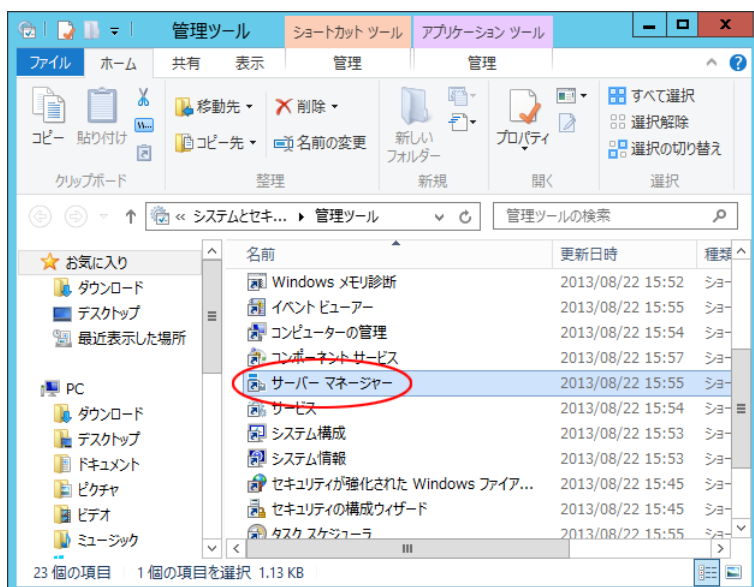
3 インストール方法 – IIS を使用する場合 –

3-1 IIS の有効化と設定

- 1 [スタート] ボタン→ [管理ツール] をクリックする



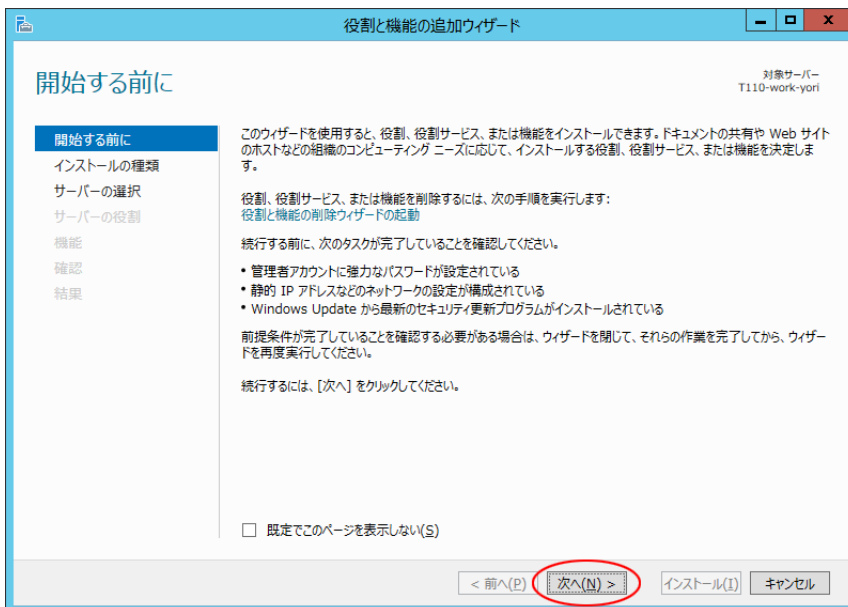
- 2 [サーバー マネージャー] をダブルクリックする



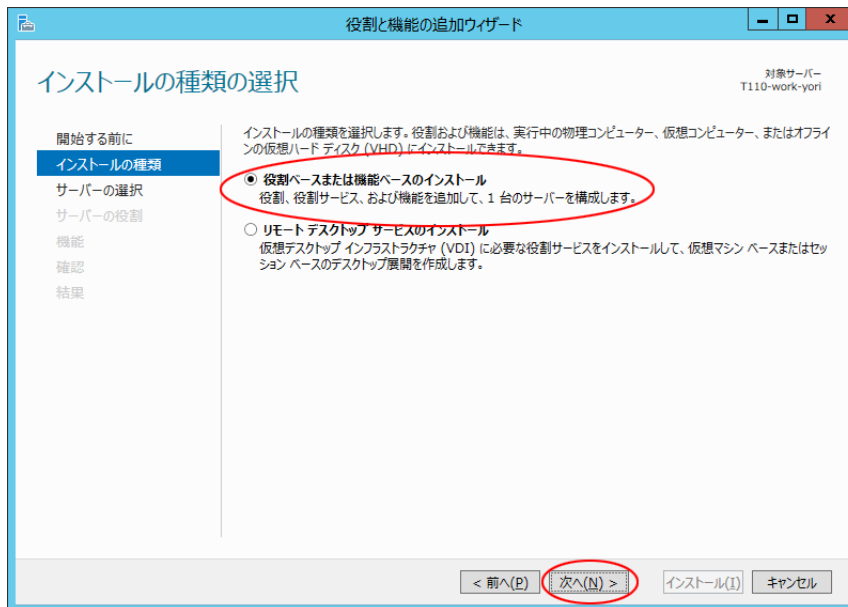
3 [管理(M)] をクリックして、[役割と機能の追加] を選択する



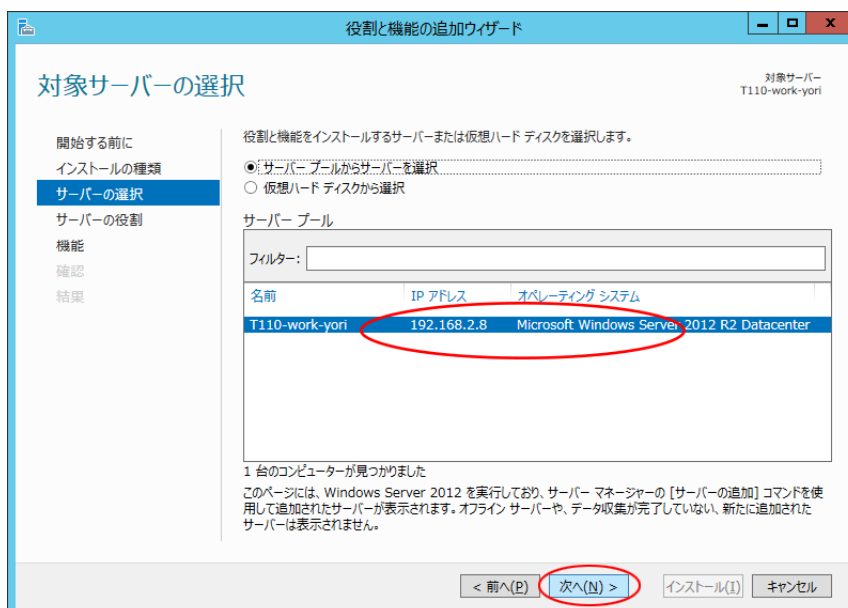
4 [次へ(N)] ボタンをクリックする



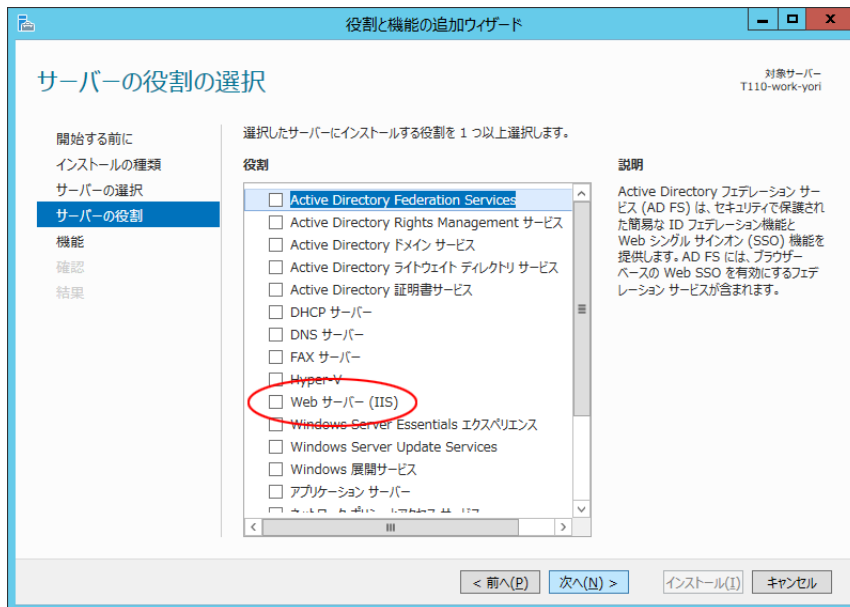
5 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックする



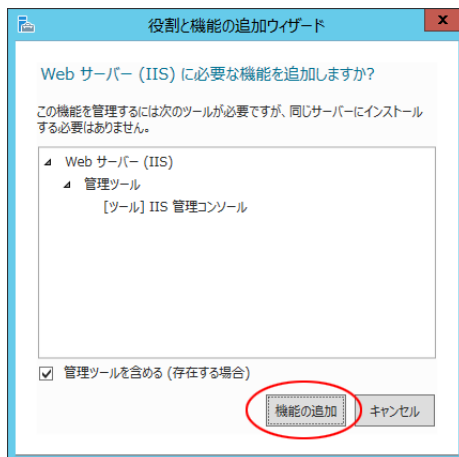
6 サーバーを選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックする



7 「Web サーバー(IIS)」をクリックする



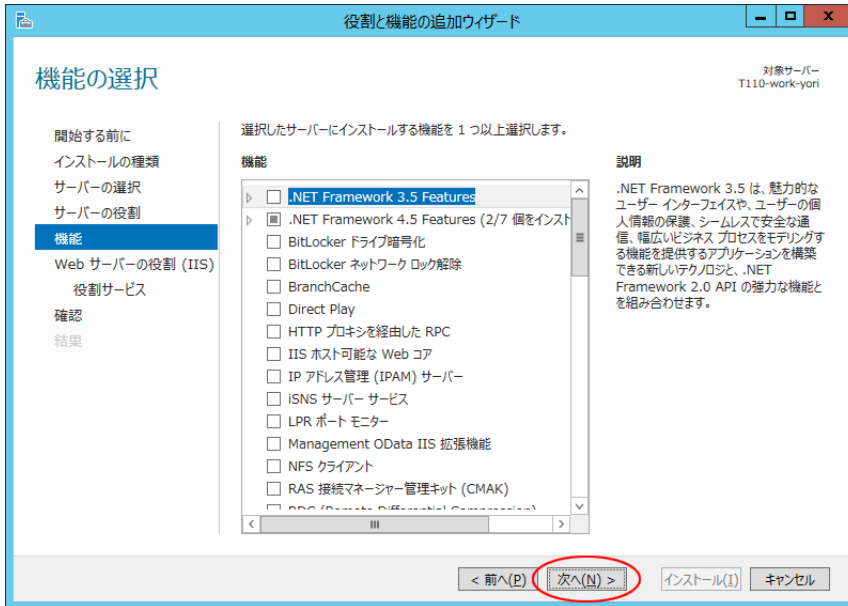
8 [機能の追加] ボタンをクリックする



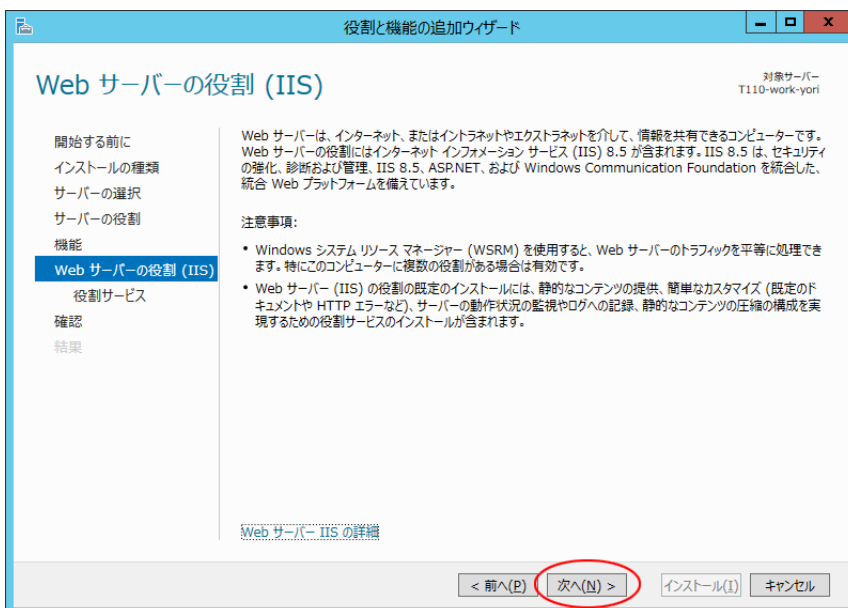
9 「Web サーバー(IIS)」にチェックが入ったことを確認し [次へ(N)] ボタンをクリックする



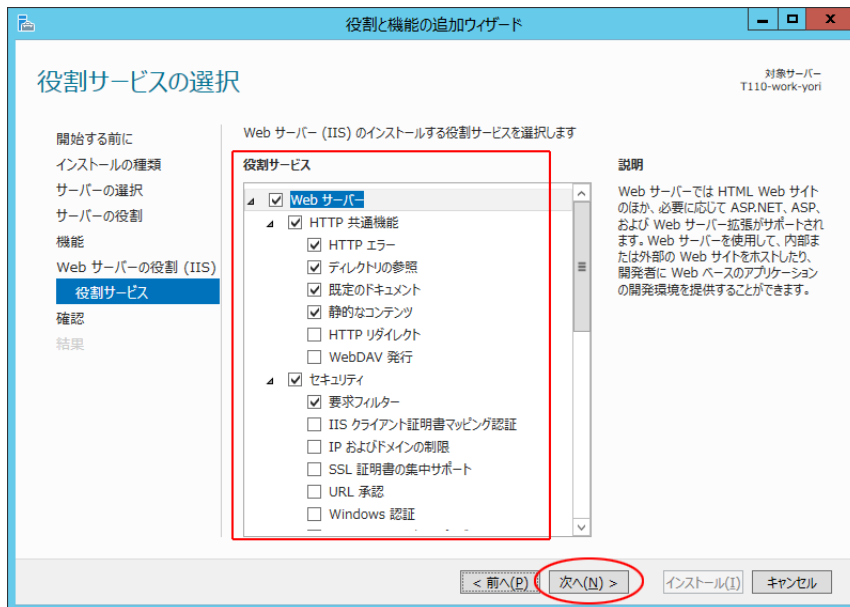
10 [次へ(N)] ボタンをクリックする



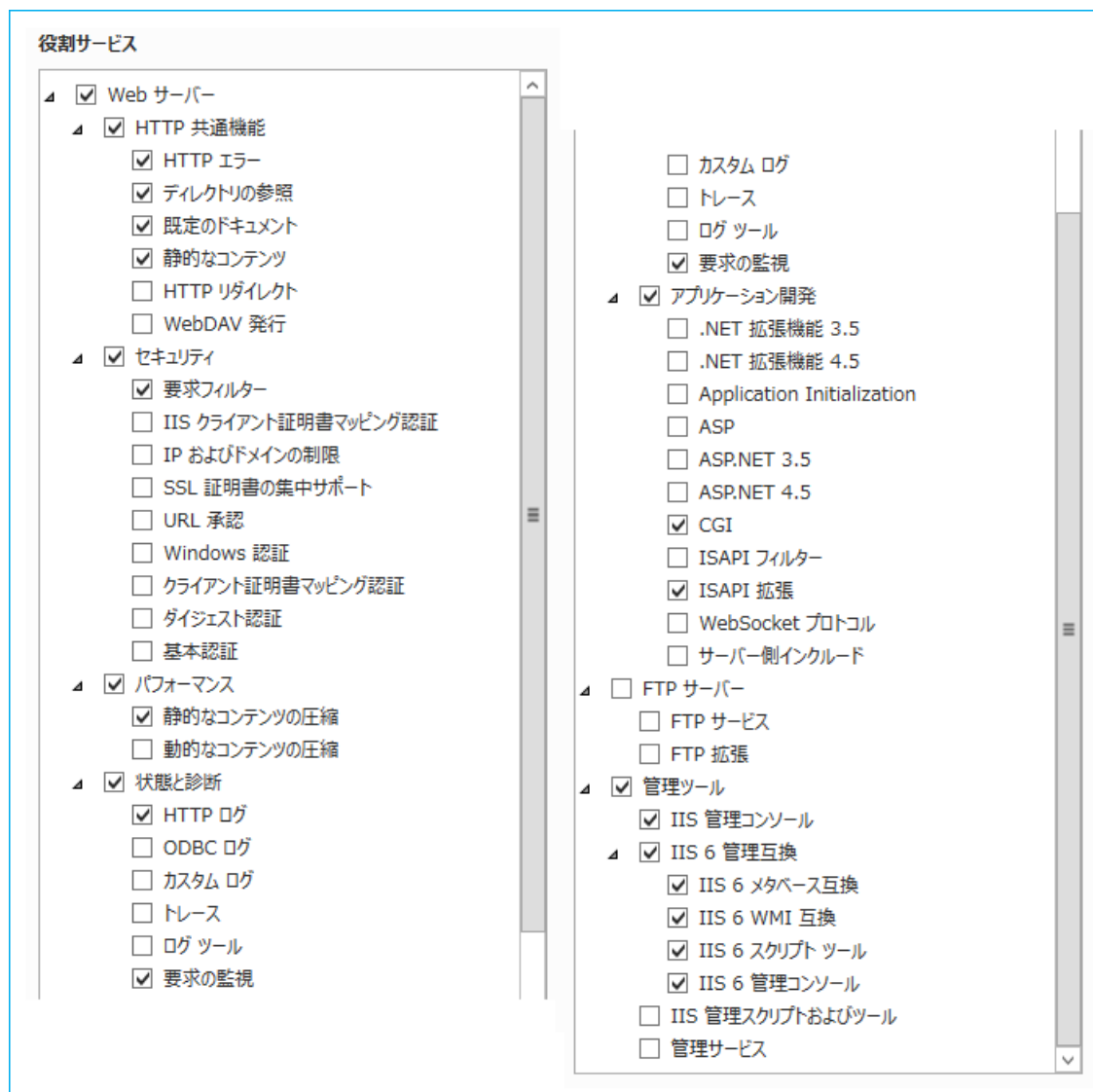
11 [次へ(N)] ボタンをクリックする



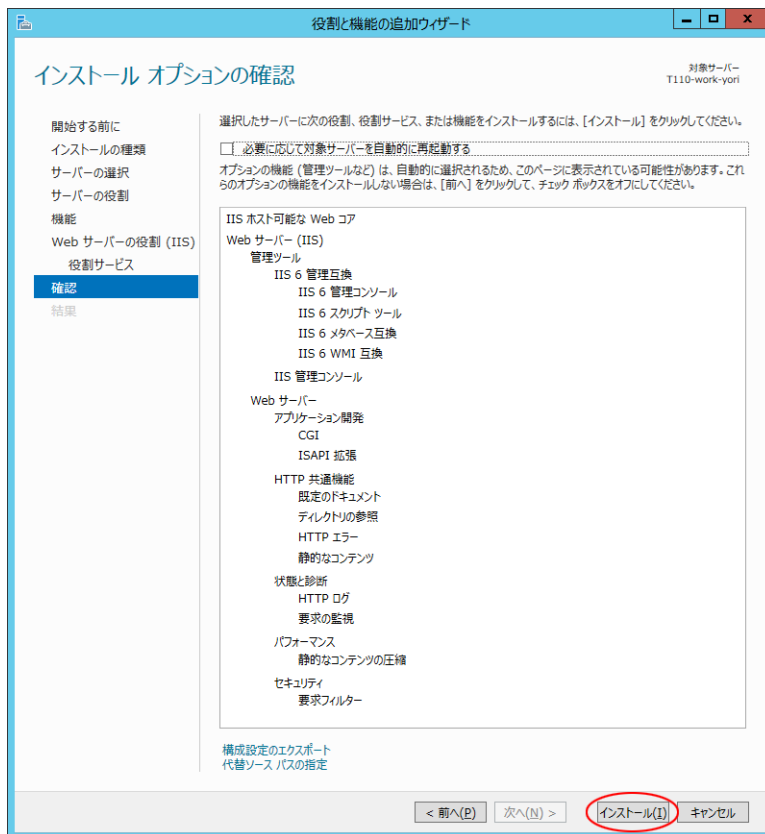
12 「チェック項目」を参照の上、追加する項目をチェックし [次へ(N)] ボタンをクリックする



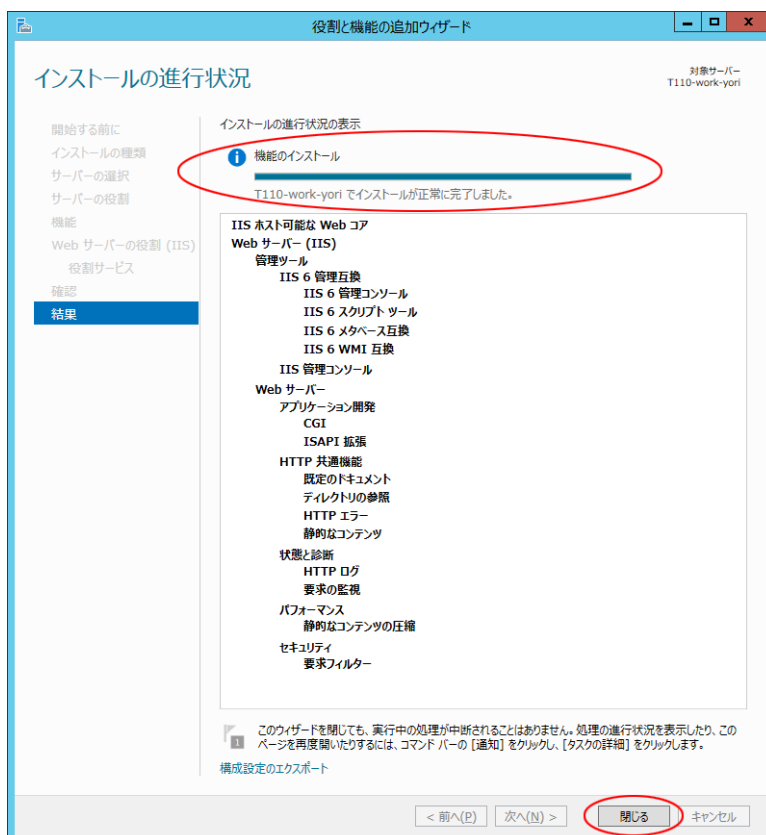
■ チェック項目



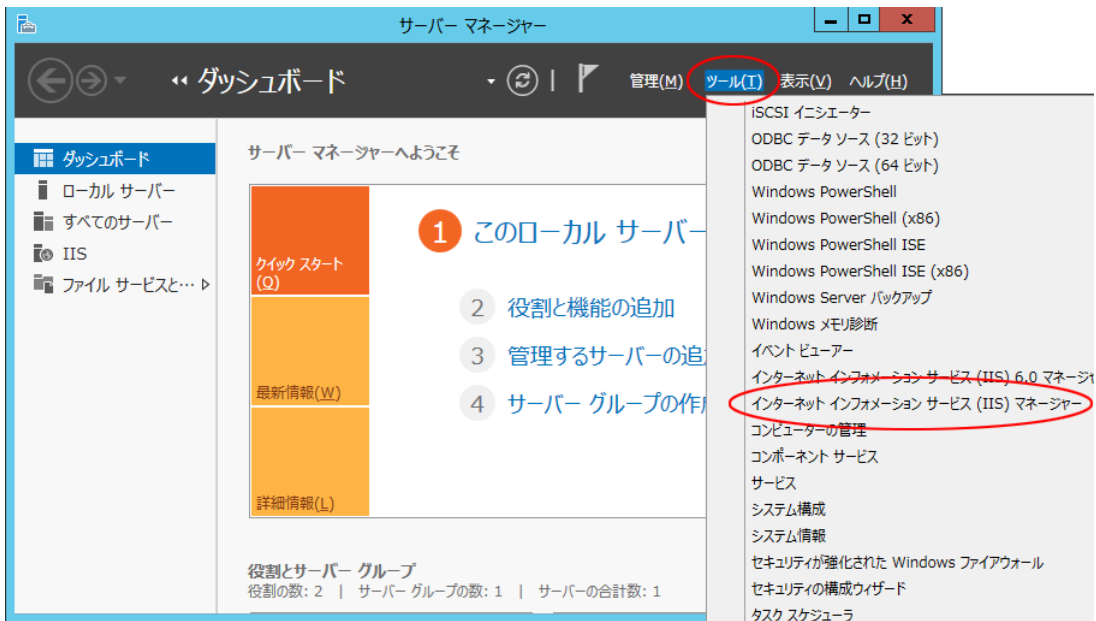
13 「インストール(I)」 ボタンをクリックする



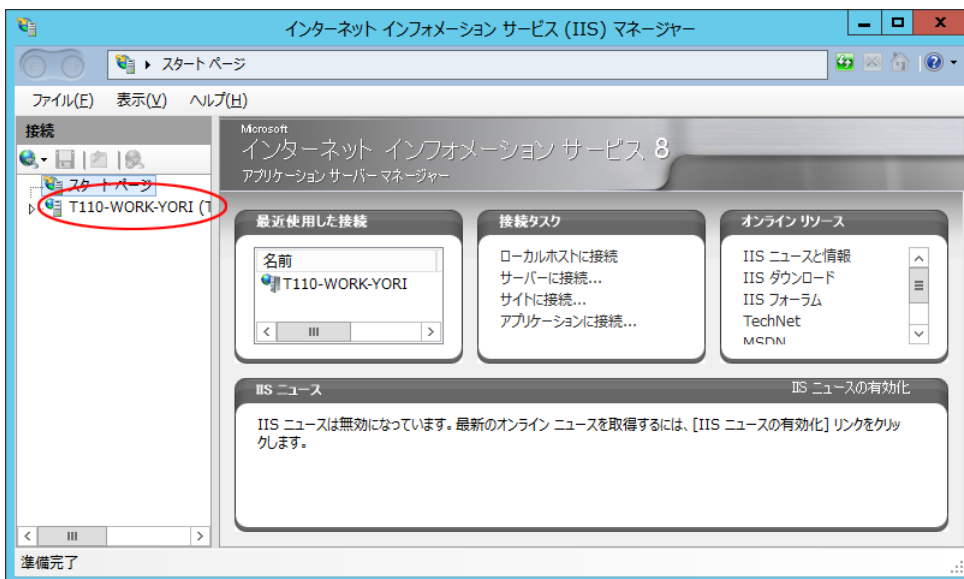
14 「インストールが正常に完了しました」のメッセージを確認し [閉じる] ボタンをクリックする



15 [ツール(T)] → [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー] をクリックする

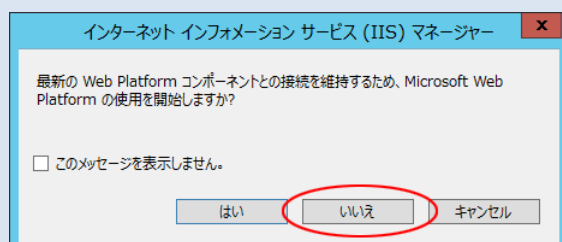


16 「接続」メニューのサーバ名をクリックする

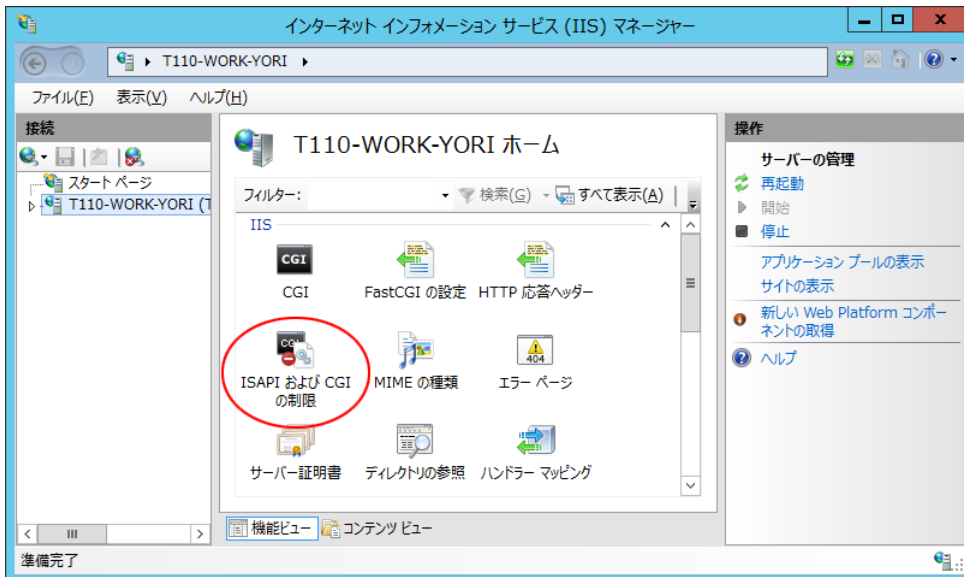


参考

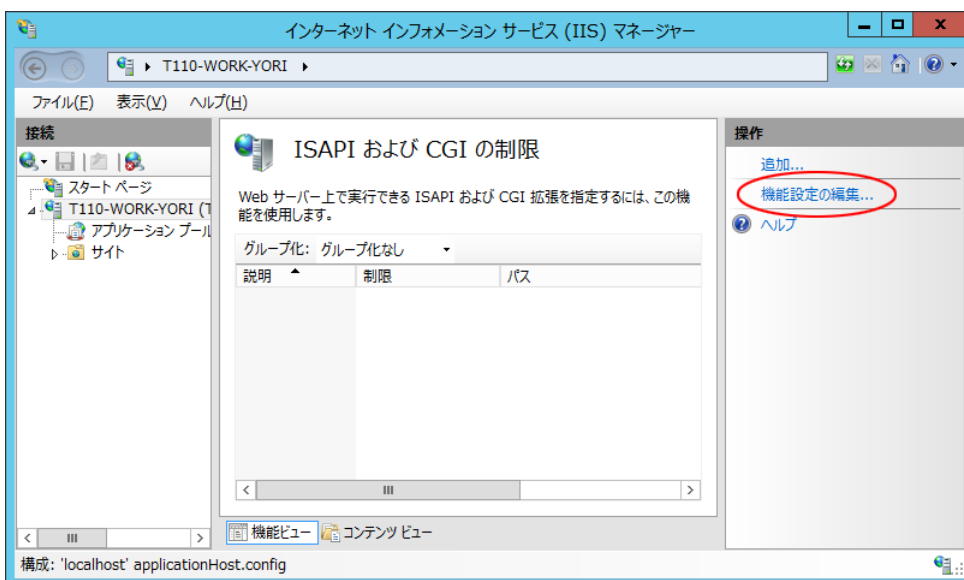
環境によっては以下確認画面が出ることがあります。この場合は「いいえ」を選択してください。



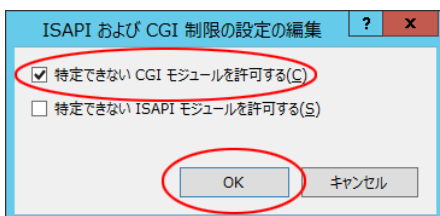
17 「ISAPI および CGI の制限」 をダブルクリックする



18 「操作」 メニューの 「機能設定の編集」 をクリックする



19 「特定できない CGI モジュールを許可する(C)」 をチェックし 「OK」 ボタンをクリックする



以上で IIS の有効化と設定は終了です。

「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」、「サーバーマネージャー」画面を閉じて、P.23 「3-2 本ソフトウェアのインストール」に進みます。

3-2 本ソフトウェアのインストール

- 1 [当社ホームページ](#)より本ソフトウェアをダウンロードする

ファイル名 : PAPV516_Master_Windows.zip

- 2 ダウンロードした「PAPV516_Master_Windows.zip」を解凍する

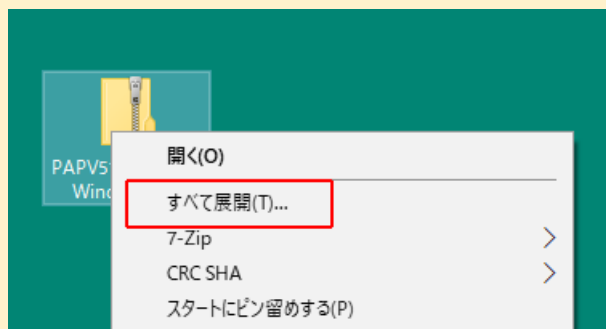
参考

「PAPV516_Master_Windows.zip」を解凍すると、「PAPV516_Master_Windows」フォルダが作成されます。

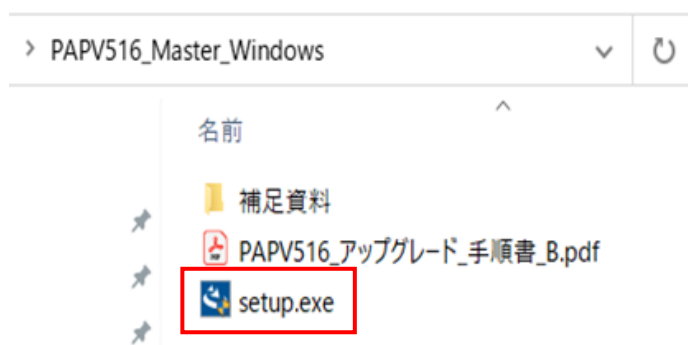
注意

ダウンロードしたファイルが「フォルダにチャックのついたアイコン」の場合、ダブルクリックでは正常に解凍できないことがありますので、必ず、以下の方法で解凍してください。

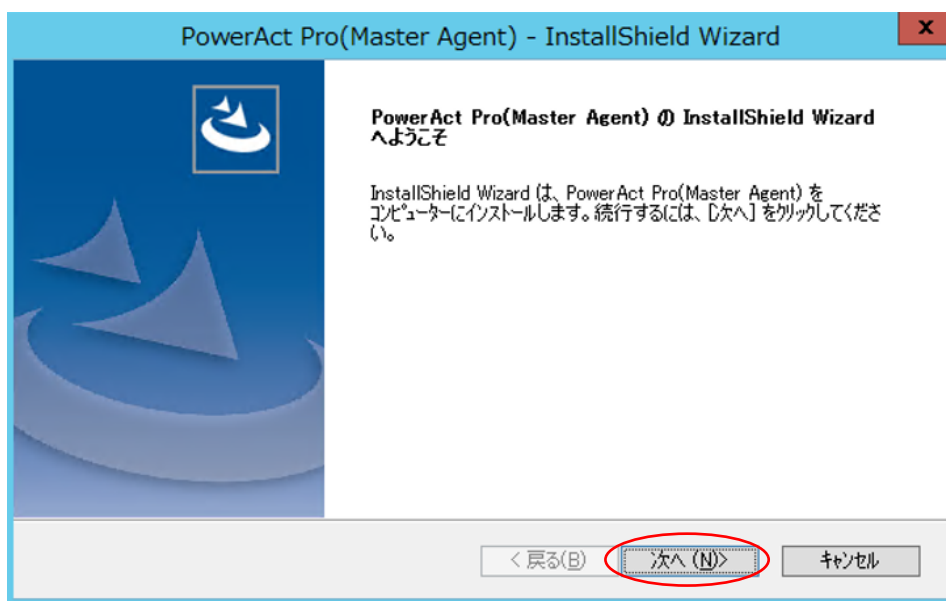
- ① PAPV516_Master_Windows.zip アイコンを右クリックする
- ② コンテキストメニューの「すべて展開(T)」をクリックし、デスクトップ等、分かり易い場所を指定する



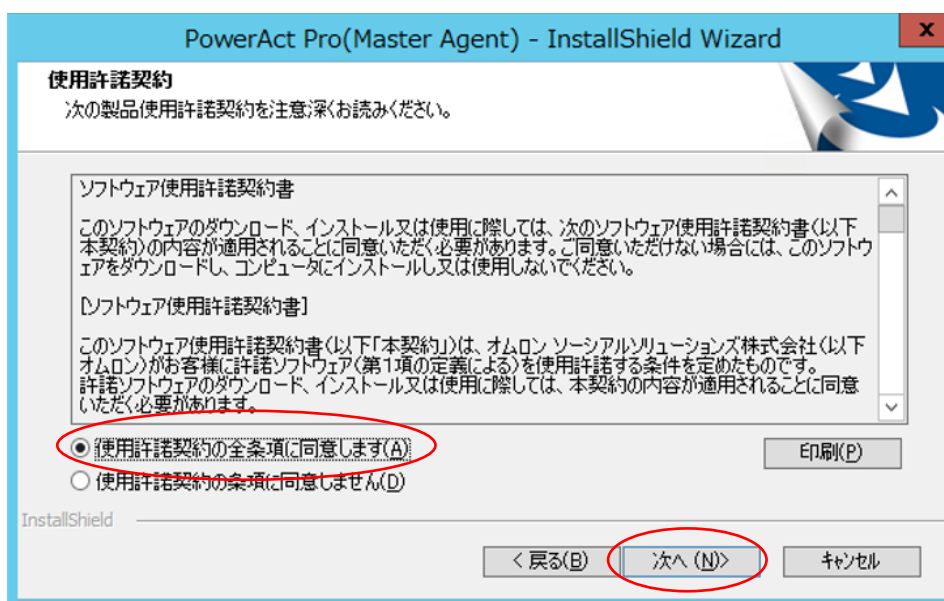
- 3 「PAPV516_Master_Windows」フォルダを開き、setup.exe をダブルクリックする



4 [次へ(N)] ボタンをクリックする

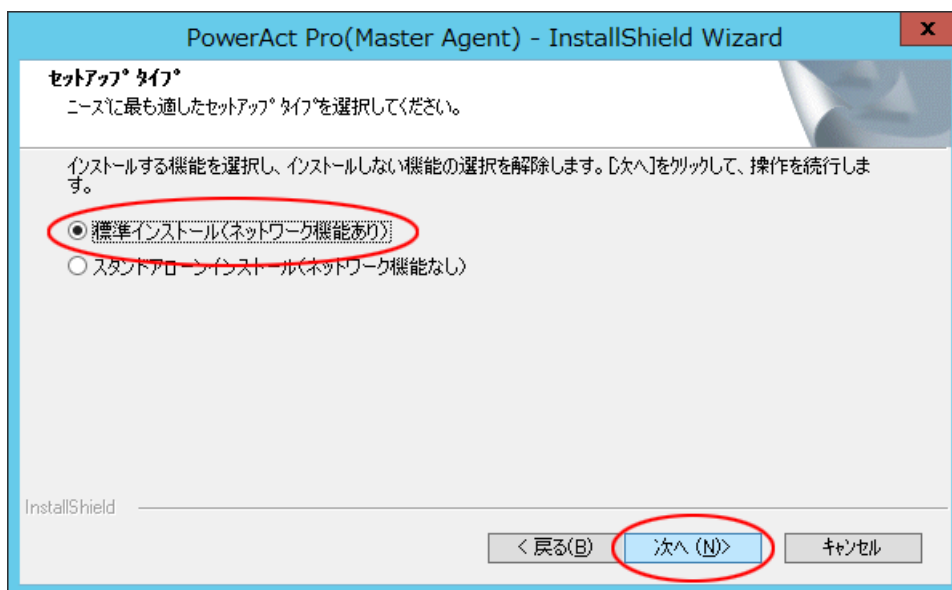


5 「使用許諾契約」に同意いただければ、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックする

**参考**

使用許諾契約に同意いただけない場合は本ソフトウェアを使用できませんので、[キャンセル] ボタンをクリックしインストールを中止してください。

- 6 「標準インストール (ネットワーク機能あり)」 を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックする

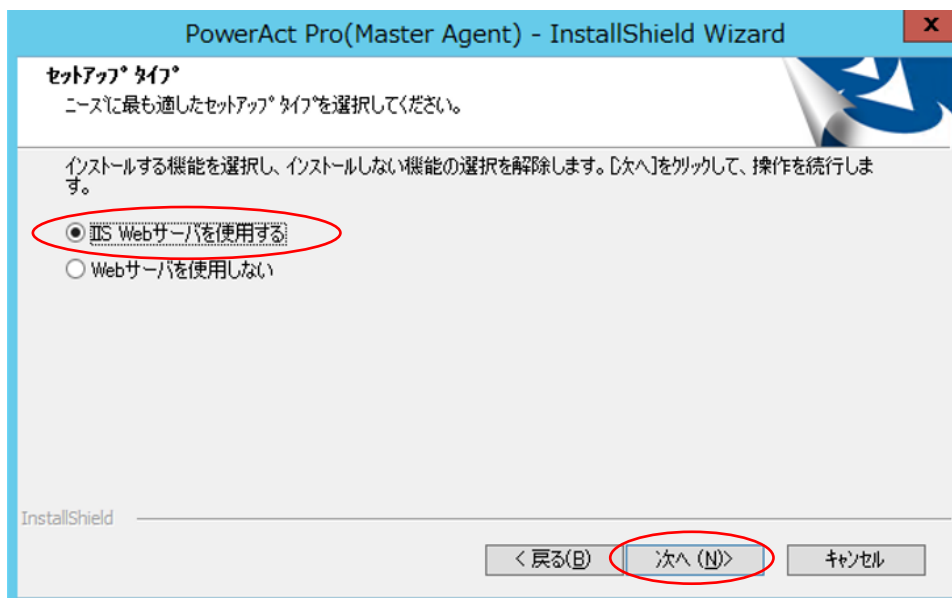


参考

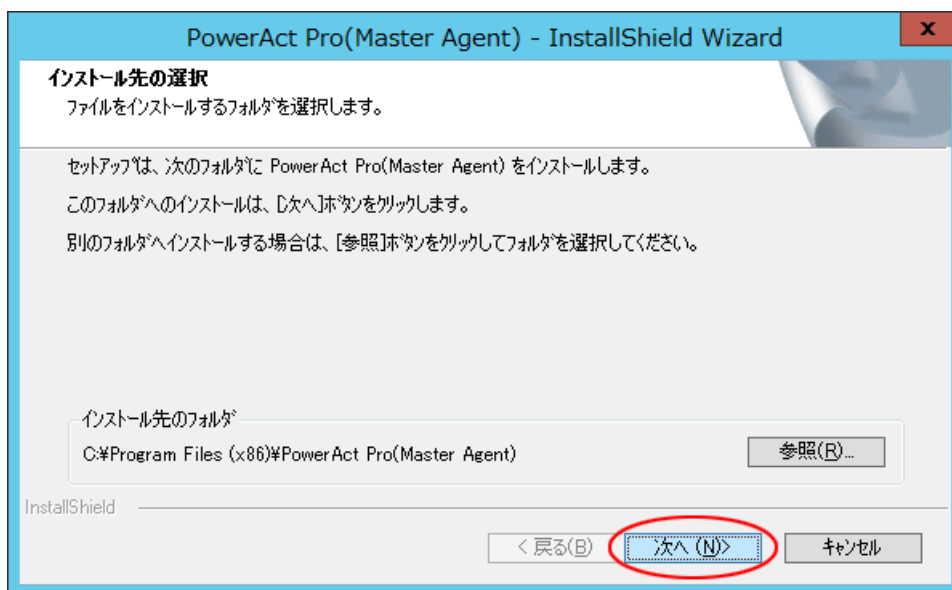
「標準インストール」を選択した場合は、ネットワークを経由して以下の機能を利用することができます。

- ・ Web モニタ画面で UPS の状態確認や制御、各種設定
- ・ スレーブをインストールしたコンピュータのシャットダウン
- ・ SNMP を利用したシャットダウン警告や指定したコンピュータへの UPS の動作情報の通知

- 7 「IIS Web サーバを使用する」 を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックする



8 [次へ(N)] ボタンをクリックする

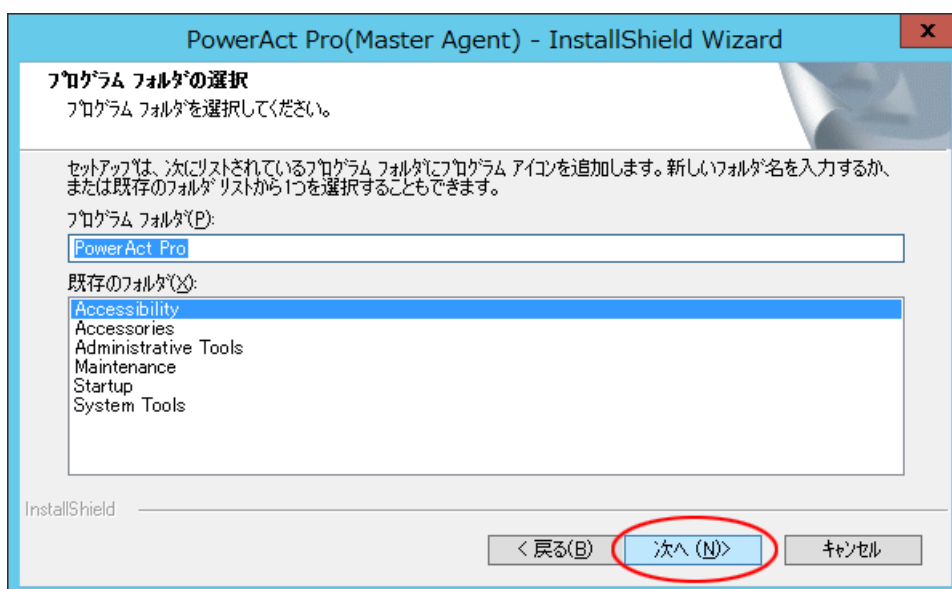
**注意**

本ソフトウェアを書き込み禁止のフォルダやネットワークドライブにインストールしないでください。
必ずローカルコンピュータのリードライト可能なハードディスクにインストールしてください。

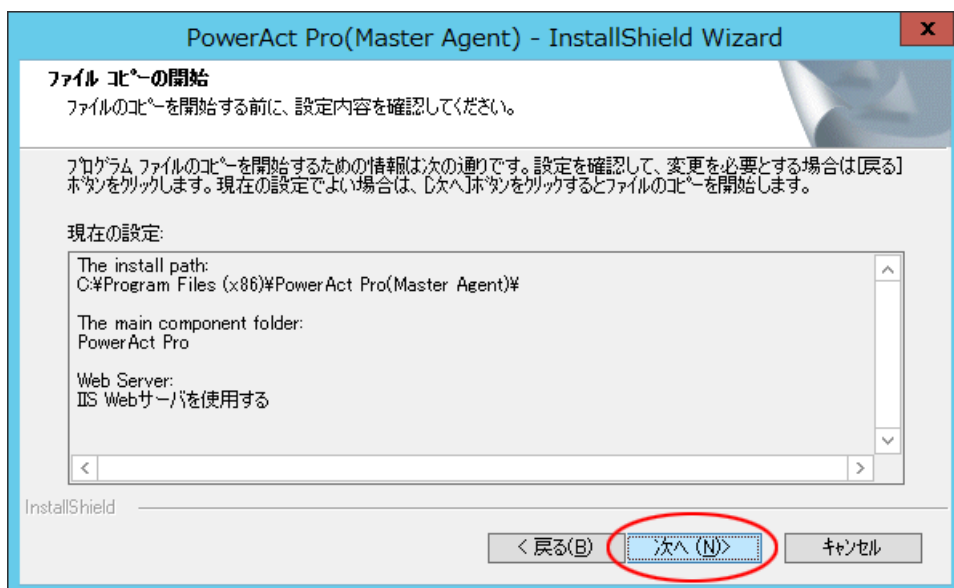
参考

本画面では本ソフトウェアのインストール先の変更が可能です。
変更する場合は [参照(R)] ボタンでインストール先を選択してください。

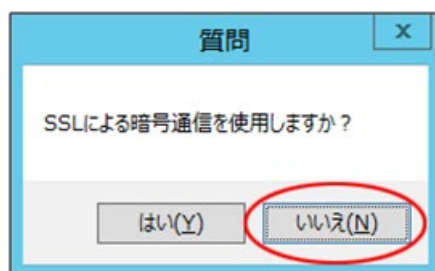
9 [次へ(N)] ボタンをクリックする



10 [次へ(N)] ボタンをクリックする



11 [いいえ(N)] ボタンをクリックする



参考

- ・暗号通信を使用する場合は [[はい(Y)] を選択し、以下の画面は [OK] ボタンで閉じてください。



- ・PowerAct Pro のインストールが完了したら、「サーバ証明書」をインストールしてください。

☞ P.36 「3-4 サーバ証明書のインストール」

12 「自動」または「手動」を選択し [OK] ボタンをクリックする

参考

「自動」を選択した場合、COM ポート、USB ポートの順に UPS を検索します。

「手動」を選択した場合、設定した COM ポートのみ検索します。

☞ P.83 「7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合」

13 結果を確認し [OK] ボタンをクリックする

No.	通信ポート	UPS形式
1	USB1	BN75T

参考

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、本ソフトウェアと UPS の通信ができていません。インストール上は問題ありませんので、[OK] ボタンをクリックして手順 16 に進んでください。

ここで UPS と通信させたい場合は P.68 「7-2 UPS と通信できない」を参照してください。

注意

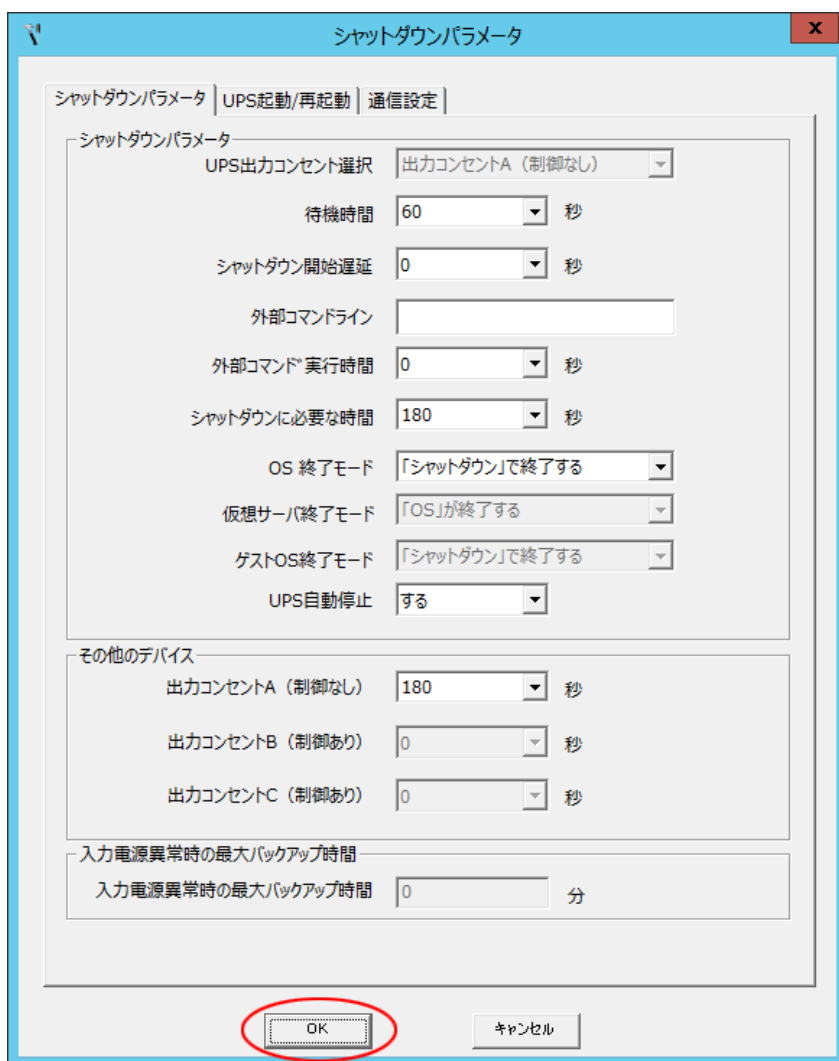
「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、手順 14、15 の画面は表示されません。

14 「UPS 使用開始日」、「バッテリー使用開始日（交換日）」、「次回のバッテリー交換（予定日）」を設定し [OK] ボタンをクリックする

15 [OK] ボタンをクリックする



16 [OK] ボタンをクリックする

**参考**

「シャットダウンパラメータ」画面ではシャットダウン動作等、本ソフトウェアの一部の機能が設定できます。

「PowerAct Pro モニタ」では全ての機能設定ができます。

☞ P.49 「5-1 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ使用 –」

17 パスワードは 1～15 文字の半角英数字（A～Z、a～z、0～9）で設定する

注意

大文字／小文字は区別されます。設定したパスワードは、メモを取るなどして必ず保存しておいてください。

参考

本パスワードは PowerAct Pro モニタにログインするときのパスワードです

☞ 「5-1 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ使用 –」手順 4 (P.50)

18 [OK] ボタンをクリックする

19 [完了] ボタンをクリックする

以上で IIS を使用した本ソフトウェアのインストールは終了です。

続いて、P.31 「3-3 セキュリティとポップアップブロックの設定」に進んでください。

3-3 セキュリティとポップアップブロックの設定

セキュリティ設定とポップアップブロックの例外設定をします。

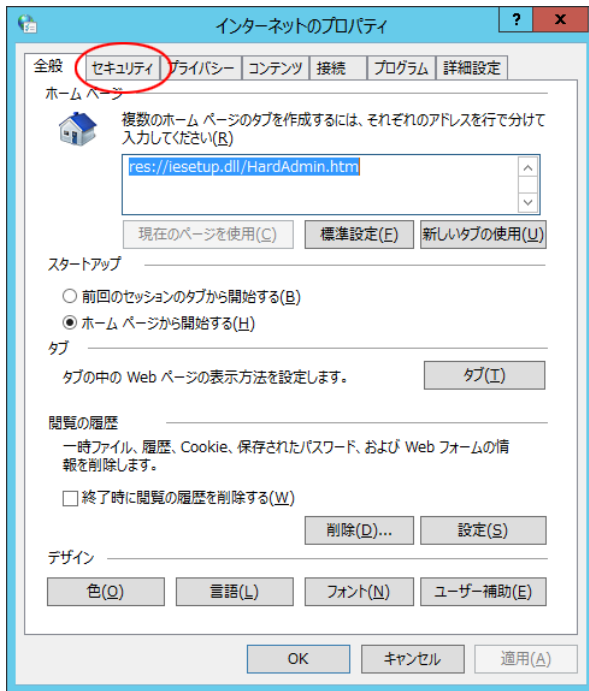
- 1 [スタート] ボタンを右クリック → [コントロールパネル(P)] → [ネットワークとインターネット] をクリックする



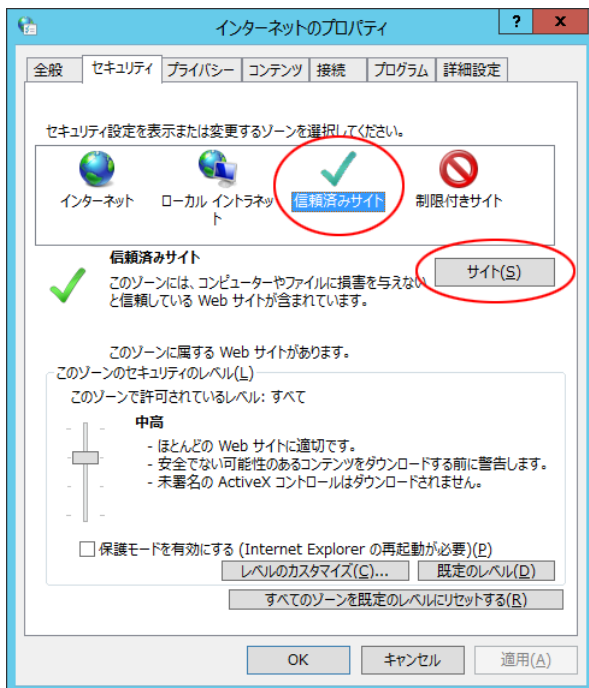
- 2 [インターネットオプション] をクリックする



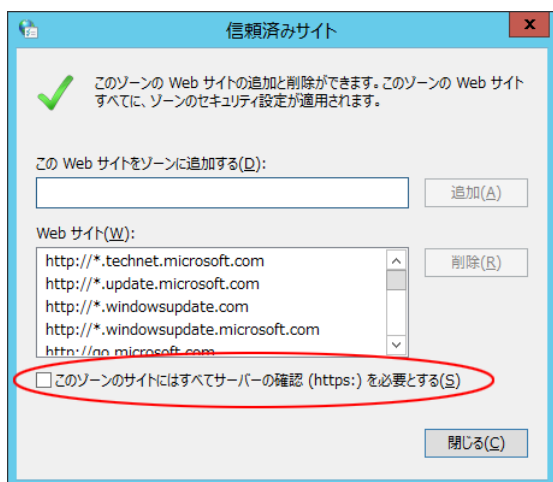
3 [セキュリティ] タブをクリックする



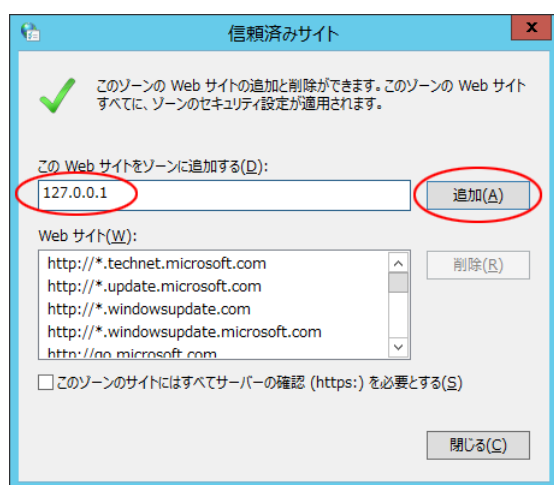
4 [信頼済みサイト] を選択し [サイト(S)] ボタンをクリックする



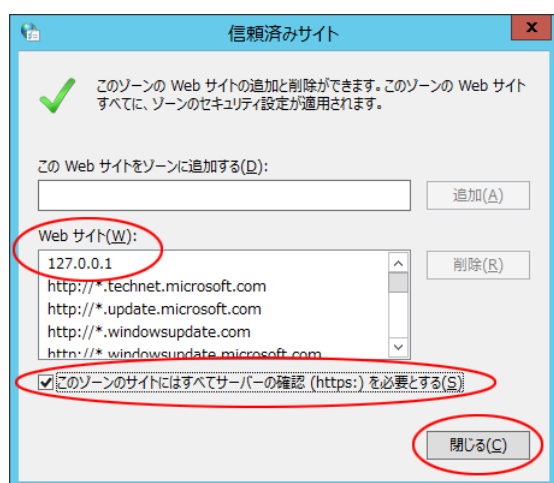
- 5 「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする(S)」のチェックを外す



- 6 「この Web サイトをゾーンに追加する(D):」欄に「127.0.0.1」と入力し [追加(A)] ボタンをクリックする



- 7 「Web サイト(W):」欄に「127.0.0.1」が追加されたことを確認し「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする(S)」にチェックを入れ、[閉じる(C)] ボタンをクリックする



参考

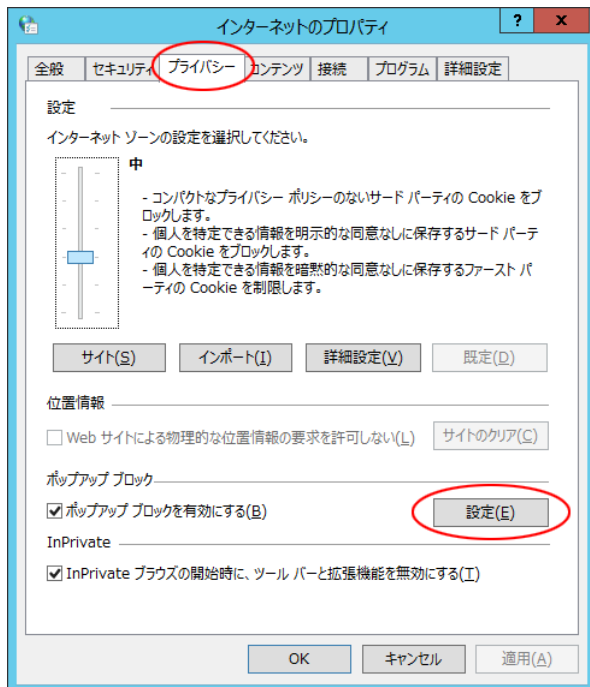
手順 5 で「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする(S)」にチェックが入っていなかった場合は、チェックを入れずに手順 8 に進んでください。

続いて Internet Explorer を例にして、ブラウザのポップアップブロックの設定をします。

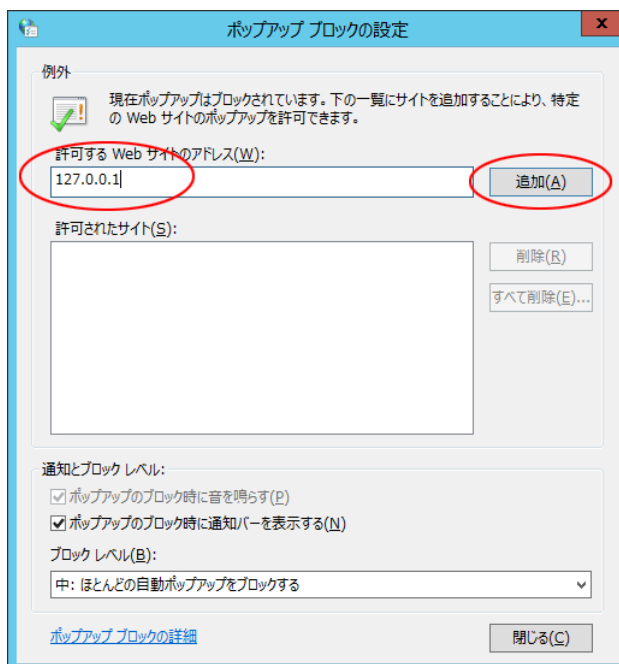
参考

Internet Explorer 以外のブラウザを使用する場合は、ブラウザ側でポップアップブロックの例外設定をしてください。
例外設定の対象は「127.0.0.1」です。

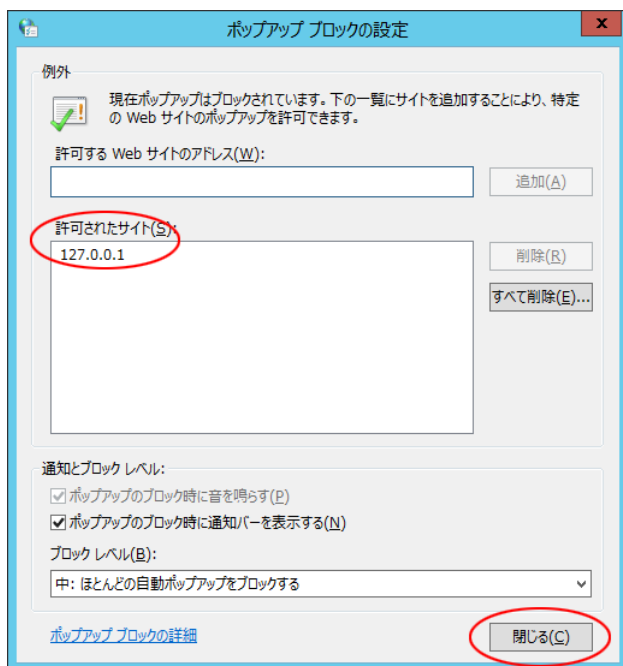
8 [プライバシー] タブを選択し [設定(E)] ボタンをクリックする



9 「許可する Web サイトのアドレス(W):」 欄に「127.0.0.1」と入力し [追加(A)] ボタンをクリックする



- 10 「許可されたサイト(S):」欄に「127.0.0.1」が追加されたことを確認し [閉じる(C)] ボタンをクリックする



参考

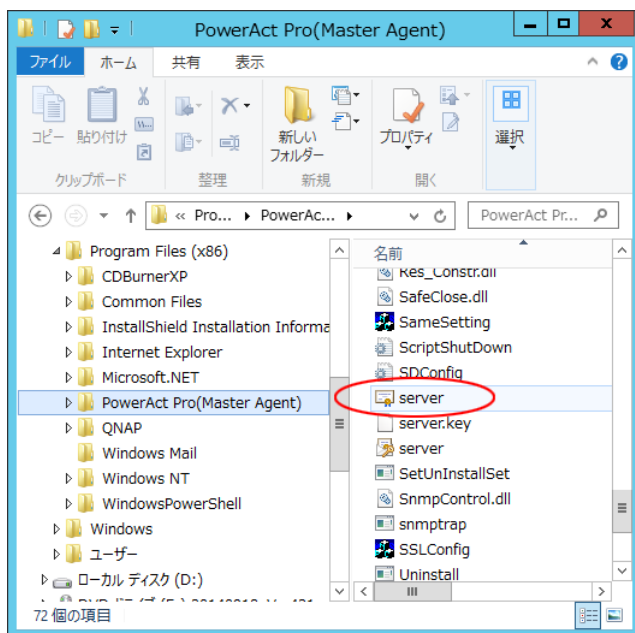
「インターネットのプロパティ」、「ネットワークとインターネット」画面が開いていたら閉じてください。

以上でセキュリティとポップアップブロックの設定は終了です。

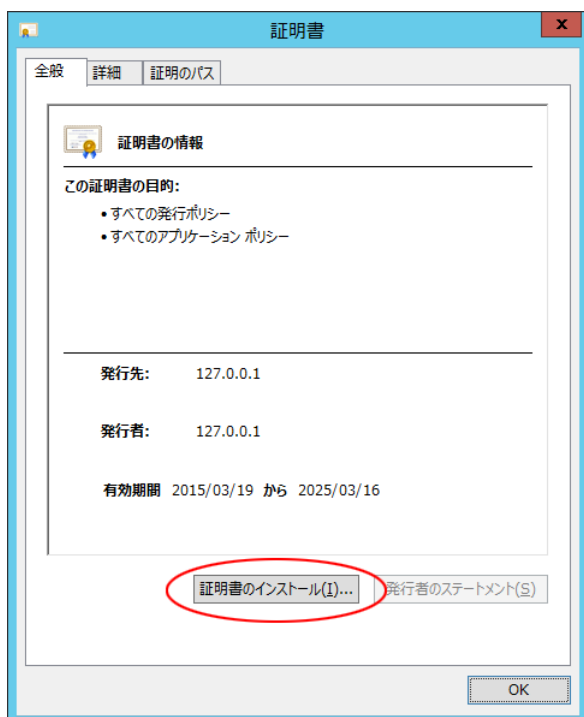
P.27 手順 14 「SSL による暗号化通信」で「使用する」を選択した場合は、P.36 「3-4 サーバ証明書のインストール」に、「使用しない」を選択した場合は、P.49 「5-1 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ使用 –」に進んでください。

3-4 サーバ証明書のインストール

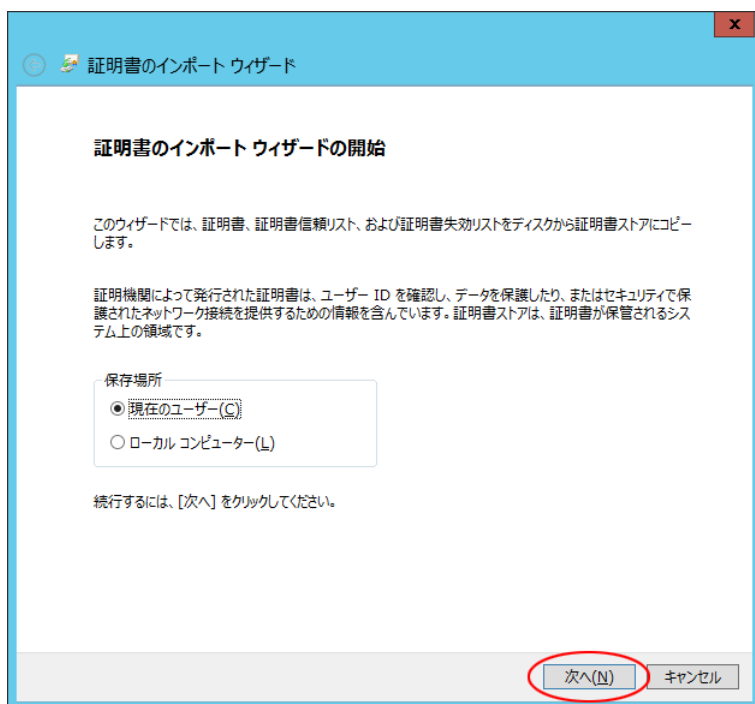
- 1 [Program Files (x86)] フォルダ→ [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダ→ [server.crt] をダブルクリックする



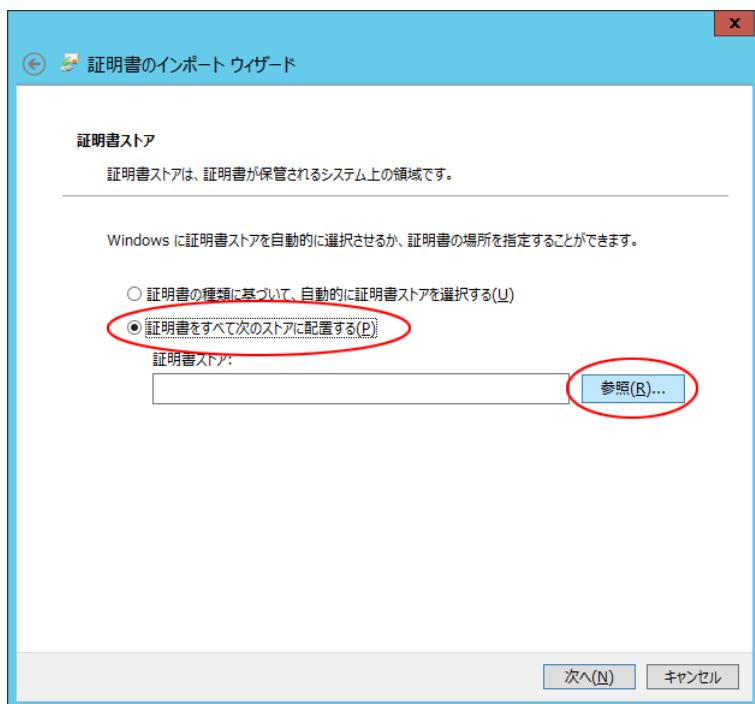
- 2 [証明書のインストール(I)] ボタンをクリックする



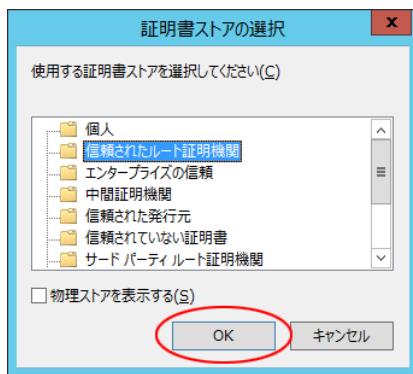
3 [次へ(N)] ボタンをクリックする



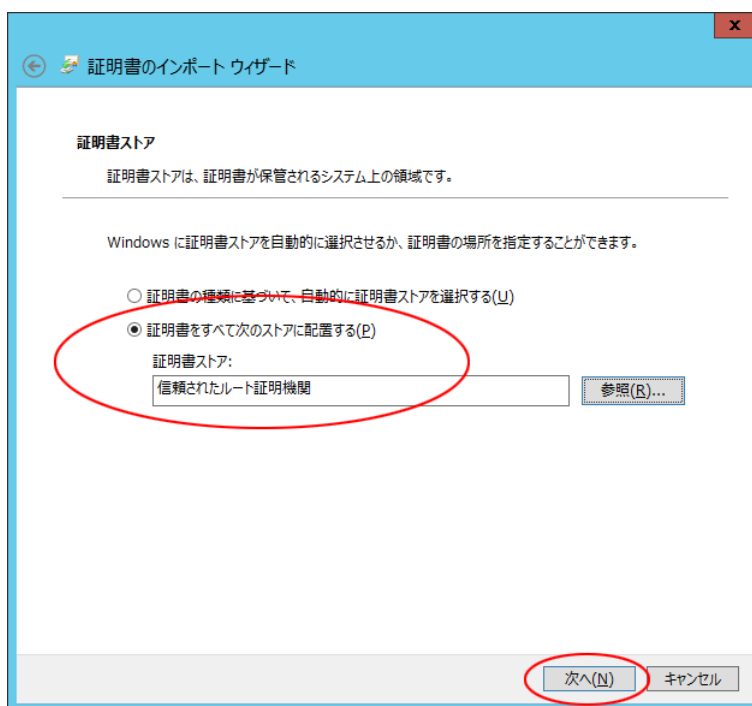
4 「証明書すべて次のストアに配置する(P)」を選択し [参照(R)] ボタンをクリックする



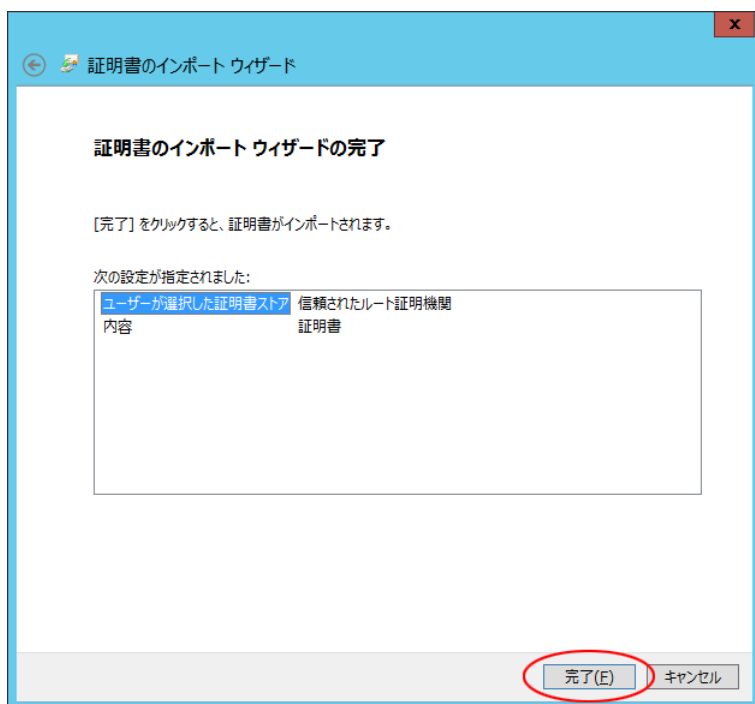
- 5 「信頼されたルート証明機関」を選択し [OK] ボタンをクリックする



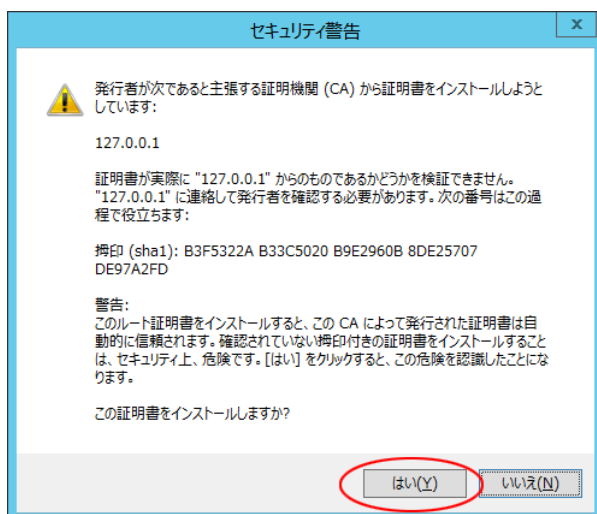
- 6 「証明書ストア」欄に「信頼されたルート証明機関」が選択されていることを確認し [次へ(N)] ボタンをクリックする



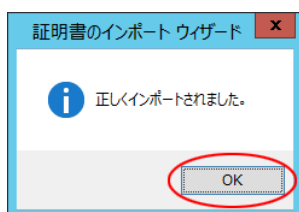
7 [完了(F)] ボタンをクリックする



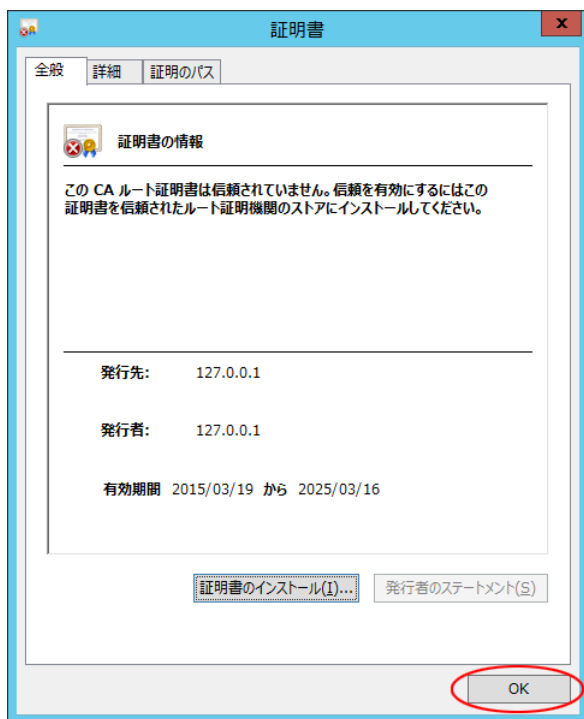
8 [はい(Y)] ボタンをクリックする



9 [OK] ボタンをクリックする



10 [OK] ボタンをクリックする



以上で IIS 使用時のサーバ証明書のインストールは終了です。

続いて P.49 「5-1 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ使用 –」に進みます。

4 インストール方法 – Web サーバを使用しない場合 –

4-1 本ソフトウェアのインストール

- 1 [当社ホームページ](#)より本ソフトウェアをダウンロードする

ファイル名 : PAPV516_Master_Windows.zip

- 2 ダウンロードした「PAPV516_Master_Windows.zip」を解凍する

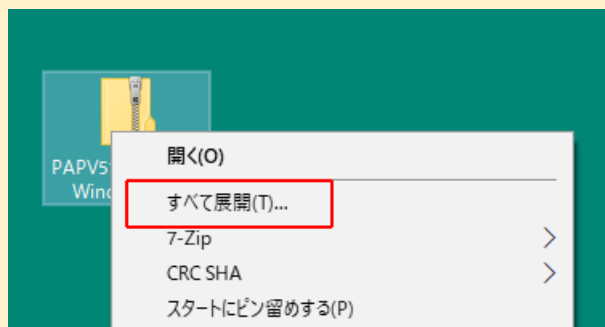
参考

「PAPV516_Master_Windows.zip」を解凍すると、「PAPV516_Master_Windows」フォルダが作成されます。

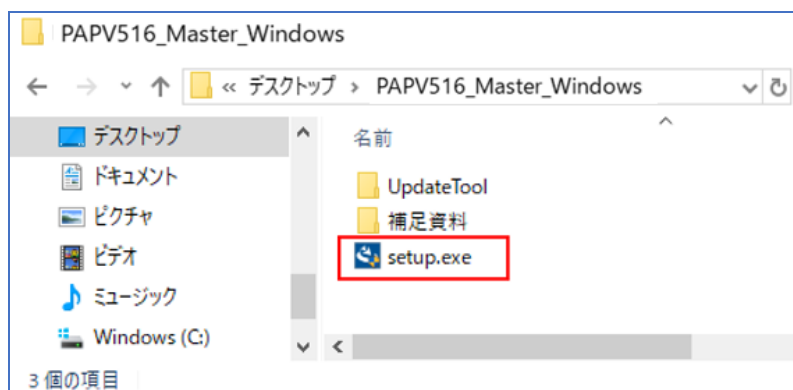
注意

ダウンロードしたファイルが「フォルダにチャックのついたアイコン」の場合、ダブルクリックでは正常に解凍できないことがありますので、必ず、以下の方法で解凍してください。

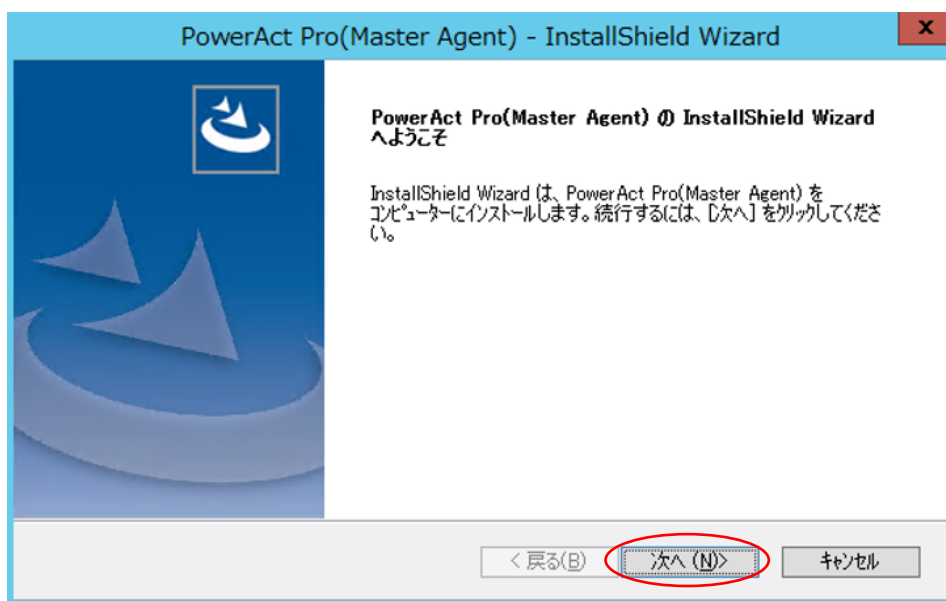
- ① PAPV516_Master_Windows.zip アイコンを右クリックする
- ② コンテキストメニューの「すべて展開(T)」をクリックし、デスクトップ等、分かり易い場所を指定する



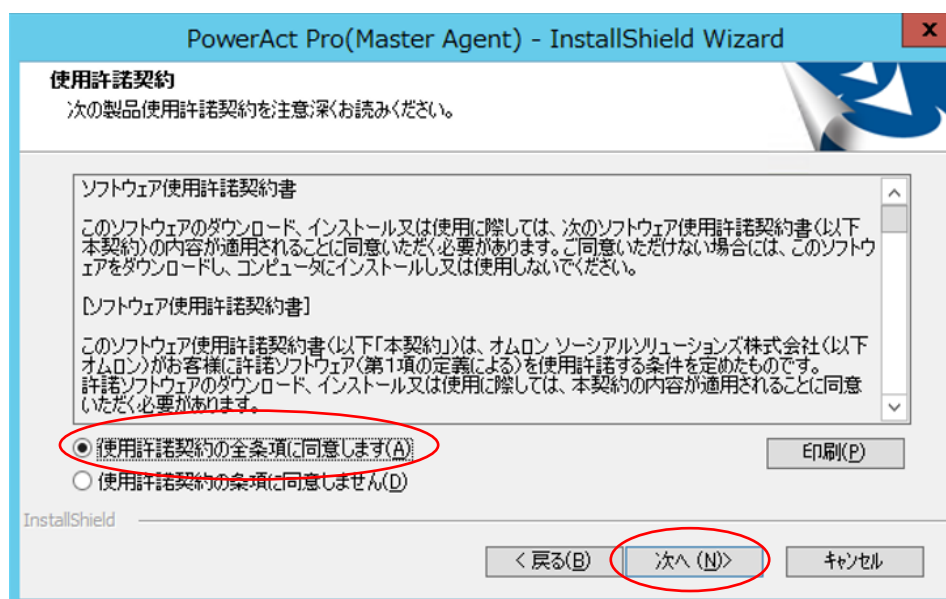
- 3 「PAPV516_Master_Windows」フォルダを開き、setup.exe をダブルクリックする



4 [次へ(N)] ボタンをクリックする

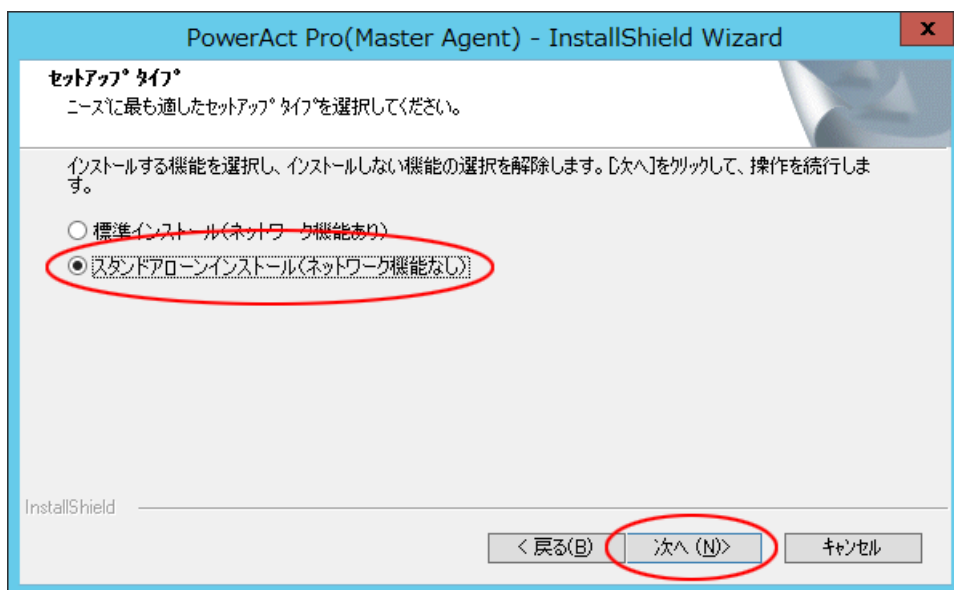


5 「使用許諾契約」に同意いただければ、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックする

**参考**

使用許諾契約に同意いただけない場合は本ソフトウェアを使用できませんので、[キャンセル] ボタンをクリックしインストールを中止してください。

- 6 「スタンドアロンインストール (ネットワーク機能なし)」を選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックする

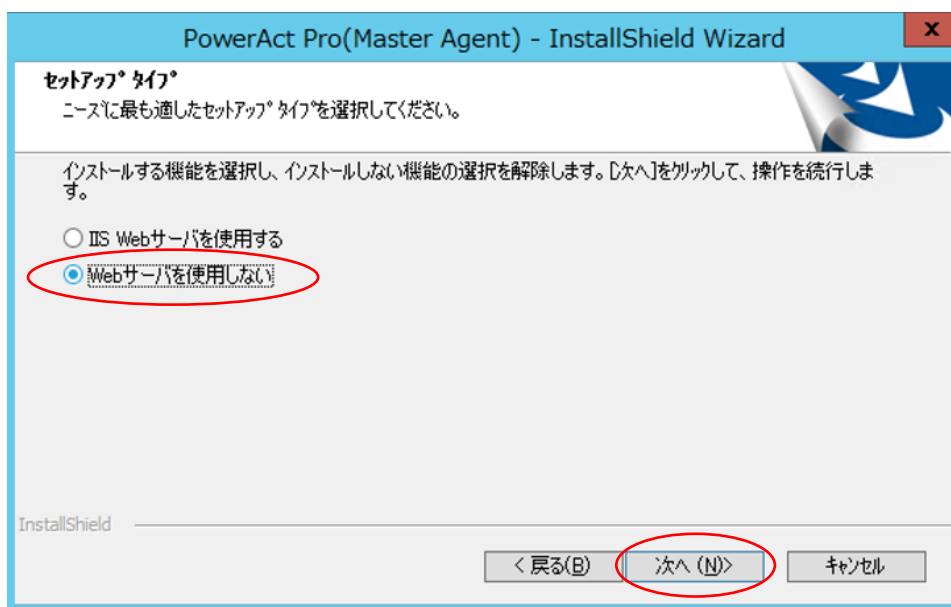


参考

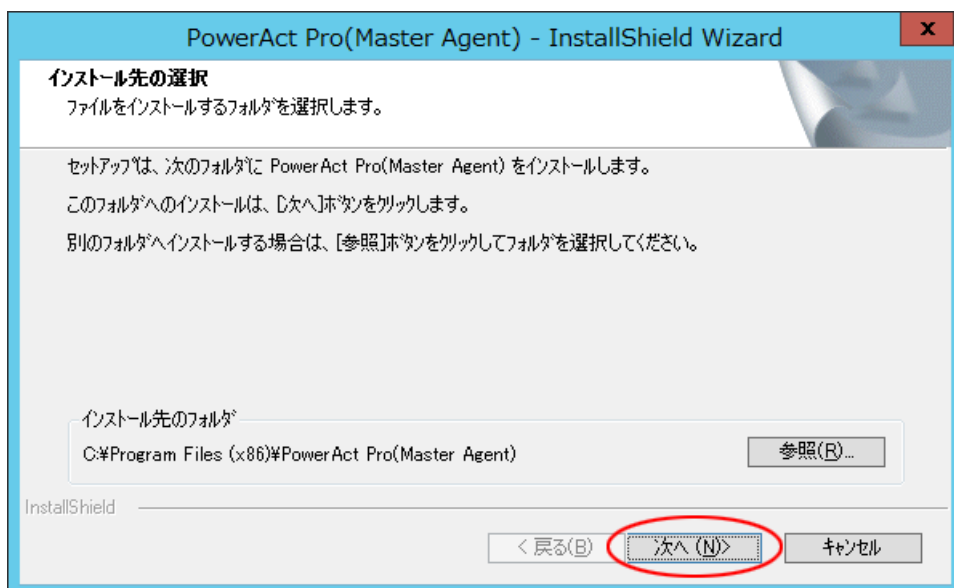
「標準インストール」を選択した場合は、ネットワーク経由で以下の機能が利用できます。

- ・「Web サーバ使用マスタ」の Web モニタから「Web サーバ不使用マスタ」の UPS 制御や各種設定と確認
- ・スレーブをインストールしたコンピュータのシャットダウン
- ・SNMP を利用したシャットダウン警告や指定したコンピュータへの UPS の動作情報の通知

- 7 「Web サーバを使用しない」を選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックする



8 [次へ(N)] ボタンをクリックする

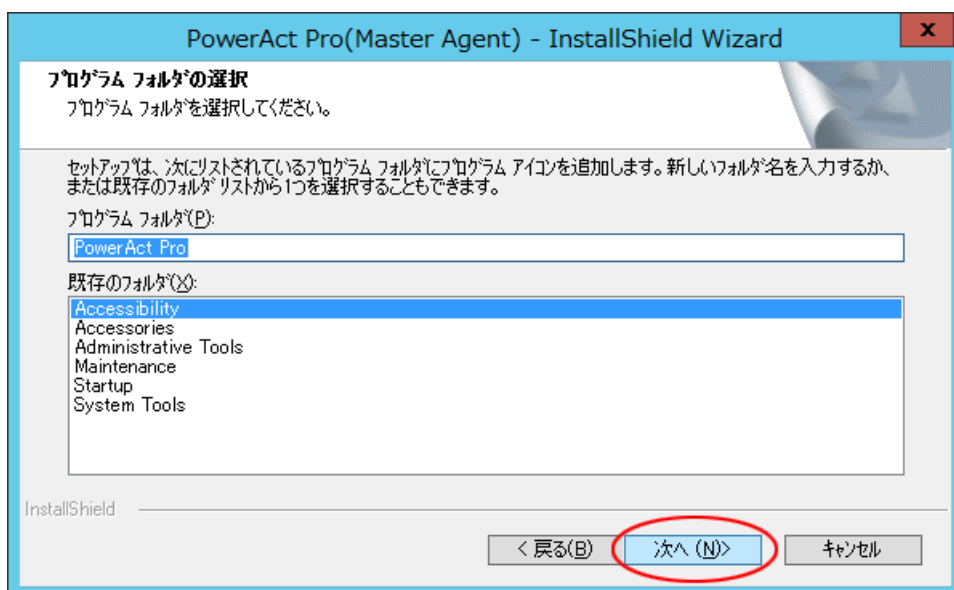
**注意**

本ソフトウェアを書き込み禁止のフォルダやネットワークドライブにインストールしないでください。
必ずローカルコンピュータのリードライト可能なハードディスクにインストールしてください。

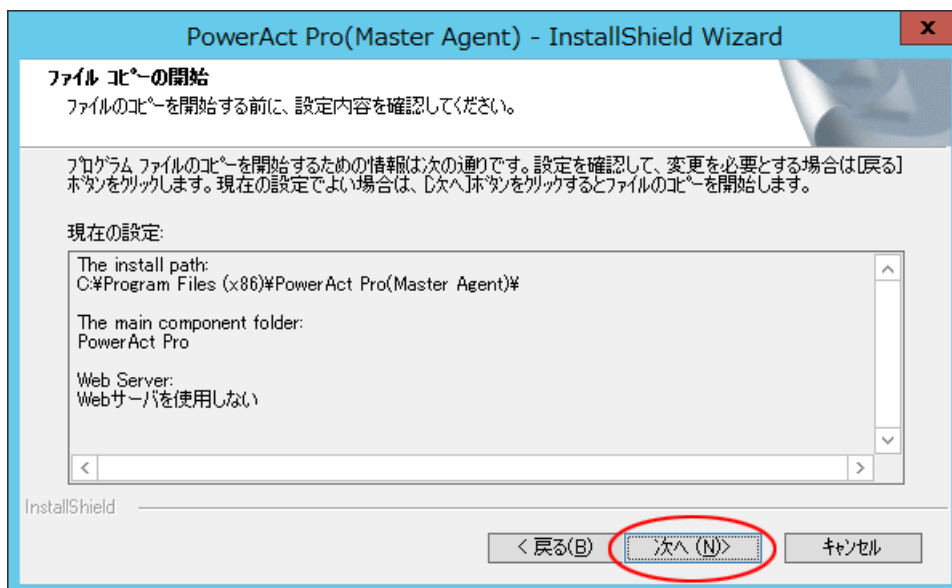
参考

本画面では本ソフトウェアのインストール先の変更が可能です。
変更する場合は [参照(R)] ボタンでインストール先を選択してください。

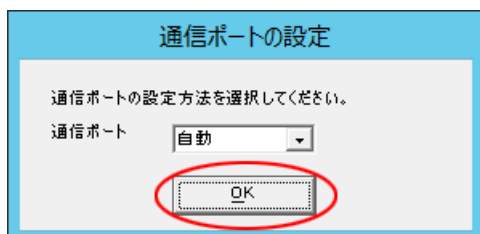
9 [次へ(N)] ボタンをクリックする



10 [次へ(N)] ボタンをクリックする



11 「自動」または「手動」を選択し [OK] ボタンをクリックする

**参考**

「自動」を選択した場合、COM ポート、USB ポートの順に UPS を検索します。

「手動」を選択した場合、設定した COM ポートのみ検索します。

☞ P.83 「7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合」

12 結果を確認し [OK] ボタンをクリックする

**参考**

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、本ソフトウェアと UPS の通信ができていません。インストール上は問題ありませんので、[OK] ボタンをクリックして手順 15 に進んでください。

ここで UPS と通信させたい場合は P.68 「7-2 UPS と通信できない」を参照してください。

注意

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、手順 13、14 の画面は表示されません。

- 13 「UPS 使用開始日」、「バッテリー使用開始日（交換日）」、「次回のバッテリー交換（予定日）」を設定し [OK] ボタンをクリックする

バッテリー使用開始日（交換日）設定

【注意】
2000年1月1日以前の日付を設定することはできません。
設定する日付を再入力してください。

UPS 使用開始日:

USB 1 2015-03-17

バッテリー使用開始日（交換日）:

2015-03-17

次回のバッテリー交換（予定日）:

2016-03-17

OK キャンセル

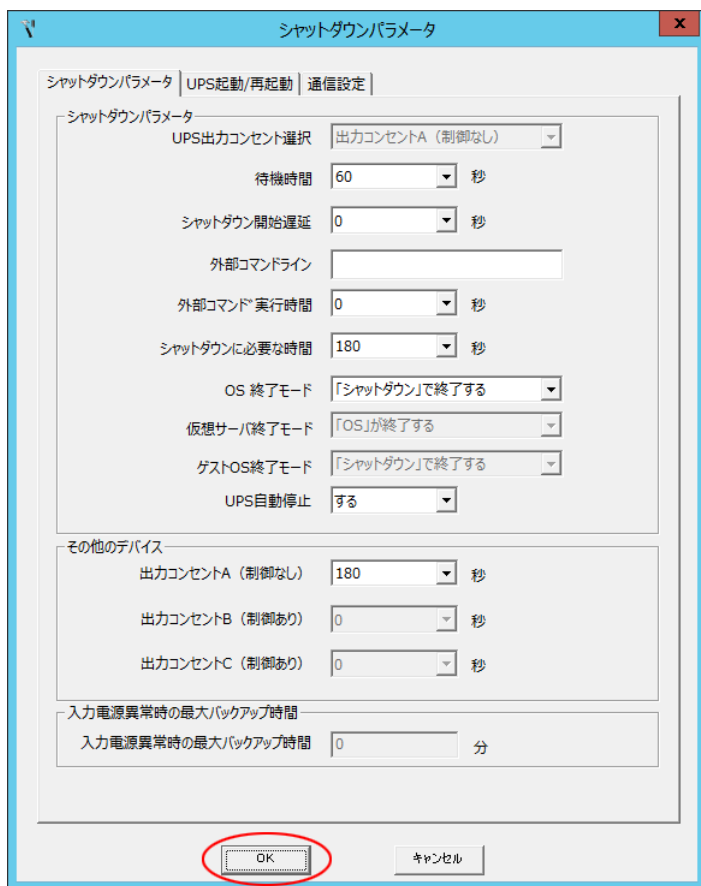
- 14 [OK] ボタンをクリックする

バッテリー使用開始日（交換日）設定結果

No.	通信ポート	バッテリー使用開始日
1	USB 1	2015-03-17

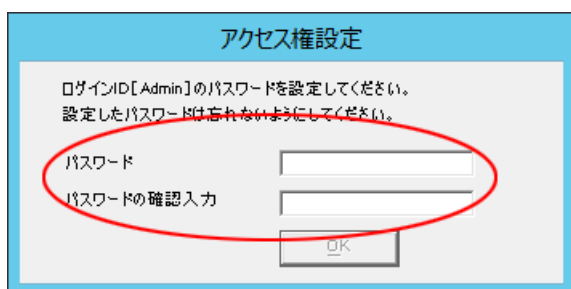
OK

15 [OK] ボタンをクリックする

**参考**

インストール完了後、デスクトップに作成される [シャットダウンパラメータ設定] のショートカットから本画面を表示できます。

16 パスワードは 1～15 文字の半角英数字 (A～Z、a～z、0～9) で設定する

**注意**

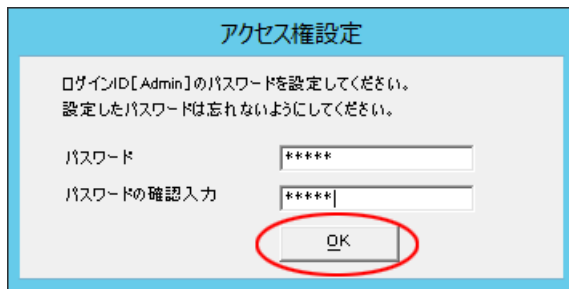
大文字／小文字は区別されます。設定したパスワードは、メモを取るなどして必ず保存しておいてください。

参考

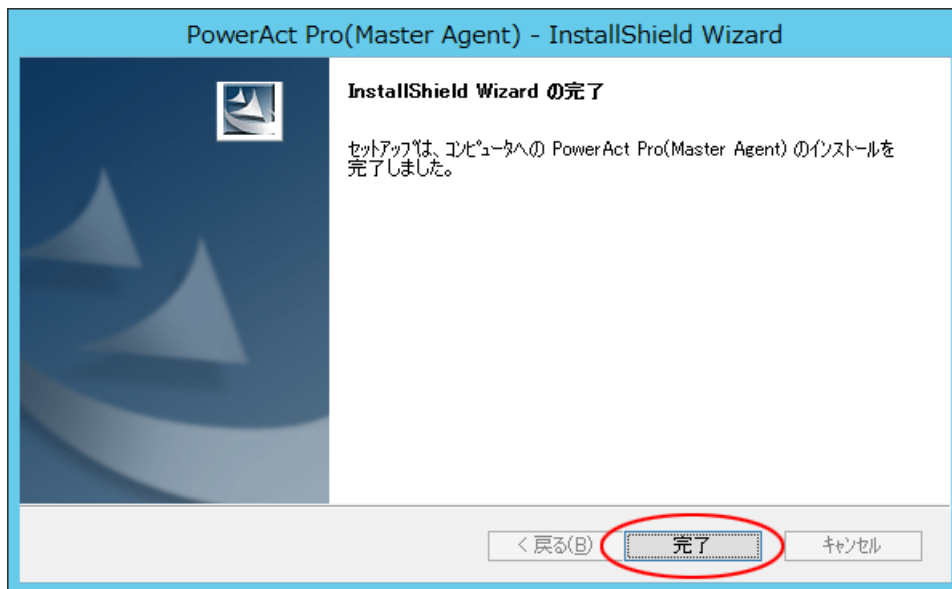
本パスワード PowerAct Pro コンソールにログインするときのパスワードです。

☞ 「7-2-3 Web サーバ不使用環境」手順 4 (P.73) 参照

17 [OK] ボタンをクリックする



18 [完了] ボタンをクリックする

**参考**

「Program」フォルダ等開いている画面があれば、これを閉じてください。

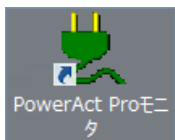
以上で Web サーバを使用しない本ソフトウェアのインストールは終了です。

続いて、P.53 「5-2 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ不使用 –」に進みます。

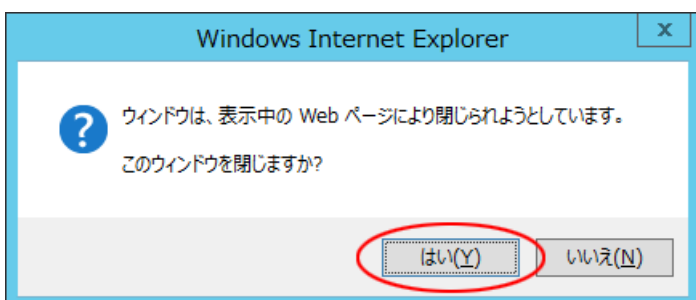
5 シャットダウン動作の確認

5-1 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ使用 –

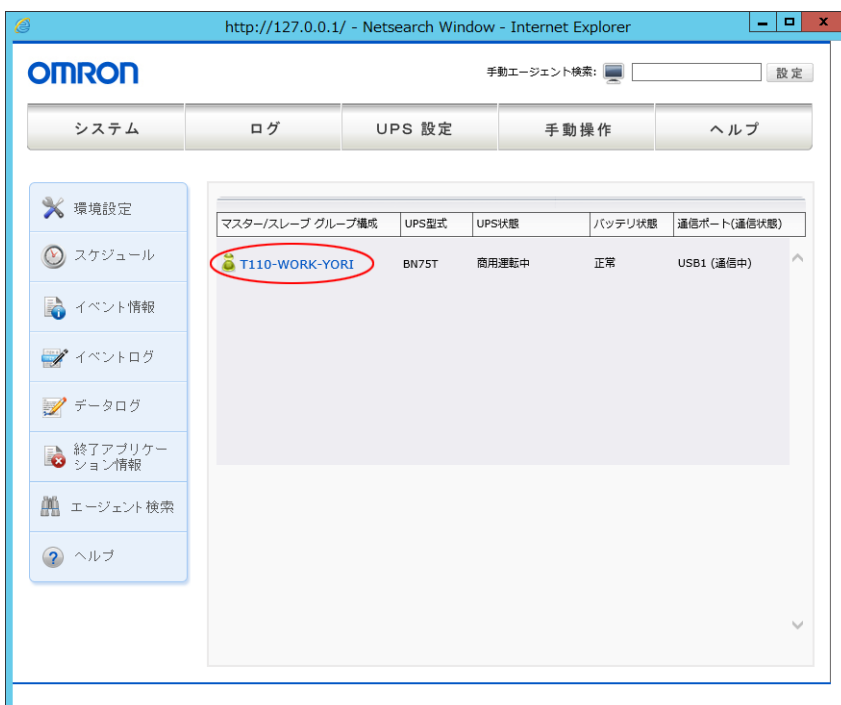
- 1 デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] アイコンをダブルクリックする



- 2 [はい(Y)] ボタンをクリックする



- 3 本ソフトウェアをインストールしたサーバ名をクリックする



- 4 「ログインID」に「Admin」、「パスワード」に本ソフトウェアのインストール時に設定したパスワードを入力し [設定] ボタンをクリックする

OMRON

ログイン

ログインID: Admin

パスワード: *****

設定 キャンセル

注意

「Admin」の「A」は必ず大文字で入力してください。大文字/小文字は区別されます。

- 5 [環境設定] をクリックする

http://127.0.0.1/ - Power Act Pro Monitor T110-WORK-YORI (フルアクセス) - Internet Explorer

OMRON

システム ログ UPS 設定 手動操作 ヘルプ

日時: 2015年03月17日 18:28:43 次回のバッテリー交換: 2016-03-17
前回のバッテリー使用開始日(交換日): 2015年03月17日

環境設定

UPS型式: BN75T プザ-: ならさない

UPS状態: 商用運転中 ファンクションテストステータス: する

出力コンセントA (制御なし): 出力中 バッテリ自動テスト: する

出力コンセントB (制御あり): 未対応 UPSコールドスタート機能: しない

出力コンセントC (制御あり): 未対応 出力電圧/入力感度: 100 V/標準感度

バッテリー状態: 正常 UPS自動再起動: する

増設バッテリー: 通信ポート: USB 1 設定

テスト結果:

入力電圧:	40	60	80	100	120	140	101.4 V
出力電圧:	40	60	80	100	120	140	101.3 V
入力周波数:	40	45	50	55	60	65	50.0 Hz
出力周波数:	40	45	50	55	60	65	50.0 Hz
接続容量:	0	25	50	75	100	125	0 %
バッテリー容量:	0	25	50	75	100	125	100 %

次回のシャットダウン (日時): 既定バックアップ時間: 375 分

次回のUPS起動 (日時):

2015-03-17 18:25:46 通信確立 [UPS (型式: BN75T / 通信ポート: USB 1)] UPSと通信を開始しました。

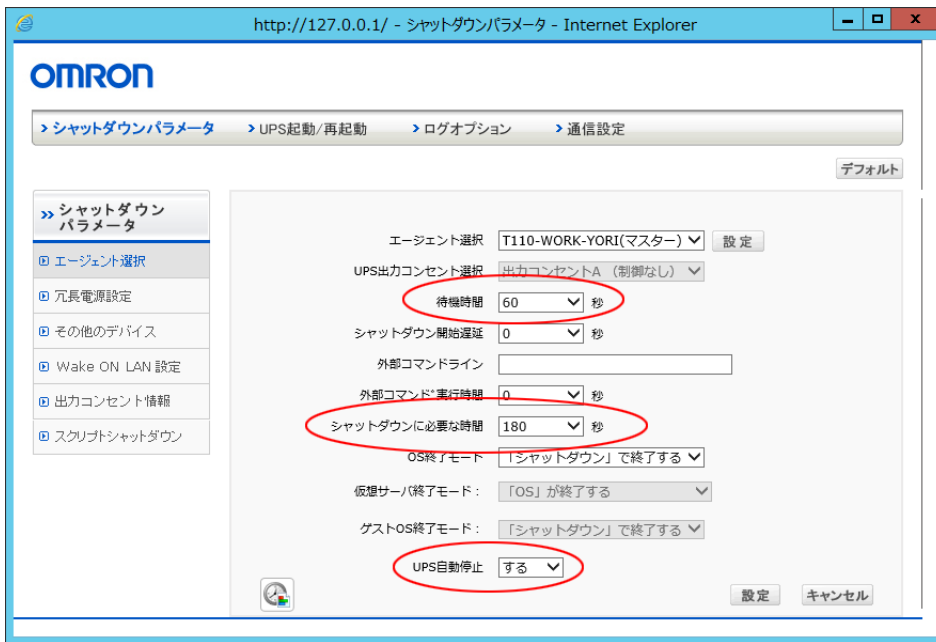
2015-03-17 18:25:44 エージェントを起動します。

参考

「UPSの形式」が空欄の場合、本ソフトウェアとUPSの通信ができていません。

P.68 「7-2 UPSと通信できない」を参照してください。

6 シャットダウンパラメータの設定をする



■ 基本設定（必ず使う設定）

項目	設定内容
待機時間	<p>本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから、シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：60 秒</p> <p>☞待機時間内に復電（電源の復旧）を検出した場合、シャットダウン動作は開始しません。</p> <p>☞0 秒に設定した場合は入力電源異常を検出後、即シャットダウンが始まります。ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
シャットダウンに必要な時間	<p>OS がシャットダウンを開始した時点から、UPS が自動停止するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：180 秒</p> <p>※OS のシャットダウン途中で UPS が出力停止しないように、ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
OS 終了モード	<p>OS の終了モードを設定します。</p> <p>「シャットダウン」で終了する</p> <p>「休止状態」で終了する</p>
UPS 自動停止	<p>シャットダウン時に UPS を停止する設定です。</p> <p>初期値：する</p> <p>☞する UPS は「シャットダウンに必要な時間」経過後、出力停止します。</p> <p>☞しない UPS はバッテリーが尽きるまでバックアップ運転を続けます。</p>

■ 応用設定（環境により使う設定）

項目	設定内容
シャットダウン開始遅延	UPS に複数台のコンピュータを接続している環境で、他のコンピュータよりシャットダウンの開始を遅くする場合に設定します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒（遅延なし）
外部コマンドライン	シャットダウン時に実行するプログラムのコマンドを入力します。 プログラムの実行時間は下段の「外部コマンド実行時間」で設定します。 ※「実行するプログラム」とはデータを保存するプログラムなどを指します。
外部コマンド実行時間	「外部コマンドライン」で設定したプログラムの実行に必要な時間を設定します。実行中は OS のシャットダウン動作を一時停止します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒 ※Hyper-V 機能使用時に仮想サーバを本ソフトウェアで終了する場合、ゲスト OS（仮想サーバの OS）のシャットダウンに必要な時間を設定してください。
仮想サーバ終了モード （ゲスト OS の終了管理）	ゲスト OS の終了処理を OS 側で行うか、本ソフトウェアで行うか、設定します。 「OS」が終了する： ゲスト OS を OS 側の管理で終了させるモードです。 ※ [ゲスト OS 終了モード] は無効になります。ゲスト OS のシャットダウン時の動作は「Hyper-V マネージャ」で設定してください。 「PowerAct Pro」が終了する： ゲスト OS を本ソフトウェアで終了させるモードです。 追加で以下の設定が必要です。 1 「外部コマンド実行時間」でゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。選択範囲は 60 秒～600 秒（60 秒単位）です。 2 「ゲスト OS 終了モード」で、ゲスト OS の終了方法を [シャットダウン]、[休止状態] から選択します。 ※「ゲスト OS 終了モード」はシャットダウンパラメータ起動時にゲスト OS が稼働状態にないと、選択できません。
ゲスト OS 終了モード	ゲスト OS の終了方法を [「シャットダウン」で終了する]、[「休止状態」で終了する] から選択します。

参考

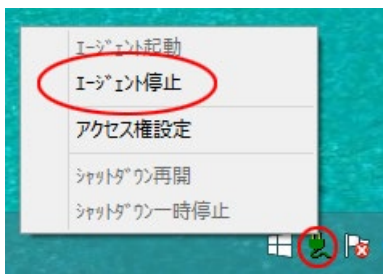
- ・設定を変更したら、必ず [設定] ボタンをクリックしてください。
- ・「基本設定」はどの環境でも必ず使用します。「応用設定」は、必要に応じて使用してください。

以上で Web サーバを使用したシャットダウンパラメータの設定は終了です。

続いて、P.577「5-3 シャットダウンテスト」に進みます。

5-2 シャットダウンパラメータの設定 – Web サーバ不使用 –

- 1 タスクトレイの常駐アイコンを右クリックし [エージェント停止] を選択する



- 2 常駐アイコンに×が付くことを確認する



- 3 デスクトップの [シャットダウンパラメータ設定] をダブルクリックする



注意

[シャットダウンパラメータ設定] で設定を変更する場合は必ずエージェントを停止してください。

参考

「シャットダウンパラメータ」画面は、[スタート] → 「アプリ」 → 「PowerAct Pro」 → 「シャットダウンパラメータ設定」からも開くことができます。

4 シャットダウン動作の基本的な項目を設定する

シャットダウンパラメータ

シャットダウンパラメータ | UPS起動/再起動 | 通信設定 |

シャットダウンパラメータ

UPS出力コンセント選択 出力コンセントA (制御なし) ▾

待機時間 60 秒

シャットダウン開始遅延 0 秒

外部コマンドライン

外部コマンド実行時間 0 秒

シャットダウンに必要な時間 180 秒

OS 終了モード 「シャットダウン」で終了する ▾

仮想サーバ終了モード 「OS」が終了する ▾

ゲストOS終了モード 「シャットダウン」で終了する ▾

UPS自動停止 する ▾

その他のデバイス

出力コンセントA (制御なし) 180 秒

出力コンセントB (制御あり) 0 秒

出力コンセントC (制御あり) 0 秒

入力電源異常時の最大バックアップ時間

入力電源異常時の最大バックアップ時間 0 分

OK キャンセル

■ 基本設定（必ず使う設定）

項目	設定内容
待機時間	<p>本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから、シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：60 秒</p> <p>☞待機時間内に復電（電源の復旧）を検出した場合、シャットダウン動作は開始しません。</p> <p>☞0 秒に設定した場合は入力電源異常を検出後、即シャットダウンが始まります。ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
シャットダウンに必要な時間	<p>OS がシャットダウンを開始した時点から、UPS が自動停止するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：180 秒</p> <p>※OS のシャットダウン途中で UPS が出力停止しないように、ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
OS 終了モード	<p>OS の終了モードを設定します。</p> <p>「シャットダウン」で終了する</p> <p>「休止状態」で終了する</p>
UPS 自動停止	<p>シャットダウン時に UPS を停止する設定です。</p> <p>初期値：する</p> <p>☞する UPS は「シャットダウンに必要な時間」経過後、出力停止します。</p> <p>☞しない UPS はバッテリーが尽きるまでバックアップ運転を継続します。</p>

■ 応用設定（環境により使う設定）

項目	設定内容
シャットダウン開始遅延	UPS に複数台のコンピュータを接続している環境で、他のコンピュータよりシャットダウンの開始を遅くする場合に設定します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒（遅延なし）
外部コマンドライン	シャットダウン時に実行するプログラムのコマンドを入力します。 プログラムの実行時間は下段の「外部コマンド実行時間」で設定します。 ※「実行するプログラム」とはデータを保存するプログラムなどを指します。
外部コマンド実行時間	「外部コマンドライン」で設定したプログラムの実行に必要な時間を設定します。実行中は OS のシャットダウン動作を一時停止します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒 ※Hyper-V 機能使用時に仮想サーバを本ソフトウェアで終了する場合、ゲスト OS（仮想サーバの OS）のシャットダウンに必要な時間を設定してください。
仮想サーバ終了モード （ゲスト OS の終了管理）	ゲスト OS の終了処理を OS 側で行うか、本ソフトウェアで行うか、設定します。
	「OS」が終了する： ゲスト OS を OS 側の管理で終了させるモードです。 ※ [ゲスト OS 終了モード] は無効になります。ゲスト OS のシャットダウン時の動作は「Hyper-V マネージャ」で設定してください。
	「PowerAct Pro」が終了する： ゲスト OS を本ソフトウェアで終了させるモードです。 追加で以下の設定が必要です。 1 「外部コマンド実行時間」でゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。選択範囲は 60 秒～600 秒（60 秒単位）です。 2 「ゲスト OS 終了モード」で、ゲスト OS の終了方法を [シャットダウン]、[休止状態] から選択します。 ※「ゲスト OS 終了モード」はシャットダウンパラメータ起動時にゲスト OS が稼働状態にないと、選択できません。
ゲスト OS 終了モード	ゲスト OS の終了方法を [「シャットダウン」で終了する]、[「休止状態」で終了する] から選択します。

参考

設定を変更したら、必ず [OK] ボタンをクリックしてください。

5-3 シャットダウンテスト

UPS を停電状態にしてサーバのシャットダウンテストを実施します。




参考

シャットダウンテストでは以下 2 つの動作を確認してください。

- ①サーバがシャットダウンすること
- ②サーバのシャットダウン完了後に UPS の出力が停止すること (UPS が OFF になること)

動作イメージは P.90「付-1-1 初期設定値の動作シーケンス」を参照してください。

- 1 タスクトレイの常駐アイコンが「商用運転中」になっていることを確認する

アイコン	状態	備考
	商用運転中	UPS と本ソフトウェアは通信中です。 入力電源に異常はありません。
	通信エラー	UPS と本ソフトウェアの通信ができていません。 この状態では停電が発生してもシャットダウンできません。 通信ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。 P.68「7-2 UPS と通信できない」を参照してください。
	入力電源異常	入力電源の異常で UPS はバックアップ運転 (バッテリー出力) 中です。 原因として停電、電圧または周波数の変動などが考えられます。

- 2 UPS の AC 入力プラグをコンセントから抜いて、停電状態にする

参考

本ソフトウェアが停電を検出すると常駐アイコンが「入力電源異常」に変わります。

- 3 常駐アイコンが「入力電源異常」になったら「待機時間」経過後 (初期値 60 秒) に OS のシャットダウンが始まることを確認する

初期設定

- ・待機時間 : 60 秒
- ・シャットダウンに必要な時間 : 180 秒
- ・UPS 自動停止 : する

- OS のシャットダウン開始から「シャットダウンに必要な時間」経過後（初期値 180 秒）、UPS の出力が停止することを確認する

注意

シャットダウンパラメータで「UPS 自動停止・しない」を選択した場合は、バッテリー残量が無くなるまで UPS の出力は停止しません。

参考

UPS が停止する（UPS が OFF になる）と、UPS 本体の「状態表示」や LCD が消灯します。

- UPS の AC 入力プラグをコンセントに挿し、復電させる

参考

復電すると UPS が自動再起動（UPS が ON）します（工場出荷値）。
UPS 側で自動再起動「しない」設定にしている場合は、復電しても自動再起動しません。

注意

手でコンピュータの電源を入れる場合は、UPS が停止する前にコンピュータを起動させないよう注意してください。

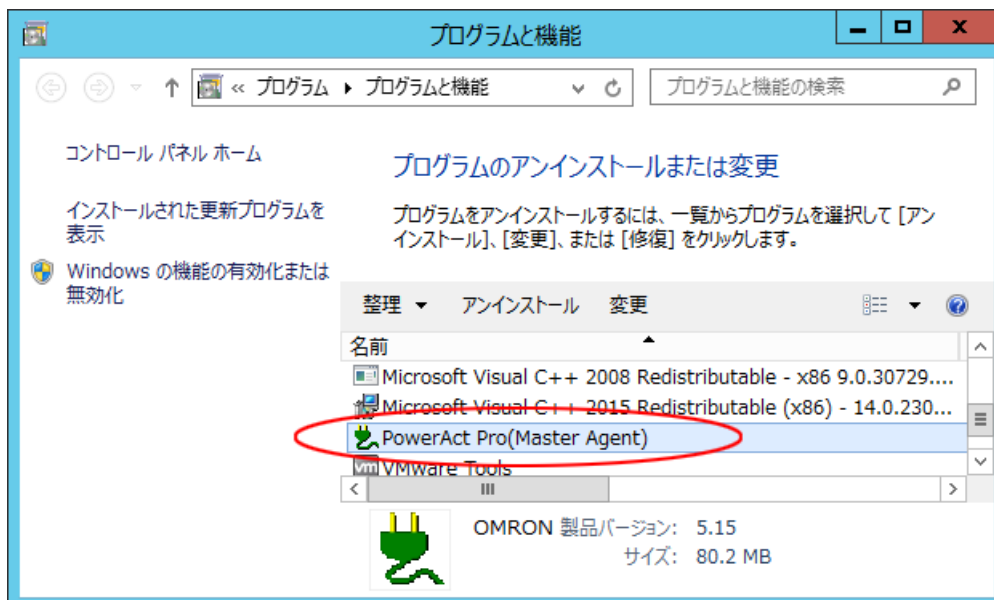
☞ P.922 「付-1-3 UPS の出力停止前に復電した場合の注意点」

以上でシャットダウンテストは終了です。

6 アンインストール（削除）方法

6-1 本ソフトウェアのアンインストール

- 1 [コントロールパネル] → 「プログラムと機能」の「PowerAct Pro(Master Agent)」をダブルクリックする

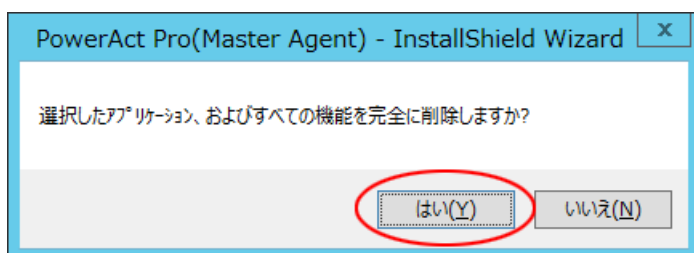


参考

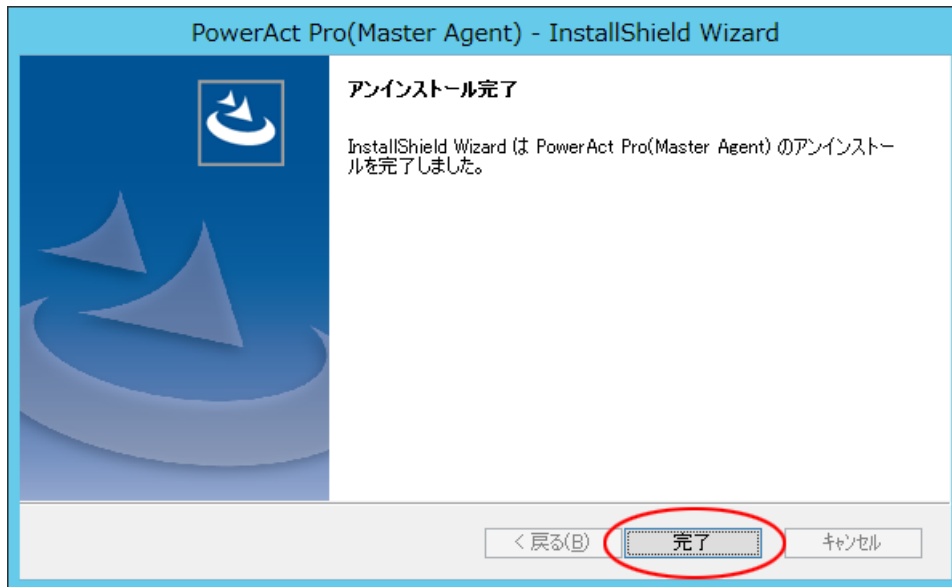
本ソフトウェアはインストーラーを使って削除することもできます。

インストーラーで削除する場合は、インストールした本ソフトウェアと同じバージョンの setup.exe を起動し、画面の指示に従って削除してください。

- 2 [はい(Y)] ボタンをクリックする



3 [完了] ボタンをクリックする



4 Windows Server 2012 R2 を再起動する

以上で本ソフトウェアのアンインストールは終了です。

7 こんなときには

7-1 「HTTPポートをチェック」の警告が出たら

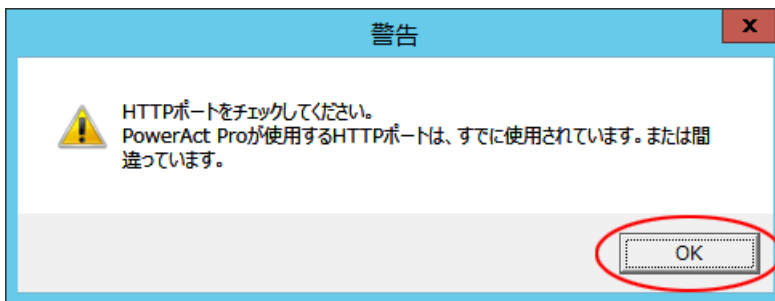
本ソフトウェアのインストール途中に「HTTPポートをチェック」の警告画面が表示されることがあります。

この場合、本ソフトウェアで使用するHTTPポートを別のプログラムで使用している状態です。

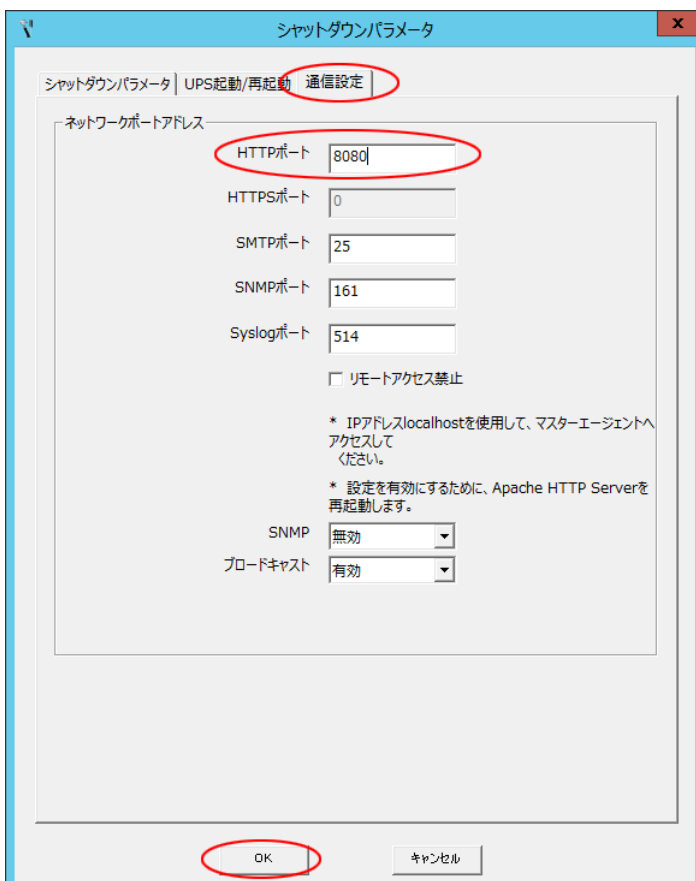
別のプログラムのHTTPポート番号と重複しないようにIISのポート番号を変更してください。

7-1-1 本ソフトウェアのインストール途中でポート番号を変更する

- 1 [OK] ボタンをクリックする



- 2 [通信設定] タブの「HTTPポート」を変更し [OK] ボタンをクリックする



参考

HTTP ポート番号の初期値 : 80

本例では HTTP ポートを 80 から 8080 に変更しています。

注意

「SSL による暗号化通信を使用する」を選択した場合は、HTTPS ポート番号を変更してください。

HTTPS ポート番号の初期値 : 443

7-1-2 インストール完了後に HTTP ポート番号を変更する

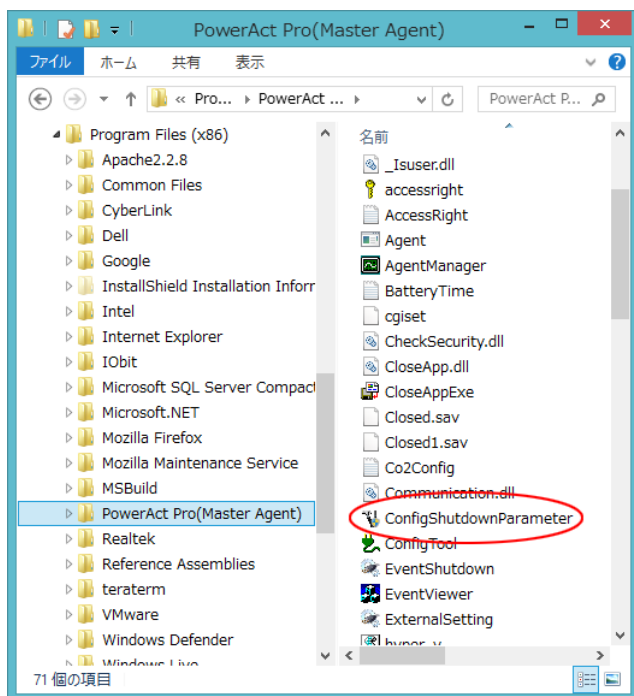
- 1 タスクトレイの常駐アイコンを右クリックし [エージェント停止] を選択する



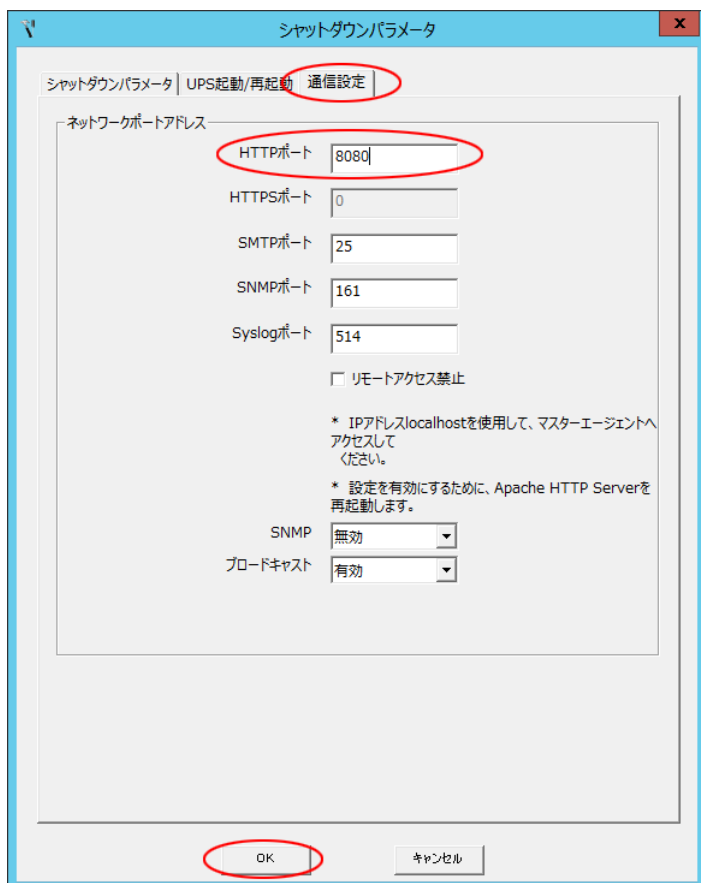
- 2 常駐アイコンに×が付くことを確認する



- 3 [Program Files (x86)] フォルダ→ [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダの [ConfigShutdownParameter.exe] をダブルクリックする



- 4 [通信設定] の「HTTPポート」を変更し、[OK] ボタンをクリックする



参考

本例では 80 を 8080 に変更しています。

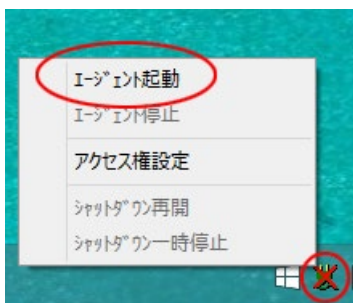
HTTP ポート番号の初期値 : 80

注意

「SSL による暗号化通信を使用する」を選択した場合は、HTTPS ポート番号を変更してください。

HTTPS ポート番号の初期値 : 443

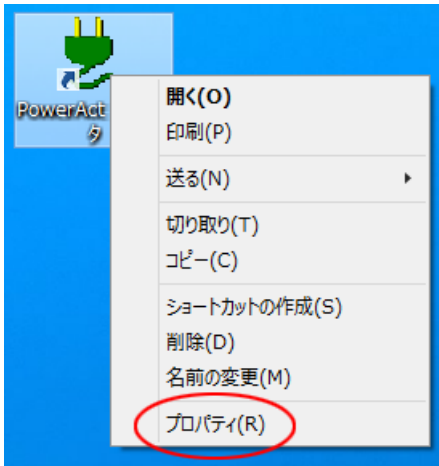
- 5 常駐アイコンを右クリックし [エージェント起動] を選択する



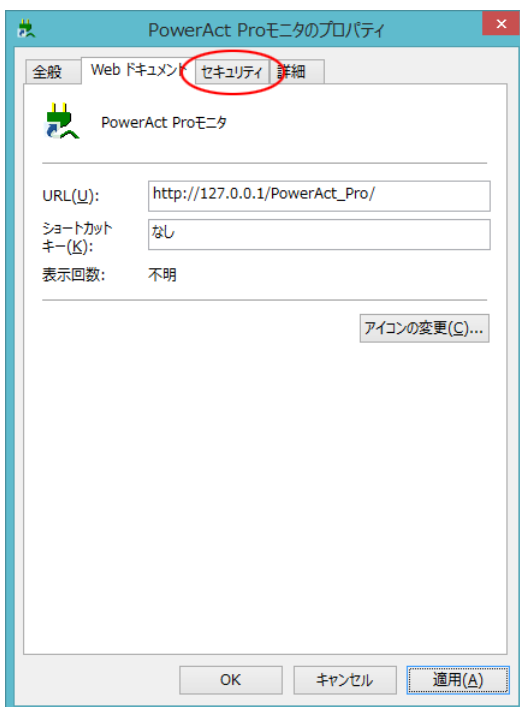
6 常駐アイコンの×が消えることを確認する



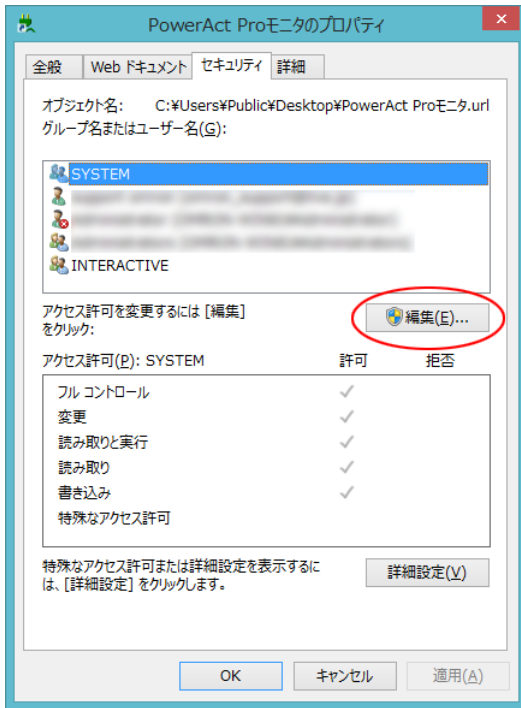
7 デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] を右クリックし [プロパティ] を選択する



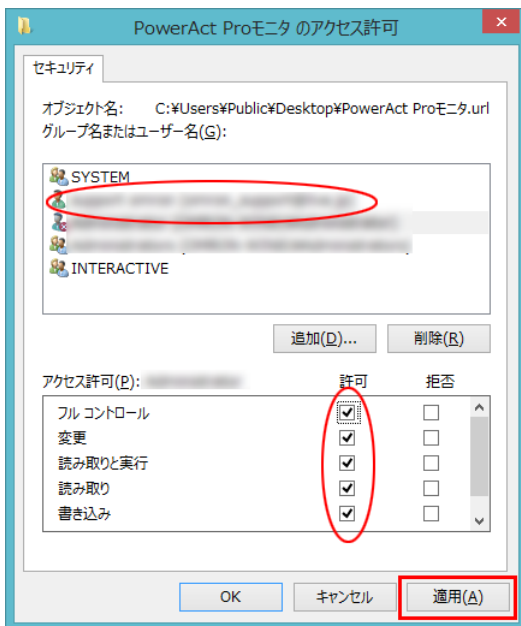
8 [セキュリティ] タブをクリックする



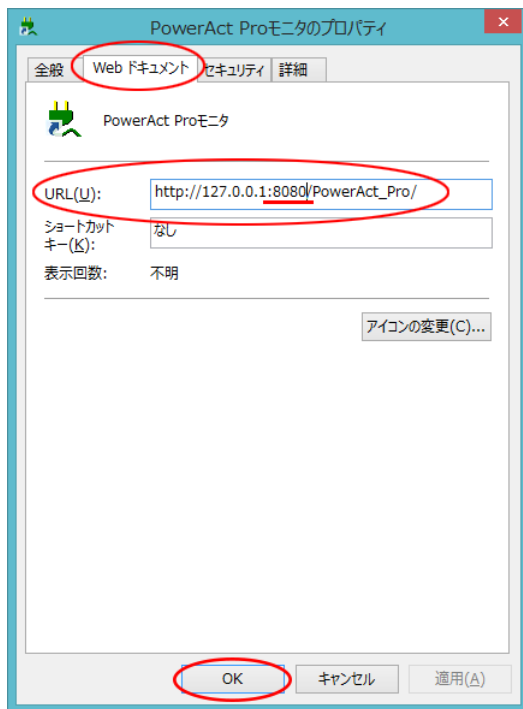
9 「編集(E)」 ボタンをクリックする



10 「グループ名またはユーザー名(G):」 欄でログイン中のユーザ名をクリック、「アクセス許可(P):」 欄の「フルコントロール」にチェックし、「適用(A)」 ボタンをクリックする



11 [Web ドキュメント] タブの「URL(U):」欄でポート番号を修正し [OK] ボタンをクリックする

**参考**

ポート番号は、手順4 (P.64) で変更したものに修正してください。

例) ポート番号を 80 から 8080 に変更した場合

http://127.0.0.1:**80**/PowerAct_Pro/

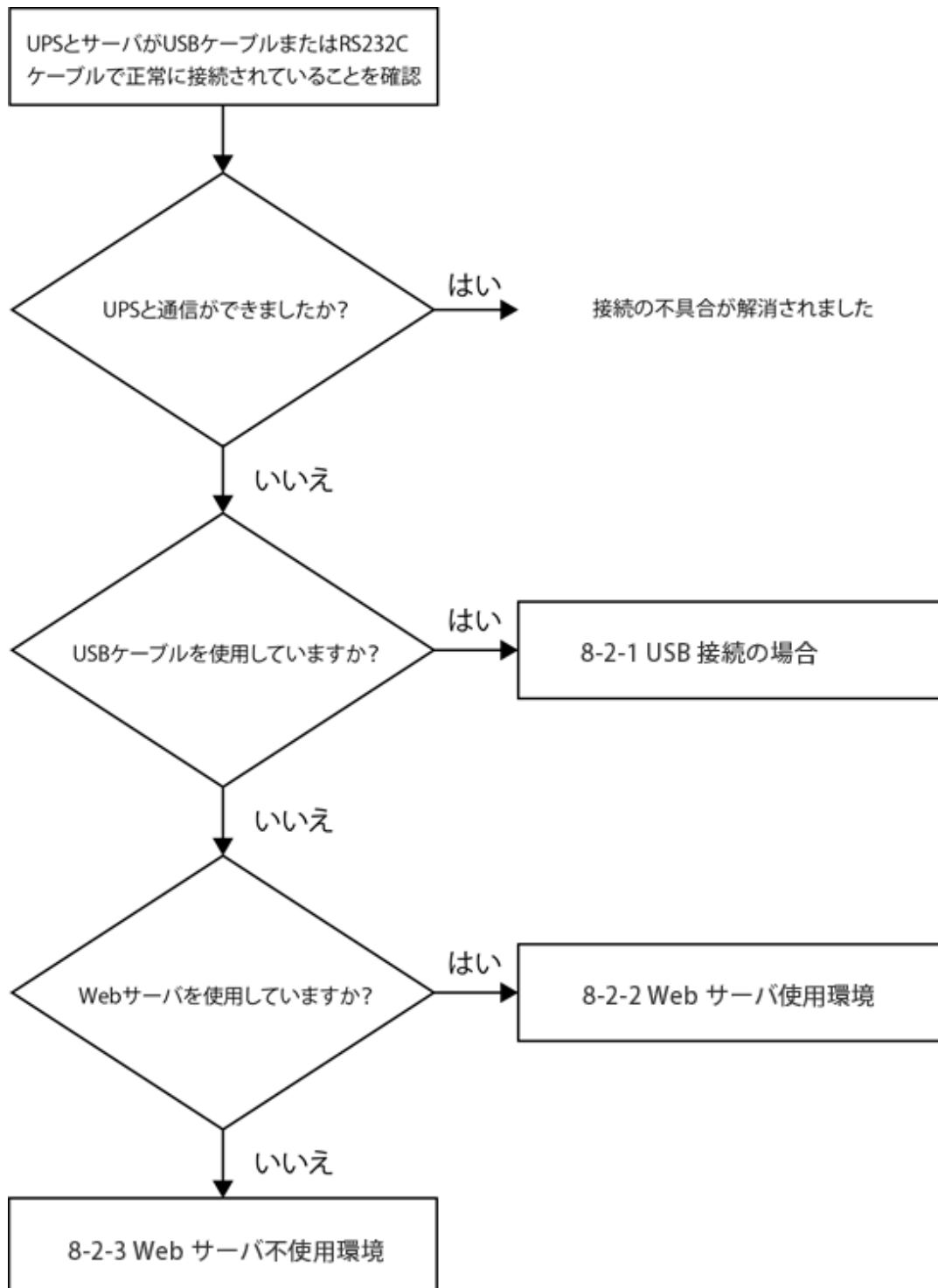
↓

http://127.0.0.1:**8080**/PowerAct_Pro/

7-2 UPS と通信できない

本ソフトウェアは USB ポートまたは RS232C ポート（COM ポート）経由で UPS の状態をモニタします。

以下のチャートを参考に、本ソフトウェアと UPS の通信を確立してください。



7-2-1 USB 接続の場合

- 1 サーバから USB ケーブルを取り外す
- 2 USB ケーブルを再接続して、30 秒程度（UPS が再検出される時間）待つ

参考

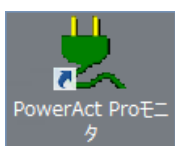
USB 通信が確立すると、常駐アイコンが「商用運転中」の表示になります。



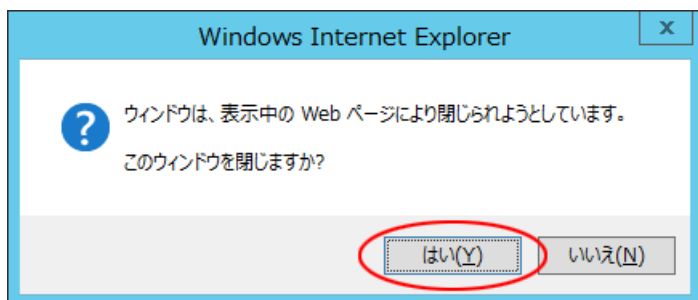
USB ケーブルを再接続しても通信が確立しない場合は、P.700「7-2-2 Web サーバ使用環境」または P.722「7-2-3 Web サーバ不使用環境」へ進んでください。

7-2-2 Web サーバ使用環境

- 1 デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] をダブルクリックする



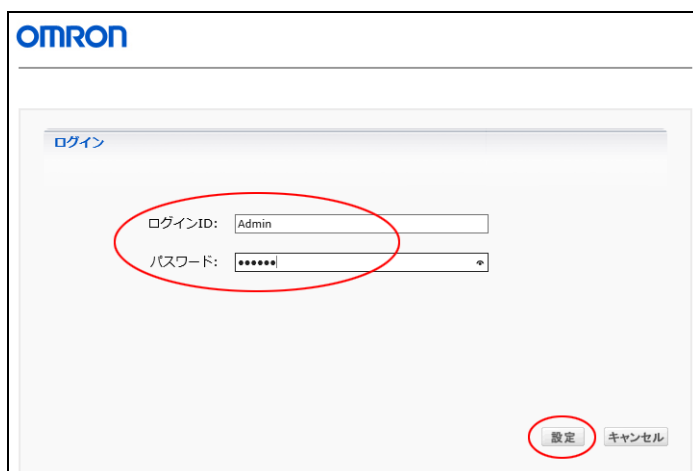
- 2 [はい(Y)] ボタンをクリックする



- 3 本ソフトウェアをインストールしたサーバ名をクリックする



- 4 「ログイン ID」に「Admin」、「パスワード」にインストール時に設定したパスワードを入力し [設定] ボタンをクリックする



注意

大文字/小文字は区別されます。

5 [環境設定] をクリックする



6 [通信設定] をクリックする

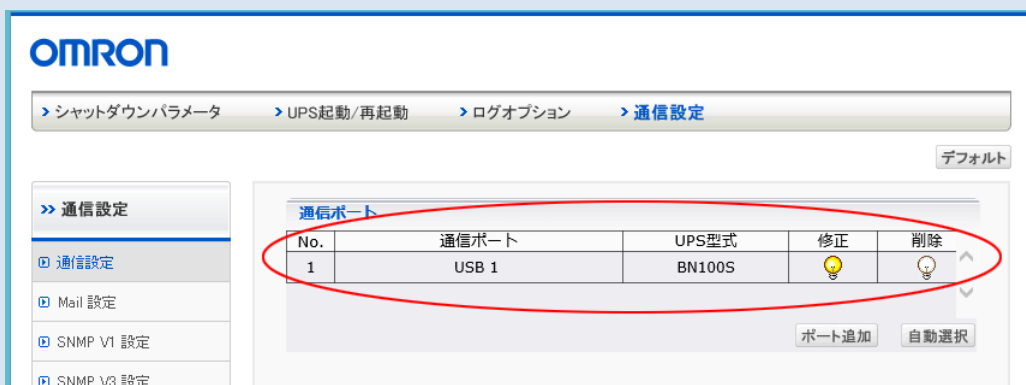


7 [自動選択] ボタンをクリックする



参考

「UPS 型式」が表示されれば通信が確立した状態です。



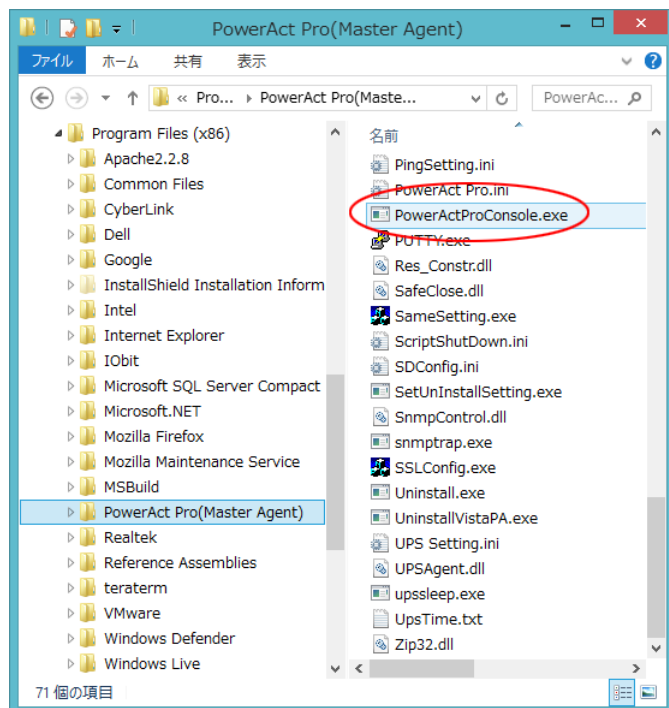
※通信ポートを「手動」で設定する場合は、[ポート追加] ボタンをクリックし、UPS を接続している COM ポートを選択してください。

8 「通信設定」、「PowerAct Pro モニタ」画面を閉じる

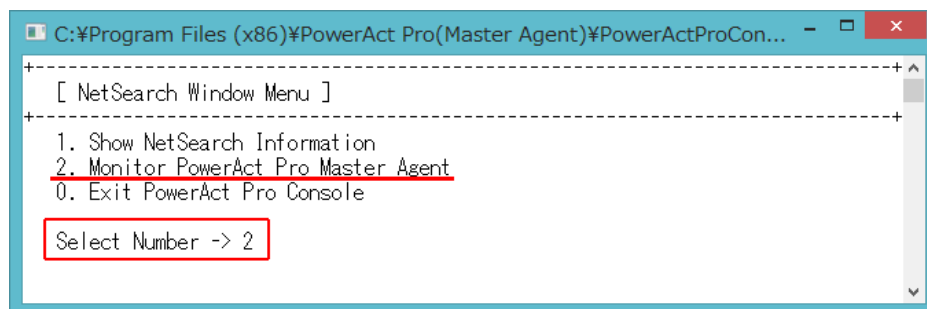
7-2-3 Web サーバ不使用環境

■通信ポートを「自動」で設定する

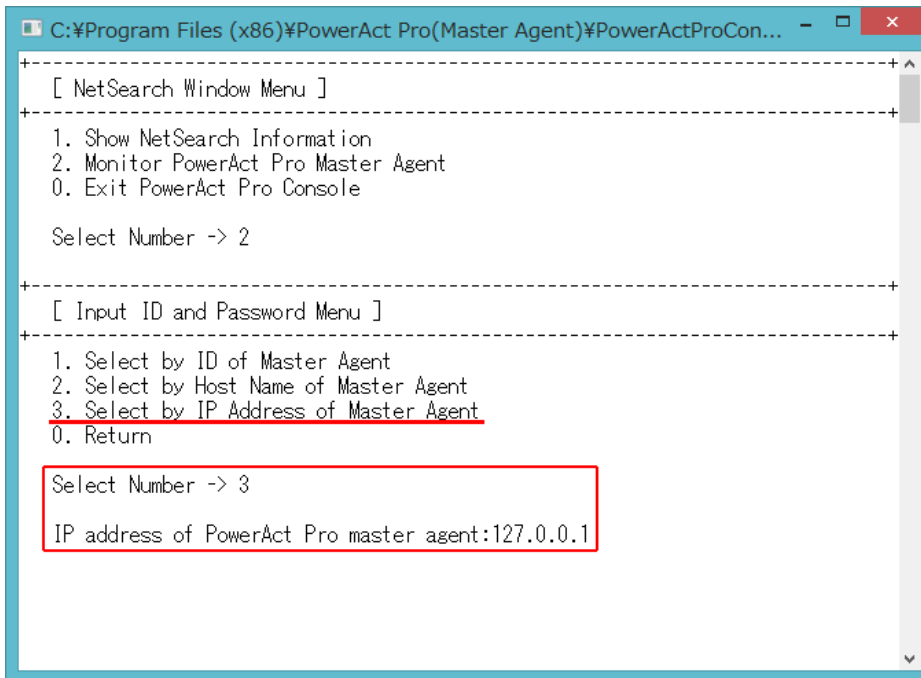
- 1 [Program Files (x86)] フォルダ→ [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダの [PowerActProConsole.exe] をダブルクリックする



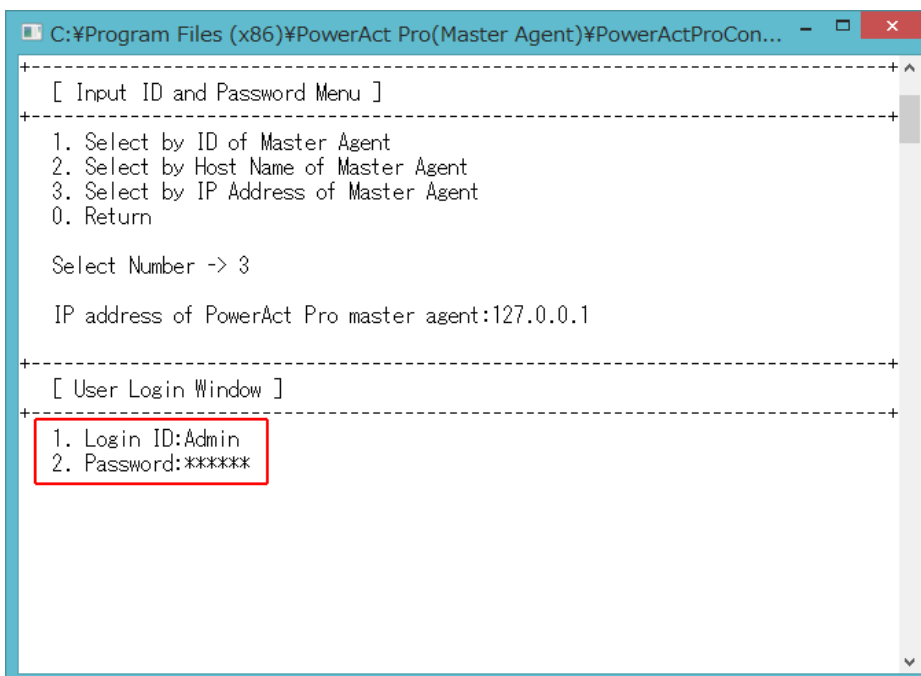
- 2 「2」を入力し「Enter」キーを押す



- 3 「3」を入力し「Enter」キーを押す
「IP address of PowerAct Pro master agent:」欄に「127.0.0.1」を入力し「Enter」キーを押す



- 4 「1. Login ID:」欄に「Admin」を入力し「Enter」キーを押す
「2. Password:」欄に本ソフトウェアのインストール時に設定したパスワードを入力し「Enter」キーを押す



5 キーボードの「Q」キーを押す

```

C:\Program Files (x86)\PowerAct Pro(Master Agent)\PowerActProCon...
=====PowerAct Pro Console Monitor=====
[PowerAct Pro Monitor (OMRON-WIN81/ Full Access)]
[Date And Time]: 2015-06-22 17:13:23
[Battery Use Date]: 2013-06-19 [Next Battery Replace Date]: 2016-06-19
-----[UPS Setting]-----
UPS Model: BN100S Buzzer Status: On
UPS Status: On Line Function Test Status: On
Output A: Output Start Battery Auto Test: Off
Output B: NoSupport UPS cold start status: Off
Output C: NoSupport Input Sensitivity: 100V/Standard
Battery Status: Normal UPS Auto Reboot: On
Additional Battery Unit: 0 Presumed Backup Time: 466
-----[UPS Data]-----
Input Voltage: 101.3V Input Frequency: 50.0Hz
Output Voltage: 102.0V Output Frequency: 50.0Hz
Load Level: 0% Battery Capacity: 100%
Communication Port: USB1 Test Result:
-----[Next Shutdown Start / Next UPS Restart]-----
Next Shutdown Start: Next UPS Restart:
-----[Last Two Events]-----
2015-06-22 17:01:15 [Battery change date] is updated [OMRON-WIN81 (Master) 20...
2015-06-22 17:00:34 [Battery change date] is updated [OMRON-WIN81 (Master) 20...
=====
Key "R" To Refresh UPS Data, Key "A" To AutoLoad UPS Data / 10 Seconds
Key "Q" To Quit The Monitor, Key "C" To Change The Current UPS Monitor

```

6 「1」を入力し「Enter」キーを押す

```

C:\Program Files (x86)\PowerAct Pro(Master Agent)\PowerActProCon...
-----+-----
PowerAct Pro Monitor (OMRON-WIN81) Main Menu
-----+-----
1. System Configuration
2. UPS Setting N/A
3. Manual Operation N/A
4. PowerAct Pro Monitor
5. Events Log
6. Data Log
7. CO2 Log N/A
8. Close Application Information
9. Help
0. Return To NetSearch

Select Number -> 1

```

7 「1」を入力し「Enter」キーを押す

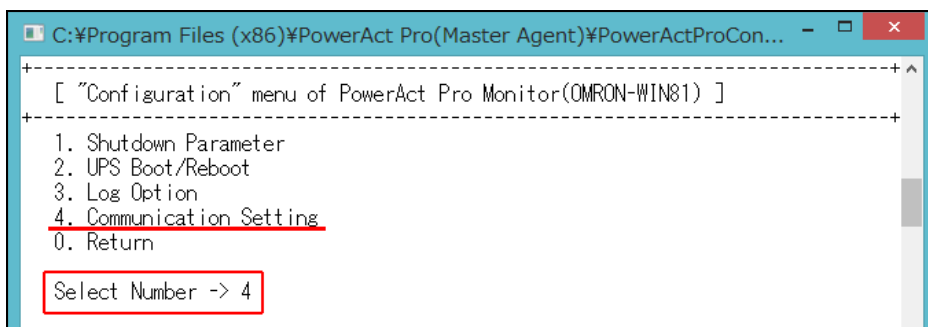
```

-----+-----
[ "System" menu of PowerAct Pro Monitor(OMRON-WIN81) ]
-----+-----
1. Configuration
2. Event
3. Schedule N/A
0. Return

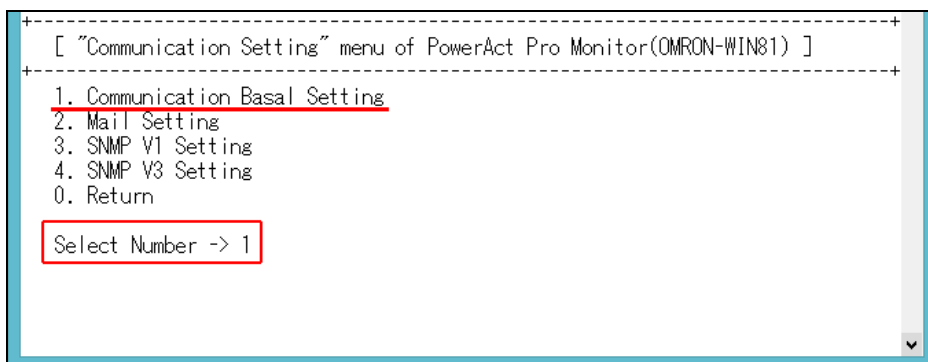
Select Number -> 1

```

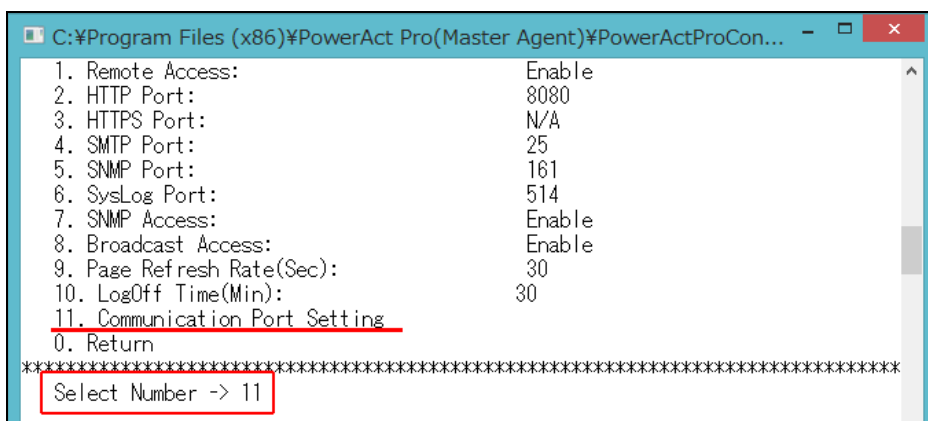
- 8 「4」を入力し「Enter」キーを押す



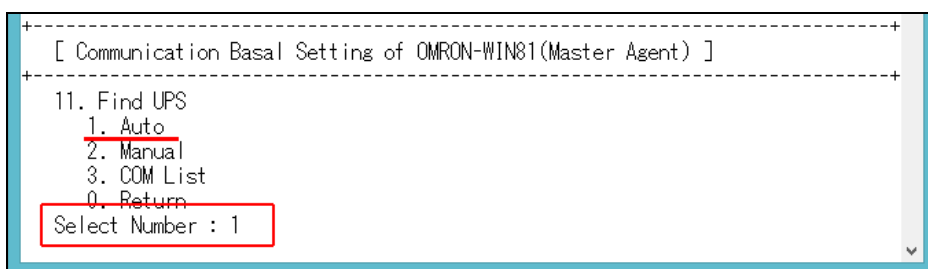
- 9 「1」を入力し「Enter」キーを押す



- 10 「11」を入力し「Enter」キーを押す

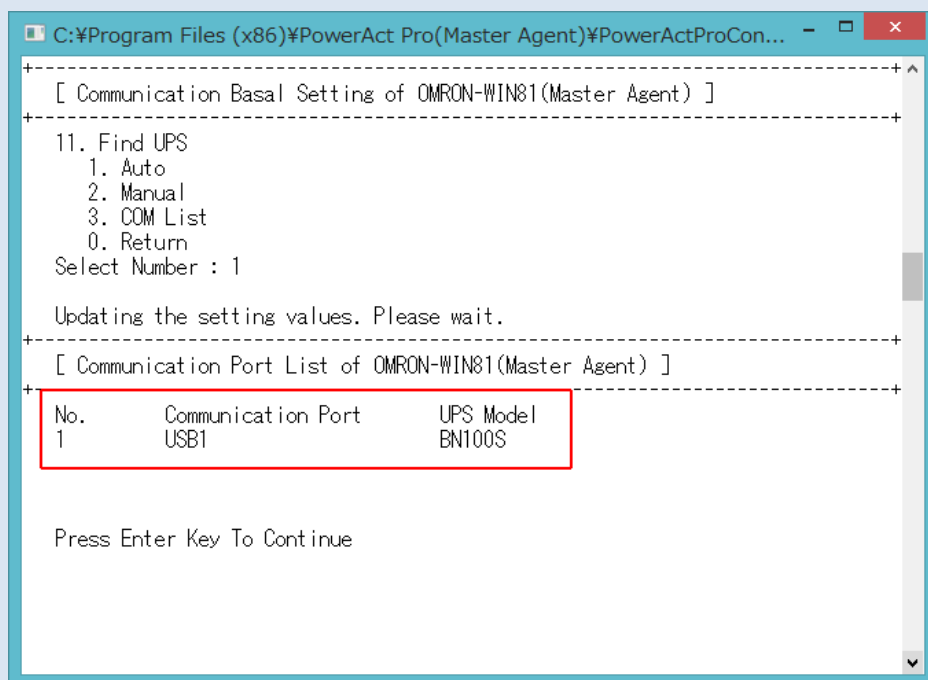


- 11 「1」を入力し「Enter」キーを押す



参考

「UPS Model」に接続している UPS の型式が表示されれば、UPS と通信が確立した状態です。
本例では USB ポートに BN100S を検出しています。



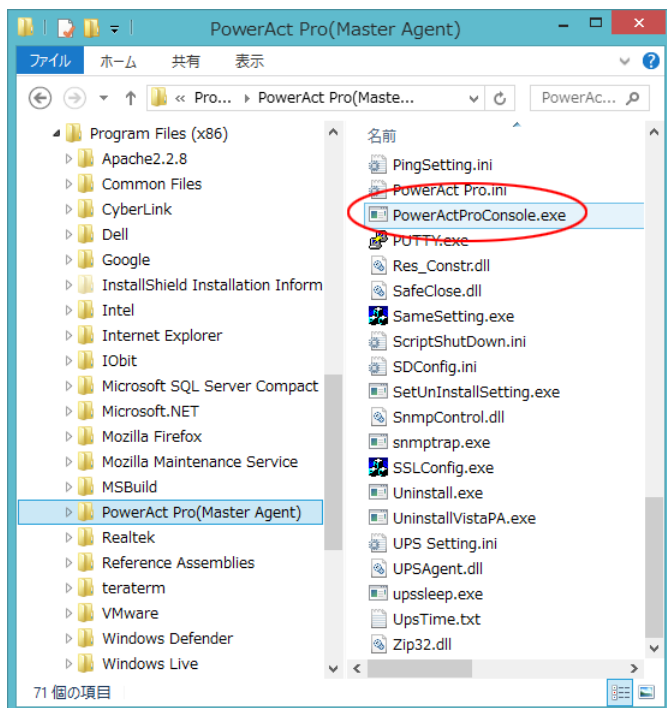
☞ 「Communication Port List」に UPS が自動検出されるまで時間がかかることがあります。

12 「Enter」キーを押し手順 11 の画面に戻る

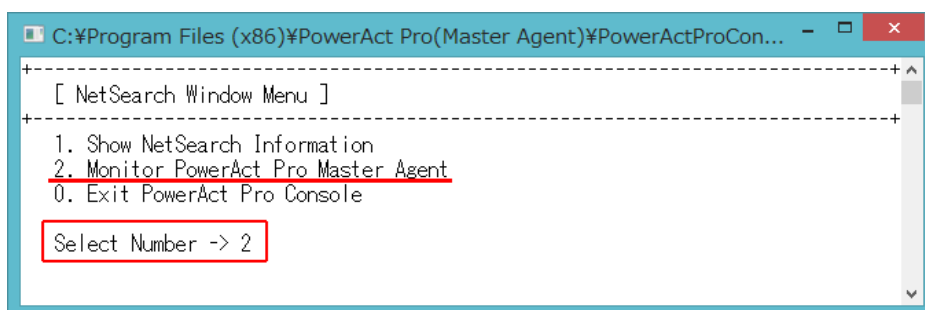
13 「0」を入力後「Enter」キーを押し一つ前の画面に戻る
以後同様の操作で「PowerActProConsole」を閉じる

■通信ポートを「手動」で設定する

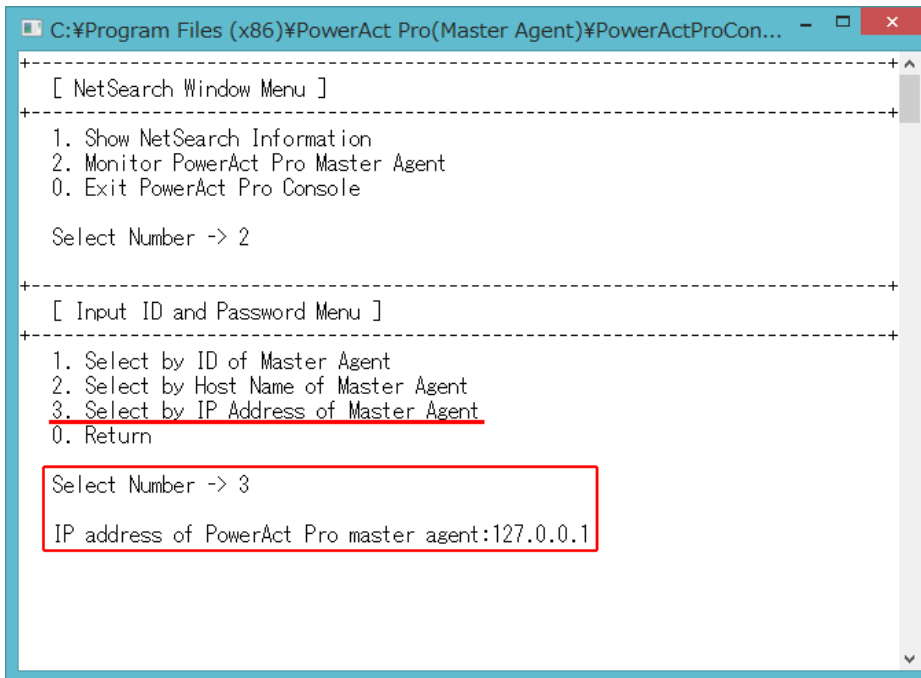
- 1 [Program Files (x86)] フォルダ→ [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダの [PowerActProConsole.exe] をダブルクリックする



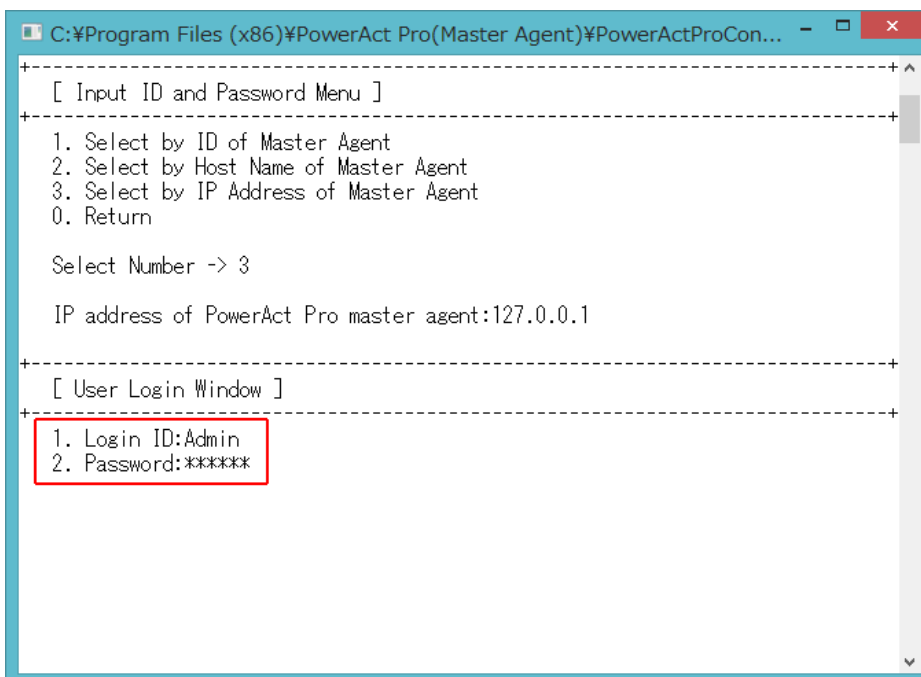
- 2 「2」を入力して、「Enter」キーを押す



- 3 「3」を入力し「Enter」キーを押す
「IP address of PowerAct Pro master agent:」欄に「127.0.0.1」を入力し「Enter」キーを押す



- 4 「1. Login ID:」欄に「Admin」を入力し「Enter」キーを押す
「2. Password:」欄に本ソフトウェアインストール時に設定したパスワードを入力し「Enter」キーを押す



5 キーボードの「Q」キーを押す

```

C:\Program Files (x86)\PowerAct Pro(Master Agent)\PowerActProCon...
===== [PowerAct Pro Console Monitor] =====
[PowerAct Pro Monitor (OMRON-WIN81/ Full Access)]
[Date And Time]: 2015-06-22 17:13:23
[Battery Use Date]: 2013-06-19 [Next Battery Replace Date]: 2016-06-19
-----[UPS Setting]-----
UPS Model: BN100S Buzzer Status: On
UPS Status: On Line Function Test Status: On
Output A: Output Start Battery Auto Test: Off
Output B: NoSupport UPS cold start status: Off
Output C: NoSupport Input Sensitivity: 100V/Standard
Battery Status: Normal UPS Auto Reboot: On
Additional Battery Unit: 0 Presumed Backup Time: 466
-----[UPS Data]-----
Input Voltage: 101.3V Input Frequency: 50.0Hz
Output Voltage: 102.0V Output Frequency: 50.0Hz
Load Level: 0% Battery Capacity: 100%
Communication Port: USB1 Test Result:
-----[Next Shutdown Start / Next UPS Restart]-----
Next Shutdown Start: Next UPS Restart:
-----[Last Two Events]-----
2015-06-22 17:01:15 [Battery change date] is updated [OMRON-WIN81 (Master) 20...
2015-06-22 17:00:34 [Battery change date] is updated [OMRON-WIN81 (Master) 20...
-----
Key "R" To Refresh UPS Data, Key "A" To AutoLoad UPS Data / 10 Seconds
Key "Q" To Quit The Monitor, Key "C" To Change The Current UPS Monitor

```

6 「1」を入力し「Enter」キーを押す

```

C:\Program Files (x86)\PowerAct Pro(Master Agent)\PowerActProCon...
-----+-----
PowerAct Pro Monitor (OMRON-WIN81) Main Menu
-----+-----
1. System Configuration
2. UPS Setting N/A
3. Manual Operation N/A
4. PowerAct Pro Monitor
5. Events Log
6. Data Log
7. CO2 Log N/A
8. Close Application Information
9. Help
0. Return To NetSearch

Select Number -> 1

```

7 「1」を入力し「Enter」キーを押す

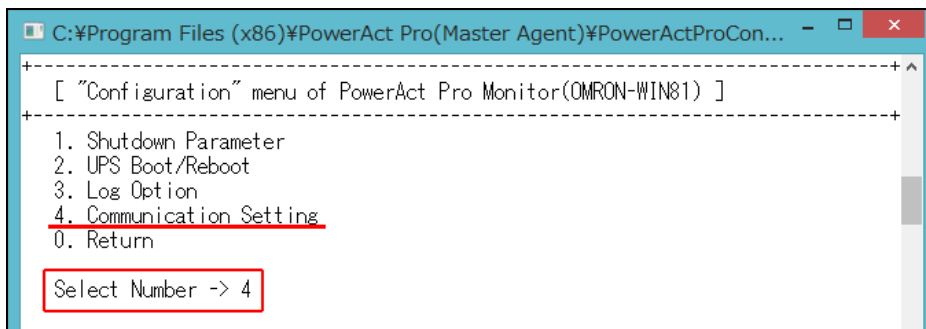
```

-----+-----
[ "System" menu of PowerAct Pro Monitor(OMRON-WIN81) ]
-----+-----
1. Configuration
2. Event
3. Schedule N/A
0. Return

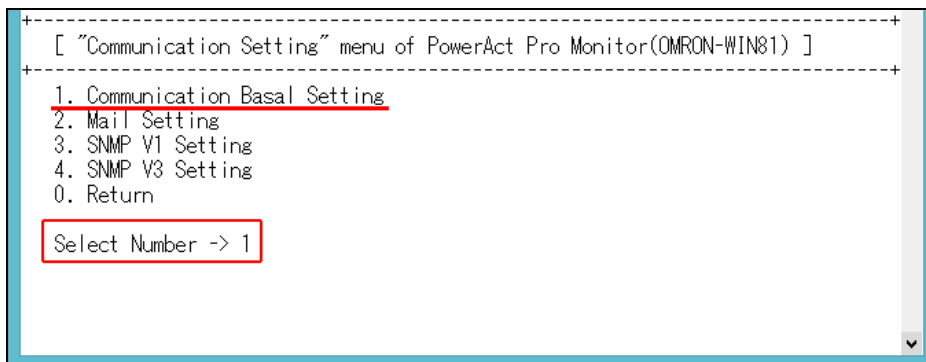
Select Number -> 1

```

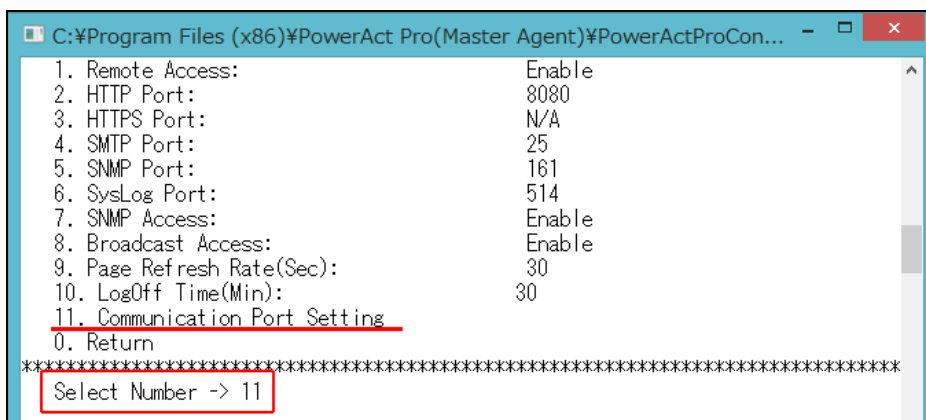

- 8 「4」を入力し「Enter」キーを押す



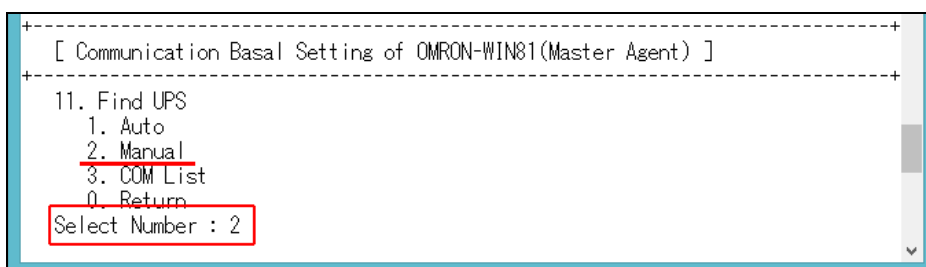
- 9 「1」を入力し「Enter」キーを押す



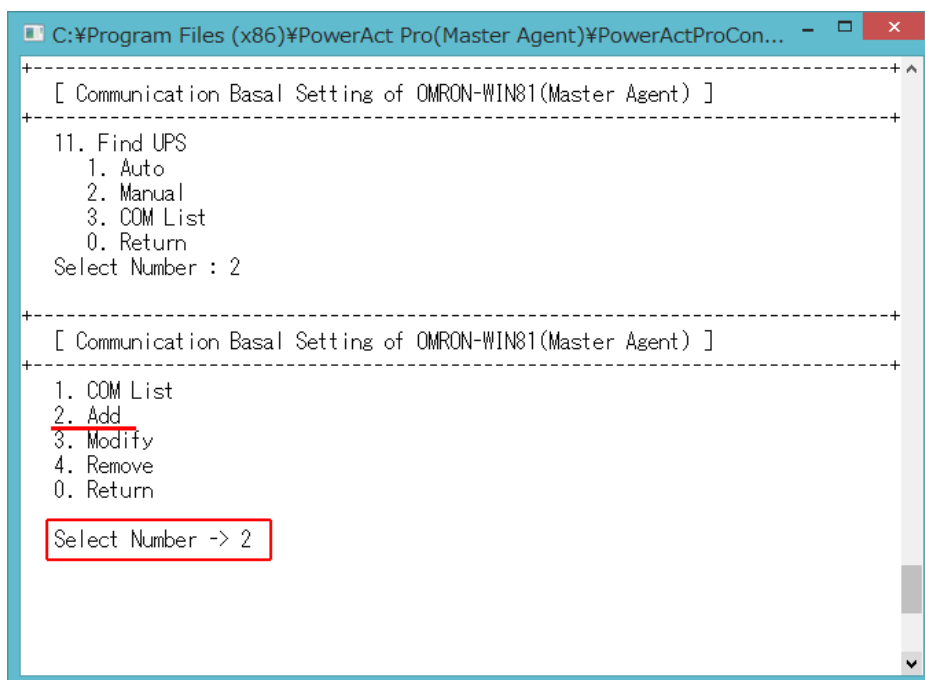
- 10 「11」を入力し「Enter」キーを押す



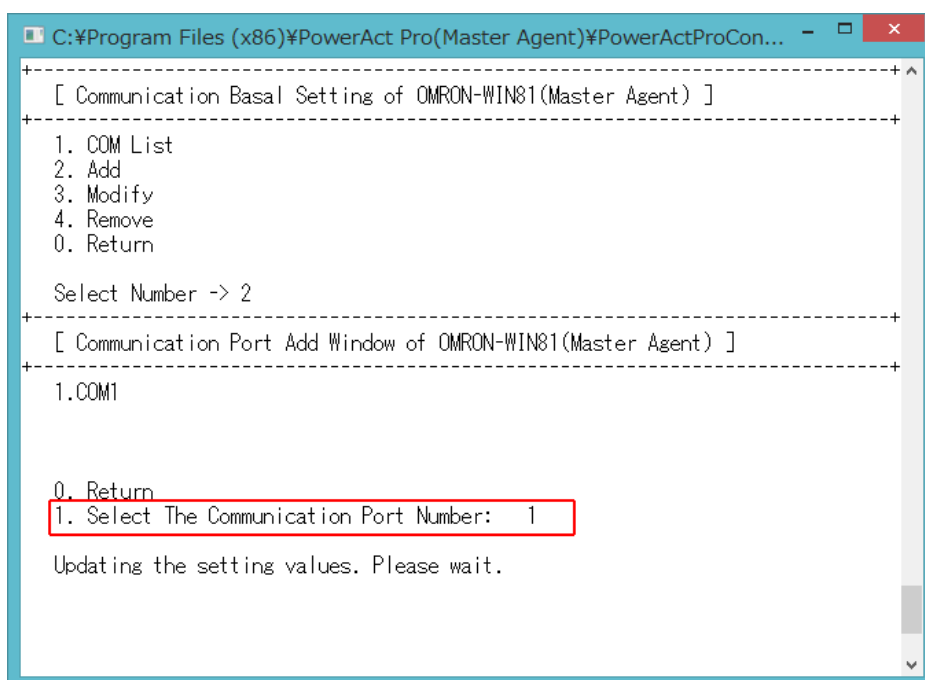
- 11 「2」を入力し「Enter」キーを押す



12 「2」を入力し「Enter」キーを押す

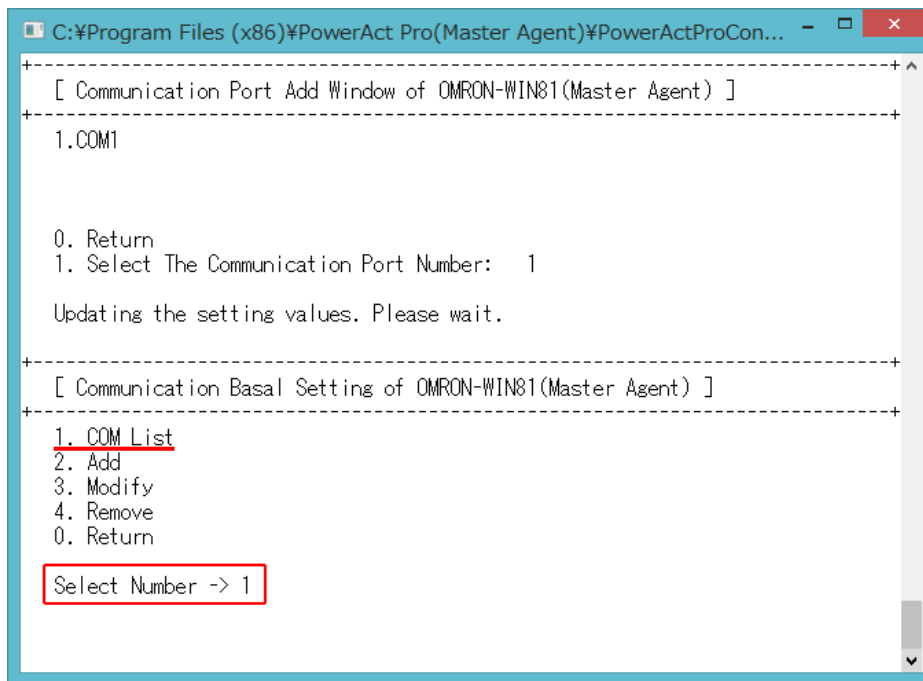


13 UPS を接続している COM ポートを選択し「Enter」キーを押す

**参考**

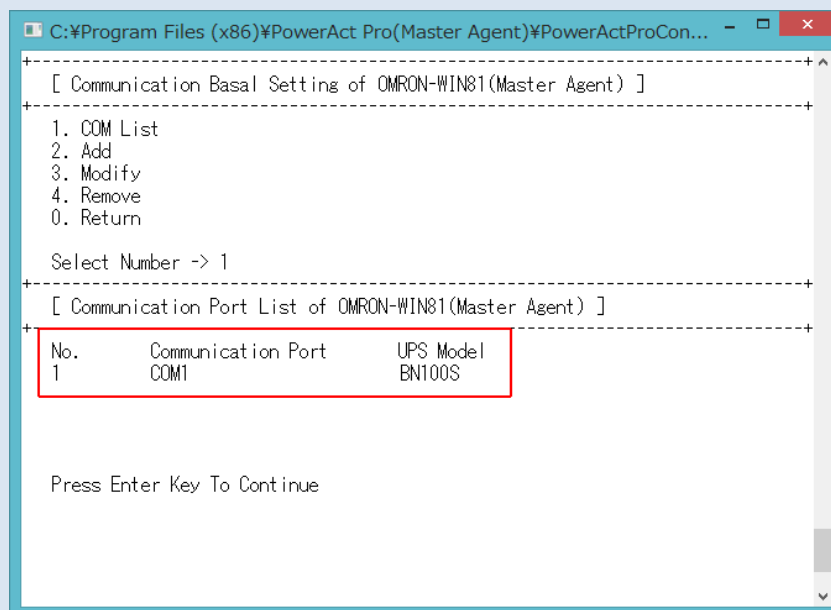
「2.Add」を選択すると、コンピュータのシリアルポートがリスト表示されます。本例ではシリアルポートが COM1 のみの為、「1」の COM1 を選択しています。

14 「1」を入力し「Enter」キーを押す

**参考**

「1.COM List」ではUPS との通信状況が確認できます。

UPS を接続してある COM ポートと UPS の型式が表示されます。



※ 「UPS Model」に接続しているUPS の型式が表示されれば、UPS との通信が確立した状態です。

本例ではCOM1 にBN100S を検出しています。

15 「Enter」キーを押し手順11の画面に戻る

16 「0」を入力し「Enter」キーを押し一つ前の画面に戻る

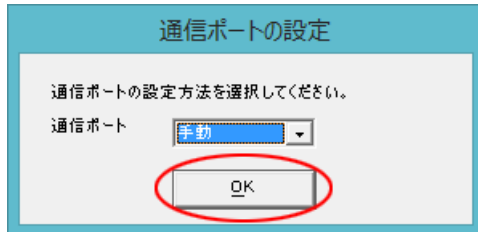
以後同様の操作で「PowerActProConsole」を閉じる

7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合

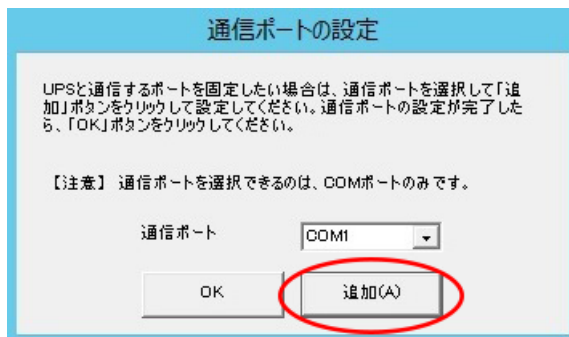
本ソフトウェアのインストール時に通信ポートを「手動」設定する手順です。

(☞P.エラー! ブックマークが定義されていません。手順 18、P.28 手順 12、P.45 手順 11)

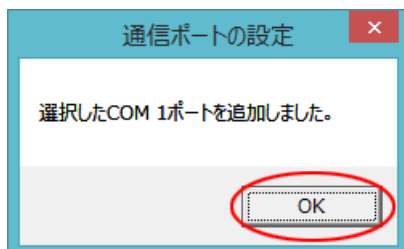
- 1 「手動」を選択して、[OK] ボタンをクリックする



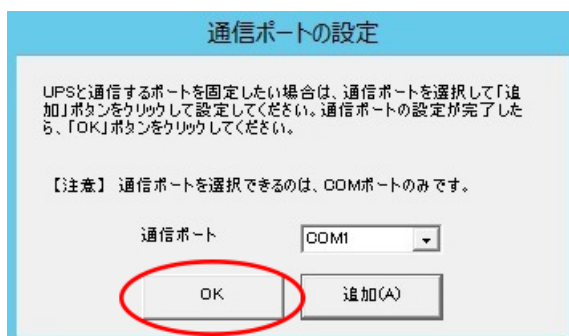
- 2 UPS を接続している COM ポートを選択し [追加(A)] ボタンをクリックする



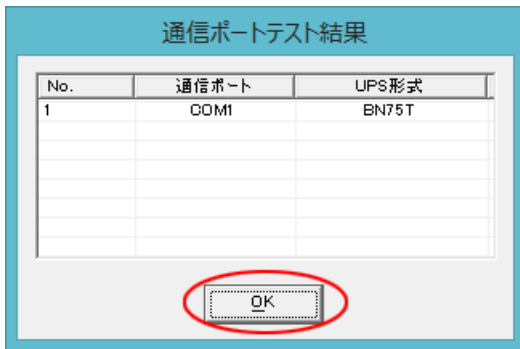
- 3 [OK] ボタンをクリックする



- 4 [OK] ボタンをクリックする



- 5 選択した COM ポートの通信結果を確認し [OK] ボタンをクリックする



- 6 本ソフトウェアのインストール手順に戻ります。

IIS を使用する場合	P.28 手順 14 参照
Web サーバを使用しない場合	P.46 手順 13 参照

7-3 復電時にサーバを自動起動させる

7-3-1 UPS とサーバの自動起動設定

入力電源異常で UPS がシャットダウンした後、復電時にサーバを自動起動させる場合は、UPS の設定とサーバの BIOS の設定をしてください。

1 復電時に UPS を自動起動する設定（工場出荷時設定）にする

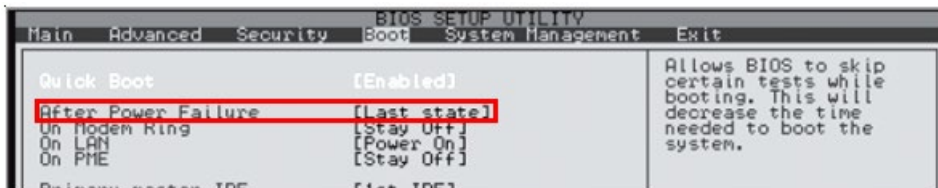
参考

- UPS の設定スイッチで設定する機種は、「2 番」を「OFF」にします。
設定スイッチを変更した後は UPS の再起動が必要です。
UPS の再起動方法等、設定の詳細は各 UPS の取扱説明書を参照してください。
- UPS の LCD メニューで設定する機種の場合、「セッテイ」→「キドウセッテイ」→「ジドウサイキドウ」で「ユウコウ」にチェックを入れます。

2 コンピュータの BIOS 設定を「復電時に自動起動する」設定にする

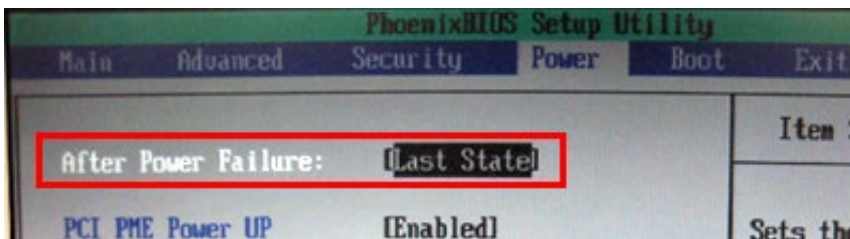
- NEC (Express5800)

[Boot] → [After Power Failure] → [Power On]



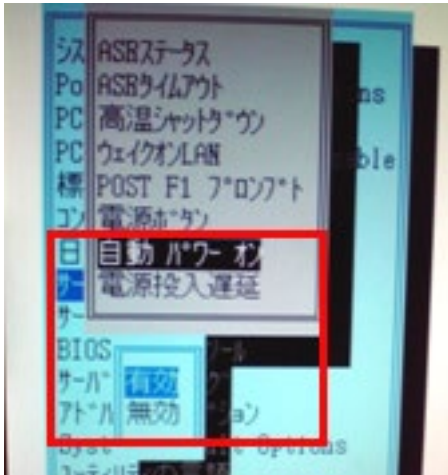
- HP (ProLiant DL145)

[Power] → [After Power Failure] → [Power On]



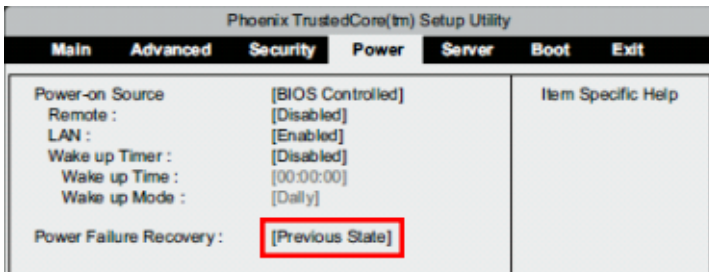
- ・ HP (ProLiant DL DL360G6)

[サーババイラビリティ] → [自動パワーオン] → [有効]



- ・ 富士通 (PRIMERGY RX100 S5)

[Power] → [Power Failure Recovery] → [Always On]



- ・ 日立 (HA8000)

BIOS セットアップメニューで「AC 入力でシステム装置を起動させる」に設定する

参考

BIOS 設定の詳細は、各コンピュータの取扱説明書を参照してください。

7-3-2 UPS 停止前に復電した場合にコンピュータが自動起動しない

OS がシャットダウンを開始した後、UPS が出力停止する前に復電した場合、UPS は出力停止した直後に自動起動するため、コンピュータへの給電を停止している時間が短くなります。

この給電停止時間が短いことが原因でコンピュータが起動しない可能性がありますので、「UPS 起動遅延時間」で給電停止時間を延ばして、コンピュータが自動起動するか確認してください。

参考

コンピュータは入力電源の停止時間が短いと、内部に蓄積された電力が抜けきらず入力電源が OFF になったことを検出できないことがあります。

コンピュータ内部に蓄積された電力が完全に抜けきる時間はコンピュータ毎に異なりますので、使用している機種に合わせて「UPS 起動遅延時間」を調節してください。

■ Web サーバ使用環境

- 1 デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] にログインし、[環境設定] → [UPS 起動／再起動] を開く
- 2 「UPS 起動遅延時間」を長くして、[設定] ボタンで更新する



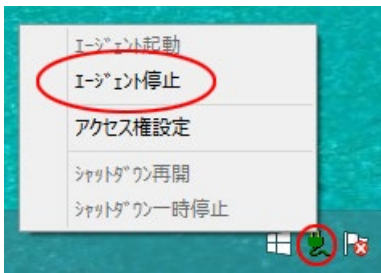
- 3 「UPS 起動／再起動」画面を [キャンセル] ボタンで閉じる

4 [システム] → [ログオフ] で [PowerAct Pro モニタ] を閉じる



■ Web サーバ不使用環境

- 1 タスクトレイの PowerAct Pro 常駐アイコンを右クリックし [エージェント停止] を選択する



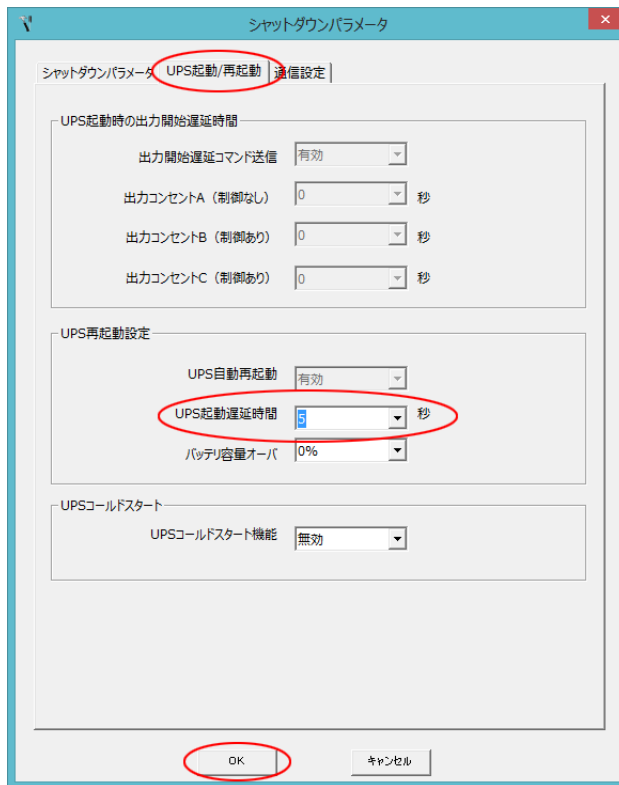
- 2 常駐アイコンに×が付くことを確認する



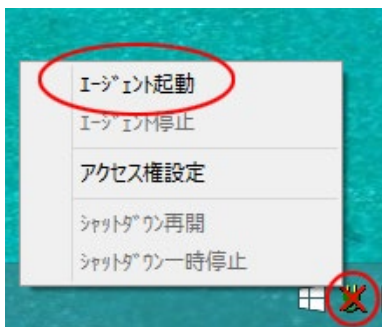
- 3 デスクトップの [シャットダウンパラメータ設定] をダブルクリックする



- 4 [UPS 起動/再起動] タブの「UPS 起動遅延時間」を延ばし [OK] ボタンをクリックする



- 5 常駐アイコンを右クリックし [エージェント起動] を選択する



- 6 常駐アイコンのXが消えることを確認する



付 録

付-1 シャットダウン動作シーケンス

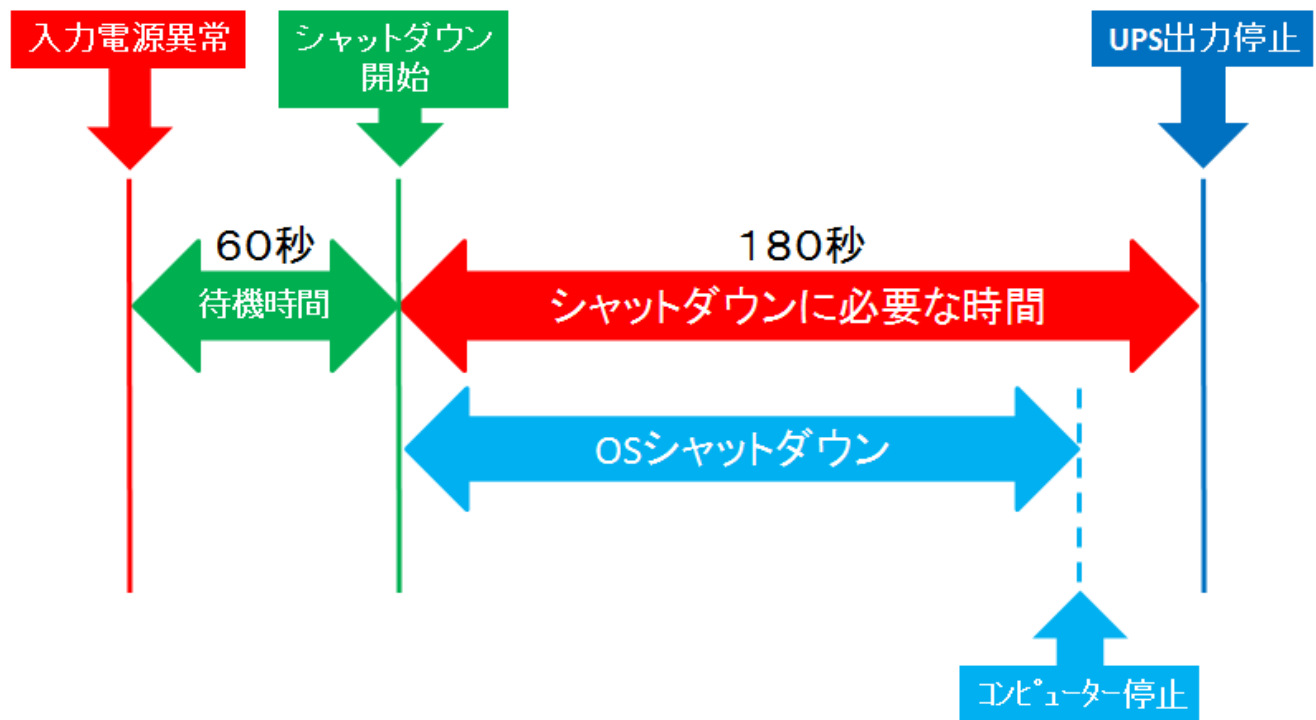
付-1-1 初期設定値の動作シーケンス

初期設定

- ・待機時間：60 秒
- ・シャットダウンに必要な時間：180 秒
- ・UPS 自動停止：する

本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから約 60 秒後に OS のシャットダウンが開始されます。

OS のシャットダウン開始から約 180 秒後に UPS が出力停止します。

**参考**

初期値では本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから UPS が出力停止するまで約 240 秒かかります。

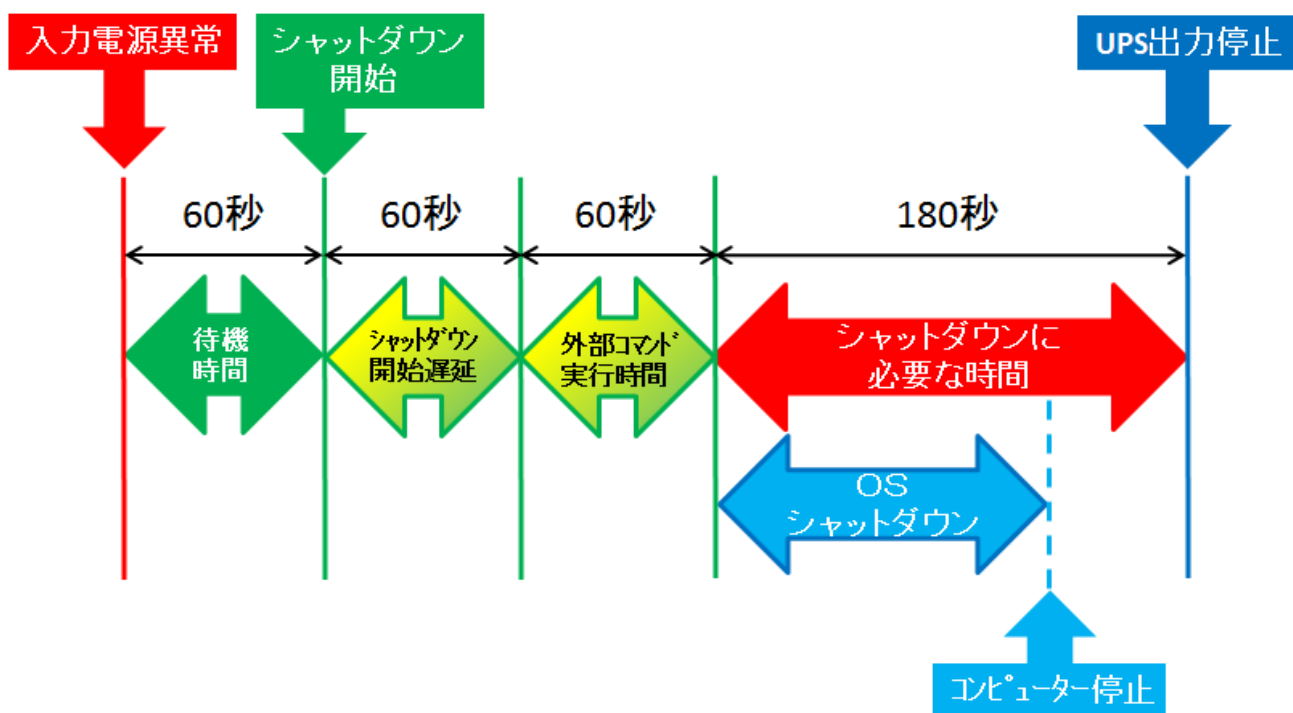
付-1-2 応用設定した場合の動作シーケンス

設定例

- ・ 待機時間 : 60 秒
- ・ **シャットダウン開始遅延 : 60 秒**
- ・ **外部コマンド実行時間 : 60 秒**
- ・ シャットダウンに必要な時間 : 180 秒
- ・ UPS 自動停止 : する

「シャットダウン開始遅延」と「外部コマンド実行時間」の設定がそれぞれ「60 秒」の場合、入力電源異常の検出から約 180 秒後に OS のシャットダウンが開始されます。

OS のシャットダウン開始から約 180 秒後に UPS が出力停止します。



参考

本設定では本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから UPS が出力停止するまで約 360 秒かかります。

「シャットダウン開始遅延時間」、「外部コマンド実行時間」、「シャットダウンに必要な時間」の合計は、出力コンセント制御機能のある UPS で最大 1800 秒、出力コンセント制御機能のない UPS で最大 600 秒です。

出力コンセント制御機能のある UPS は以下の通りです。

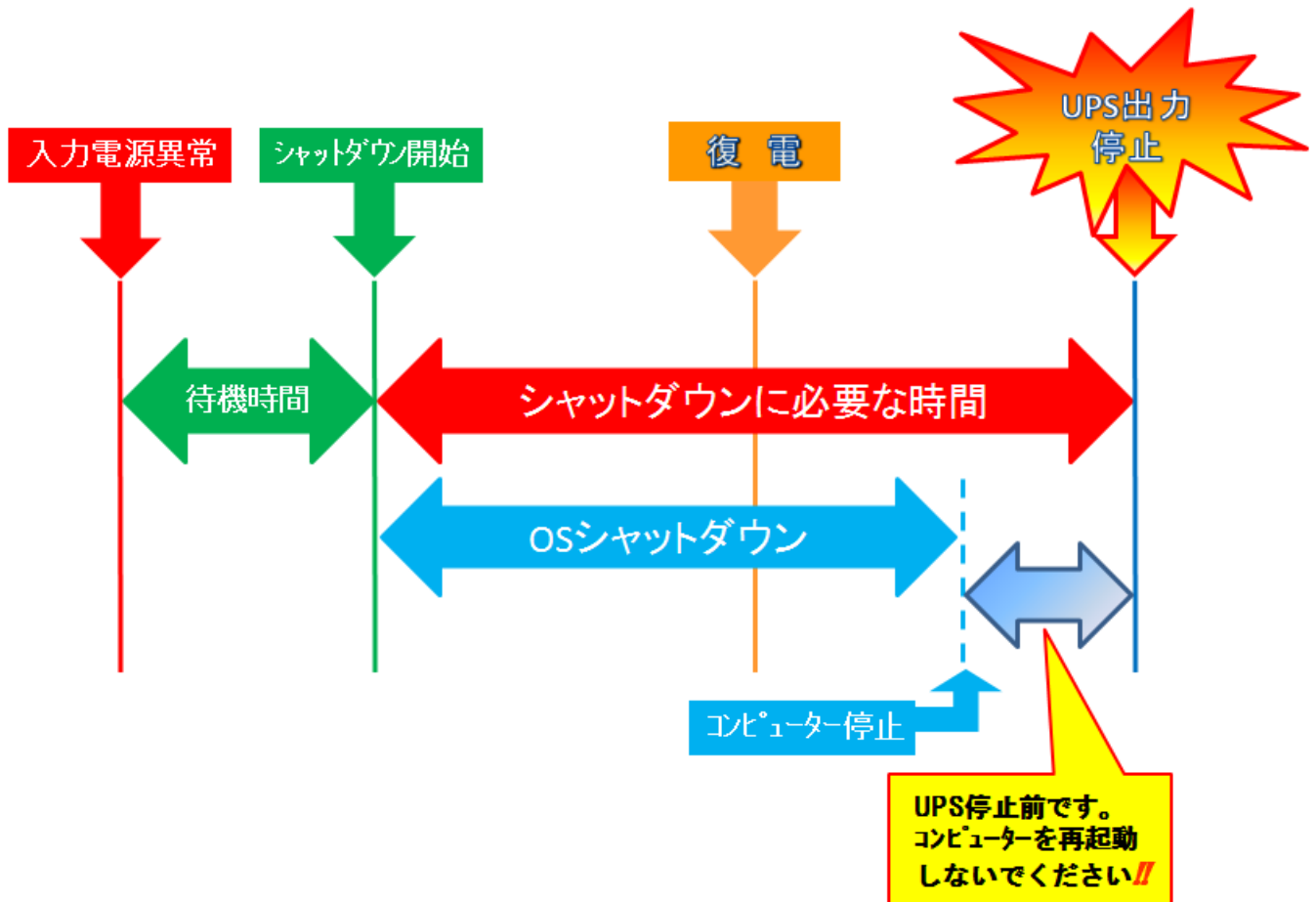
- ・ BU3002R
- ・ BU1002SW/BU3002SW
- ・ BU75RW/BU100RW/BU200RW/BU300RW
- ・ BU150R
- ・ BN100T/BN150T/BN220T/BN300T
- ・ BN75R/BN150R/BN300R
- ・ BV55REM/BV55RE

付-1-3 UPS の出力停止前に復電した場合の注意点

UPS が「自動停止する」設定では、OS のシャットダウンが開始されると、UPS は必ず出力停止します。

UPS の出力停止前にコンピュータの電源を入れると、OS の起動途中または起動後に UPS が出力停止する為、故障の原因となる恐れがあります。

コンピュータを手動で起動する前に、必ず、UPS が出力停止した後であることを確認してください。



参考

UPS が自動停止する前にコンピュータを起動したい場合は、一旦 UPS を再起動（電源スイッチ操作で OFF / ON する）し、出力停止タイマーをリセットしてください。

本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されております。
本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社

© OMRON SOCIAL SOLUTIONS Co., Ltd. 2018
K1L-D-16011C